

福島県県立病院改革プラン取組状況報告書

資料 2



福島県病院局

平成 23 年 8 月

～ 目次 ～

第1 改革プランの基本的な考え方

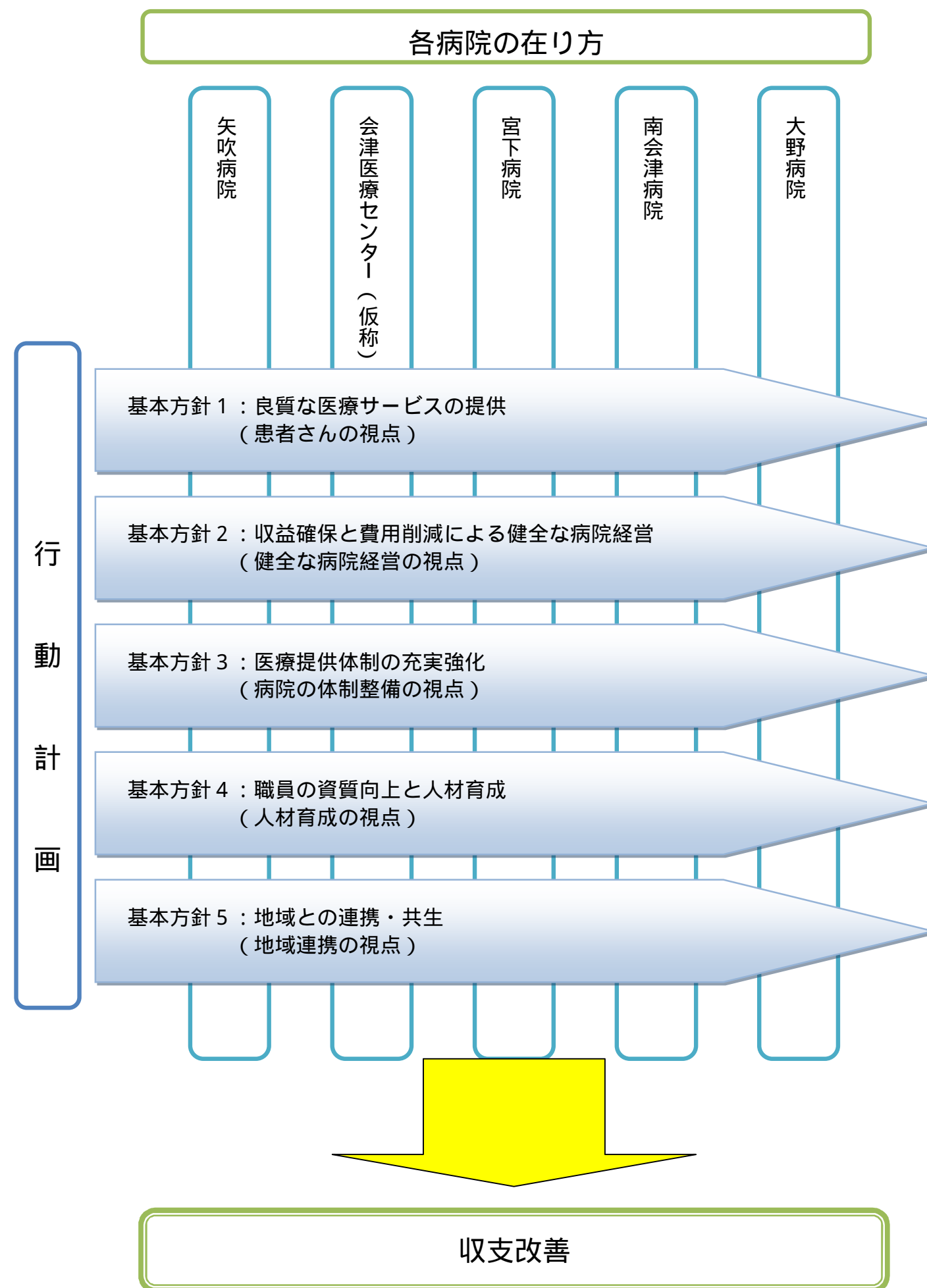
- 1 県立病院概要・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ P 1
- 2 改革プランの概要・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ P 2

第2 評価方法

- 1 自己評価方法について・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ P 3
- 2 自己評価基準について・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ P 3

第3 自己評価

- 1 県立病院の在り方
 - (1) 矢吹病院・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ P 4
 - (2) 会津医療センター(仮称)(喜多方病院・会津総合病院)・・・・・・ P 6
 - (3) 宮下病院・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ P 8
 - (4) 南会津病院・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ P 10
 - (5) 大野病院・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ P 12
- 2 行動計画
 - (1) 基本方針1：良質な医療サービスの提供・・・・・・・・・・ P 16
 - (2) 基本方針2：収益確保と費用削減による健全な病院経営・・・・・・ P 22
 - (3) 基本方針3：医療提供体制の充実強化・・・・・・・・・・ P 30
 - (4) 基本方針4：職員の資質向上と人材育成・・・・・・・・・・ P 35
 - (5) 基本方針5：地域との連携共生・・・・・・・・・・ P 41
- 3 収支計画
 - (1) 平成22年度県立病院事業会計決算の概要・・・・・・・・・・ P 49
 - (2) 県立病院事業の収支計画について・・・・・・・・・・ P 50
 - (3) 各病院の収支計画について・・・・・・・・・・ P 51
 - (参考) 福島県県立病院病院別経営指標一覧・・・・・・・・・・ P 57



県立病院概要

福島県立病院は、昭和２４年に日本医療団から譲り受けた７病院１７診療所を主体として発足し、その後医療行政の一環として、地域における病院の設置、他の公共団体に対する移管等を行い、現在は６病院となっている。

(平成２３年６月１日現在)

病院名	開設年月	標榜診療科名 ()は非常勤医師の診療科 【 】は休診中の診療科	病 床 数				計	看護体制	職 員 数								H22 合計	H21 合計
			一般	結核	精神	感染症			医師	看護	薬剤	給食	医療 技術 職	事務	その他 職員			
矢 吹	昭和 30 年 11 月	精神科 内科・(歯科)			206		206	15 対 1 看護補助加算 1	7	85	3	6	9	6	1	117	119	
喜 多 方	昭和 24 年 7 月	内科・外科 (整形外科)・(皮膚科)・(眼科)	50				50	10 対 1	4	38	3	3	6	8	0	62	63	
会津総合	昭和 28 年 6 月	内科・循環器科・呼吸器科 消化器科・血液内科・漢方内科 外科・整形外科 神経内科・皮膚科・麻酔科 耳鼻いんこう科・神経精神科 リハビリテーション科・歯科 婦人科【産科】 (泌尿器科)・(眼科)・(放射線科) 【心臓血管外科】・【小児科】	204	50	47	8	309	(一般) 7 対 1 (結核) 15 対 1 看護補助加算 1 (精神) 15 対 1 看護補助加算 2	31 (15)	163	8	16	31	18	1	268 (15)	269	
宮 下	昭和 26 年 11 月	内科・外科 (整形外科)・(皮膚科) (耳鼻いんこう科)・(神経精神科)	32				32	7 対 1	6	20	2	1	1	5	0	35	37	
南 会 津	昭和 24 年 7 月	内科・外科・整形外科 耳鼻いんこう科・眼科・麻酔科 小児科・(神経内科)・ (産婦人科)・(皮膚科) (神経精神科)・(泌尿器科)	100				100	7 対 1	15	81	4	1	12	8	0	121	115	
大 野 休診中	昭和 26 年 12 月	内科・消化器科・外科 整形外科・小児科・麻酔科 (眼科)・(呼吸器科)・(泌尿器科) 【産婦人科】	146			4	150	7 対 1	1	71	4	8	14	2	0	100	121	
合 計			532	50	253	12	847		64 (15)	458	24	35	73	47	2	703 (15)	724	

*(15)は会津医療センター準備室教員

1 策定の主旨

◆県立病院事業は、平成16年4月から地方公営企業法の全部適用に移行し、平成19年3月末に3病院1診療所を廃止・移譲して6病院体制となった。福島県病院事業経営改善計画（平成19年3月26日行財政改革推進本部県立病院改革部会報告。以下「経営改善計画」という。）に基づき、医療機能の充実強化や経営改善に取り組んできた。

◆しかしながら、医師不足の深刻化等により、医療提供体制の維持が極めて厳しく、医療機能を十分に発揮できない状況にあり、また、常勤医師の退職や短期交替等に伴う診療体制の変更等による患者数の減少や、診療報酬のマイナス改定の影響などにより、多額の赤字が生じるなど、これまでにない厳しい経営状況となった。

◆こうしたことから、県として、平成19年12月の国の「公立病院改革ガイドライン」の趣旨を踏まえ、県立病院の在り方を再整理するとともに、経営改善計画の取組みを加速し、『地域に必要な質の高い医療の提供と病院経営の健全化』を基本目標とする「福島県県立病院改革プラン」を平成21年5月に策定した。

2 県立病院の在り方

◆地域に必要な医療を安定的かつ継続的に提供できる体制の構築を図ることを基本として、以下の見直しを行う。

病院名	果たすべき役割	経営形態
矢吹病院	民間病院では処遇困難な患者の受入れなどの精神医療の提供	県立病院として経営
会津医療センター （仮称） （会津総合と喜多方）	1 「診療」・「教育」・「研究」の3つの機能を柱とする 2 地域医療の確保や人材の育成等の拠点と位置づける	県立医科大学の附属病院に移行
宮下病院	へき地における医療提供	県立病院として経営
南会津病院	へき地における医療提供	県立病院として経営
大野病院	1 医療拠点としての中核的機能 2 二次救急医療への対応	双葉厚生病院と統合する方向で検討

3 行動計画

◆「親切・信頼・進歩」という県立病院基本理念の下、政策医療の確保を始め、地域に必要な質の高い医療の提供と病院経営の健全化に向け、以下の5つの基本方針により取り組む。

基本方針	主な取組
1 良質な医療サービスの提供	・電子カルテ導入（会津総合）【21年3月導入】 ・透析機器の増設（南会津） など
2 収益確保と費用削減による健全な病院経営	・常勤医師の確保や未利用財産の売却等 ・病棟再編・病床削減の実施（喜多・宮下・南会津） など
3 医療提供体制の充実強化	・県立医科大学等との連携強化 ・医師紹介事業者の活用など医師確保の充実強化 ・医師の処遇改善策の実施 など
4 職員の資質向上と人材育成	・各専門分野のスペシャリストの育成 ・民間実務経験者の採用 など
5 地域との連携共生	・国保診療所への診療応援 など

4 収支計画

◆上記の基本方針に基づき、病院経営の健全化に向けた目標を設定し、具体的な取組みを確実に実行する。

【経営健全化に向けた収支目標】

目標1：単年度赤字の漸次解消を図り、平成25年度までに収支均衡を目指す。

目標2：平成23年度までに資金不足の解消を目指す。

5 計画期間

（1）改革プラン全体：5年間（平成21～25年度）

（2）経営健全化等に向けた行動計画：3年間（平成21～23年度）

6 進行管理

（1）進捗状況については、毎年、取組状況及び自己評価結果を、有識者で構成される「県立病院事業経営評価委員会」から助言・意見をいただくとともに、ホームページ等で公表する。

（2）診療報酬の改定や患者の動向など、県立病院を取り巻く環境の変化に対応するため、必要に応じ、適切な見直しを行う。

1 自己評価方法について

◆平成21年5月に「福島県県立病院改革プラン」を策定し、地域に必要とされる質の高い医療の提供と病院経営の健全化を図るため、具体的な実施手順や数値目標を定め、各病院の行動計画に基づいてさらなる経営改善・充実強化、患者サービスの向上や医療安全対策の強化を図った。

◆また、県立病院の在り方を踏まえた改革を進めながら、「親切・信頼・進歩」という県立病院基本理念の下、BSC（バランスド・スコアカード）の考え方を活用し、5つの基本方針に基づく具体的な取組みを実行した。

◆これらの実施状況については、下記の『県立病院の在り方』、『行動計画の基本方針1～5に掲げる11の共通目標』、『全体の収支計画』に対して、それぞれ5段階の評価基準により自己評価を行った。

	評価項目		目標達成 自己評価	取組状況 自己評価
在 り 方	矢吹病院		—	○
	会津医療センター（仮称）（喜多方病院・会津総合病院）		—	○
	宮下病院		—	○
	南会津病院		—	○
	大野病院		—	○
行 動 計 画	基本方針1	◇医療の質の向上	—	○
		◇患者サービスの向上	○	○
	基本方針2	◇収益の確保	○	○
		◇未収金の発生防止と早期回収の強化	○	○
		◇費用の見直し	○	○
	基本方針3	◇診療体制及び経営基盤の強化	○	○
		◇医療安全対策の強化	○	○
	基本方針4	◇人材の育成と確保	○	○
		◇職員の意識改革	○	○
	基本方針5	◇地域医療機関等との連携	○	○
		◇県民への情報提供	—	○
収 支 計 画	県立病院事業の収支計画		○	○
	矢吹病院		○	—
	喜多方病院		○	—
	会津総合病院		○	—
	宮下病院		○	—
	南会津病院		○	—
	大野病院		○	—

2 自己評価基準について

◆平成22年度の改革プランの進捗状況については、次の2つの観点から自己評価を行った。

- ①平成22年度目標値の『達成状況』（定量的評価）
- ②目標値を達成するための『取組状況』（定性的評価）

目標値達成状況の自己評価（定量評価）		取組状況の自己評価（定性評価）	
【5】	目標値を上回った 達成度100%以上120%未満	【5】	極めて積極的に行われている
【4】	目標値を達成できた 達成度90%以上100%未満	【4】	積極的に行われている
【3】	目標値をほぼ達成できた 達成度70%以上90%未満	【3】	取り組んでいる
【2】	目標値を下回った 達成度50%以上70%未満	【2】	消極的である
【1】	目標値を大きく下回った 達成度50%未満	【1】	実施に至っていない

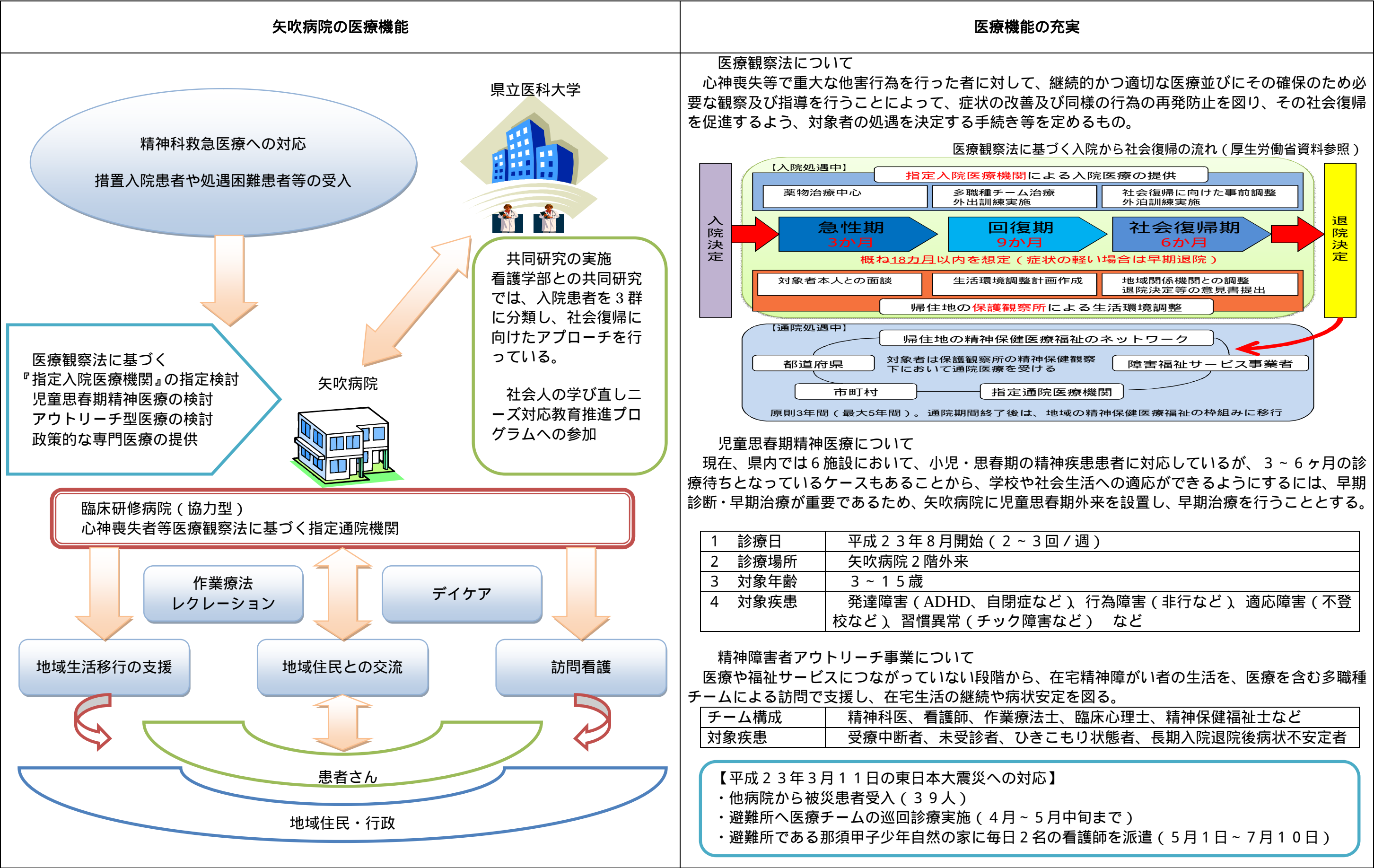
◆各分野で設定している共通目標指標については、その達成状況をわかりやすくするため、下記の基準により評価を行った。

* 目標値達成度指標＝当該年度実績値／当該年度目標値×100

1 矢吹病院

(医師数：7人・病床数206床・精神単科病院)

	改革プランの内容		平成 2 2 年度の取組状況及び自己評価											
役割	果たすべき役割	措置入院患者や民間病院では受入が難しい処遇困難患者等の受入れなどの精神医療提供	取組状況自己評価	【 4 】	積極的に行われている									
	経営形態	県立病院として経営												
医療機能	措置入院患者や処遇困難患者の受入体制の充実強化	措置入院患者や民間病院では受入が難しい処遇困難患者等の受入体制の充実強化を図る。	1 4 床の保護室が常時満床のため、少しでも空床を確保し処遇困難患者の受入を行うため、隔離期間の短縮・早期解放の実現に努力した。 <table><tr><td></td><td>2 2 年度</td><td>2 1 年度</td></tr><tr><td>措置入院患者数</td><td>7 名</td><td>3 名</td></tr></table>				2 2 年度	2 1 年度	措置入院患者数	7 名	3 名			
		2 2 年度	2 1 年度											
	措置入院患者数	7 名	3 名											
	心神喪失者等医療観察法に基づく患者への支援	心神喪失等の状態で重大な他害行為を行った者に対する医療の確保と社会復帰への支援を行うため、現在の心神喪失者等医療観察法に基づく「指定通院医療機関」に加え、指定入院医療機関としての指定についても検討を行う。	平成 2 0、2 1 年度に他県の医療観察法病棟を視察して、医療観察法に基づく指定入院医療機関の整備についての調査を行ったところであるが、2 2 年度は、それらを踏まえて、県保健福祉部、県立医大とともに具体的な検討を行った。平成 2 3 年度は、さらに検討を深め、県としての方針を明確化する。											
	患者の地域生活移行への支援	「入院医療中心から地域生活中心へ」という精神保健医療福祉改革ビジョンの基本的な考え方を踏まえ、患者の地域生活移行を引き続き進めるとともに、退院後も患者が地域の中で安心して暮らしていけるよう支援を強化する。	精神科リハビリテーションの各種取り組みや退院促進事業（在院期間短縮検討会）等に加えて、平成 2 1 年度に引き続き「精神障がい者地域生活移行支援特別対策事業」に参加した。 当事業等により得られたノウハウや市町村担当部門、民間事業者、保健福祉事務所等とのネットワークを活用しながら、平成 2 2 年度は長期入院患者のうち 4 名が退院に至った。 訪問看護、デイケアの充実強化を図った。 <table><tr><td></td><td>2 2 年度</td><td>2 1 年度</td></tr><tr><td>訪問看護</td><td>1 , 6 8 8 人(6 8 人)</td><td>1 , 8 1 7 人(6 3 人)</td></tr><tr><td>デイケア</td><td>3 , 8 4 6 人(4 5 人)</td><td>3 , 7 9 0 人(4 4 人)</td></tr></table> * () 内は登録者数				2 2 年度	2 1 年度	訪問看護	1 , 6 8 8 人(6 8 人)	1 , 8 1 7 人(6 3 人)	デイケア	3 , 8 4 6 人(4 5 人)	3 , 7 9 0 人(4 4 人)
		2 2 年度	2 1 年度											
訪問看護	1 , 6 8 8 人(6 8 人)	1 , 8 1 7 人(6 3 人)												
デイケア	3 , 8 4 6 人(4 5 人)	3 , 7 9 0 人(4 4 人)												
政策的な専門医療の実施	県内の精神医療をリードする役割を果たすため、県立医科大学等との連携強化を図りながら、児童思春期、ストレスケア等の政策的な専門医療の実施に向けて検討する。	児童思春期精神医療のほか、医療観察法に基づく指定入院医療機関の指定、さらには、アウトリーチ型医療の取組みの 3 点について、保健福祉部、県立医大とともに協議検討を行った。 児童思春期外来については、平成 2 3 年 8 月に開設												
精神科救急医療への対応	精神科救急医療システム指定医療機関（救急輪番制）に指定されており、引き続き救急医療を実施する。	精神科救急医療システム指定医療機関として、救急輪番対応を実施した。県中・県南ブロックにおいて、医師不足等により 2 病院が輪番から外れたため、当院の担当回数も増えて月 5 ～ 6 回実施していたが、平成 2 2 年 7 月からは、月 3 回程度の実施となった。												
臨床研修病院としての研修・教育機能の展開	県立医科大学や白河厚生総合病院等と連携しながら、臨床研修病院（協力型）として、臨床研修医や学生への研修、教育を行う	県立医科大学附属病院、白河厚生総合病院、公立岩瀬病院、奥羽大学歯学部附属病院の協力型臨床研修病院として指定されている。今後も、臨床研修医等への研修、教育を実施していく。 <table><tr><td>平成 2 2 年度実績</td><td>7 名</td><td>白河厚生総合病院、公立岩瀬病院</td></tr><tr><td>平成 2 1 年度実績</td><td>5 名</td><td>白河厚生総合病院</td></tr></table> *平成 2 2 年度実績 7 名のうち 1 名が平成 2 3 年度より当院で後期研修を開始			平成 2 2 年度実績	7 名	白河厚生総合病院、公立岩瀬病院	平成 2 1 年度実績	5 名	白河厚生総合病院				
平成 2 2 年度実績	7 名	白河厚生総合病院、公立岩瀬病院												
平成 2 1 年度実績	5 名	白河厚生総合病院												
規模	地域生活支援体制の充実・強化を図り、入院患者の地域生活移行を促進するとともに、心神喪失者等医療観察法に基づく指定入院医療機関としての指定も視野に入れながら、平成 2 4 年度に 4 病棟から 3 病棟とする病棟再編を実施する。		心神喪失者等医療観察法に基づく指定入院医療機関としての指定について、継続して検討を行っていく。											



2 会津医療センター（仮称）（喜多方病院・会津総合病院）

（医師数：喜多方病院 4 人・会津総合病院 3 1 人 病床数：喜多方病院 5 0 床・会津総合病院 3 0 9 床）

改革プランの内容			平成 2 2 年度取組状況及び自己評価												
役割	果たすべき役割	1 「診療」・「教育」・「研究」の 3 つの機能を柱とする。 2 地域医療の確保や人材の育成等の拠点と位置づける。	取組状況自己評価	【 4 】	積極的に行われている										
	経営形態	公立大学法人県立医科大学の附属病院に移行													
医療機能	診療機能等の在り方	会津地方全体の医療水準の維持・向上を図るため、へき地医療をはじめとする政策医療並びに地域特性に対応した医療を提供するとともに、県立医科大学附属病院として新たに備える教育研究機能を発揮し、本県医療の向上にも貢献することを基本として、医科大学とさらに協議を進め、診療機能等の在り方を決定する。	1 会津医療センター（仮称）の整備 地域に根ざした医療や疾病に関する教育・研究を行い、地域医療の向上に貢献するため、教育・研究機能も備えた県立医科大学の附属病院として、会津医療センター（仮称）の整備を進めた。 <table><tr><td>時期</td><td>内容</td></tr><tr><td>平成 2 2 年 8 月</td><td>右折レーン整備工事完了 実施設計完了</td></tr><tr><td>平成 2 2 年 9 月</td><td>建築・設備工事に係る入札公告</td></tr><tr><td>平成 2 2 年 1 0、1 1 月</td><td>建築・設備工事入札</td></tr><tr><td>平成 2 2 年 1 1 月</td><td>建築・設備工事に着手</td></tr></table>			時期	内容	平成 2 2 年 8 月	右折レーン整備工事完了 実施設計完了	平成 2 2 年 9 月	建築・設備工事に係る入札公告	平成 2 2 年 1 0、1 1 月	建築・設備工事入札	平成 2 2 年 1 1 月	建築・設備工事に着手
	時期	内容													
	平成 2 2 年 8 月	右折レーン整備工事完了 実施設計完了													
	平成 2 2 年 9 月	建築・設備工事に係る入札公告													
	平成 2 2 年 1 0、1 1 月	建築・設備工事入札													
	平成 2 2 年 1 1 月	建築・設備工事に着手													
診療科の決定	現在、会津総合病院と喜多方病院に勤務する医師と附属化後に医科大学から配置可能な医師等による体制を総合的に考慮して、診療科を決定する。 医科大学からは、「総合内科」、「東洋医学科」、「血液内科」等の新たな診療科の設置についての提案がある。	2 会津医療センター（仮称）診療機能等のあり方について 会津医療センター（仮称）の運営や設計・建築工事等に関連する事項の協議、調整等を行うため、幹部会議及び検討ワーキンググループ、専門部会を設置して検討を行った。													
政策医療の実施	二次救急医療、結核・感染症医療、へき地医療支援（へき地医療拠点センター病院）等の政策医療を実施する。	3 診療科について 平成 2 2 年度は、会津総合病院内に設置された県立医科大学会津医療センター準備室に教授 6 名が先行して配置され、通常診療に従事しながらの開設準備業務に当たってきた。「血液内科」を新たに設置し、平成 2 2 年 4 月から診療を開始した。													
地域連携	地域の医療機関との連携やネットワークの構築を図る。	4 政策医療について 医療機関ごとの機能分担を明確にし、相互補完、連携を行うことで域内の地域医療を支えるという観点から、へき地医療拠点センター病院として医師派遣を行うとともに、結核・感染症医療の役割を果たした。また、救急についても、輪番制等で対応を行った。													
	臨床研修病院等としての研修・教育機能の展開 自治医科大学等と連携しながら、臨床研修病院として臨床研修医への研修を行うほか、大学附属病院として学生等の教育にも活用する。	5 地域連携について 地域医療機関との連携を促進し、紹介率を向上させるため、医療機関に対する訪問活動の実施及び地元医師会への加入促進を図った。（平成 2 2 年度新規加入医師 3 人を含め 8 名）													
規模	2 3 0 床程度（一般 200 床、結核 14 床、感染 8 床、集中 4 床）	6 臨床研修病院について 基幹型臨床研修病院として研修医を受け入れ、臨床研修協力病院とともに臨床研修を行った。（平成 2 2 年度は、自治医科大学卒の 2 名を受け入れた）													
	喜多方病院の経営改善に向けて、診療圏の人口動向や今後の患者数見込み等を踏まえ、平成 21 年度に病床数を削減（135 床 50 床）する。（実施済）	7 平成 2 3 年度の取組みについて 新病院開設に向けて、建設工事を着実に進めていくとともに、運営システムの策定、医療機器の仕様及び機種選定、医療情報システム導入に向けた検討を行う。													

会津医療センター		医療機能の充実					
外観イメージ		【平成22年度の収益確保に向けた取組状況】					
		【喜多方病院】					
		地域医療連携活動	地域医療連携室だよりを発行し、地域医療機関及び社会福祉施設等への訪問活動を66回実施して、連携の強化を図った。消防本部と連絡会実施				
		地域貢献の向上	ふれあい事業として、看護の日イベント、写真展、川柳展などを開催し、地域住民との交流を図った。 22年度のバザー売上金70,123円をユニセフへ寄付、23年度は義援金を募集し88,213円を集め、バザーの売上金53,700円とともに日本赤十字社に寄付した。親睦団体として、県災対本部へ30万円の寄付を行った。				
		検診業務の充実	地域住民の健康維持に貢献する目的のほかに、医師の減少による経営・業績の悪化の改善に寄与することを目的として、検診業務を強化している。				
		収益の確保	4つの施設基準（一般病棟看護必要度評価加算、褥瘡患者管理加算、食堂加算、療養環境加算）を取得し、収益の増加につながった。				
		後発医薬品の採用	医師全員が出席する薬事委員会において、後発医薬品使用体制加算の取得に向けて採用割合を高めており、17.3%となっている。H21は9.4%				
		【会津総合病院】					
		地域医療連携活動	ホームページのリニューアル及び病院案内を新規作成し、4月以降に着任した会津医療センター準備室教授を中心に、各医療機関への訪問を行い、地域医療機関との連携やネットワークの構築を行い紹介率向上に努めた。				
		地域貢献の向上	市民公開講座（2回）、膵臓病講座（2回）、糖尿病教室を開催し、積極的に専門的な情報発信を行いながら、地域住民との交流を行った。				
		収益の確保	新たに栄養サポートチーム、呼吸ケアチームの入院加算を取得した。DPC導入効果として、出来高算定方式と比較して1.1億円増収を図った。				
		後発医薬品の採用	抗生剤、高額薬剤、造影剤を中心としたジェネリック化への推進を図った。金額ベースで8.56%、品目ベースで8.83%となっている。				
診療科	23科（院内標榜の診療科を含む） 総合内科、呼吸器内科、小腸・大腸・肛門科、消化器内科、循環器内科、神経内科、血液内科、生活習慣病科、東洋医学科、地域・家庭医療科、外科、整形外科、心身医療科、皮膚科、泌尿器科、婦人科、眼科、耳鼻いんこう科、リハビリテーション科、放射線科、麻酔科、病理診断科、歯科						
病床数	230床程度（一般200床程度、ICU・CCU4床、結核14床、感染症8床）						
主な機能等	<p>（1）診療機能 現在の会津総合病院及び喜多方病院の診療科を継続することを基本 地域に不足する診療科を新たに設置 結核・感染症医療等、政策医療の継続実施</p> <p>（2）教育・研究機能</p> <table><tr><td>学部教育</td><td>医学部生の実習、卒後臨床研修及び後期研修生の積極的受入</td></tr><tr><td>研究部門</td><td>会津大学との医工連携、疫学、地域・家庭医療学</td></tr></table> <p>★</p>			学部教育	医学部生の実習、卒後臨床研修及び後期研修生の積極的受入	研究部門	会津大学との医工連携、疫学、地域・家庭医療学
学部教育	医学部生の実習、卒後臨床研修及び後期研修生の積極的受入						
研究部門	会津大学との医工連携、疫学、地域・家庭医療学						
		【平成23年3月11日の東日本大震災への対応】					
		喜多方病院					
		・被災患者の受入（8人）					
		・避難所（喜多方市押切体育館）への巡回診療に医療スタッフ派遣（3月から4月まで）					
		・被ばくスクリーニングのため、喜多方市災害対策本部へサーベイメータの貸し出し					
		会津総合病院					
		・被災患者の受入（21人）					
		・避難所への巡回診療に医療支援チーム、看護支援チームを派遣（3月から4月中旬まで）					
		・被ばくスクリーニングのため、放射線技師を実施会場へ派遣、サーベイメータの貸し出し					

3 宮下病院

(医師数：6人 病床数32床)

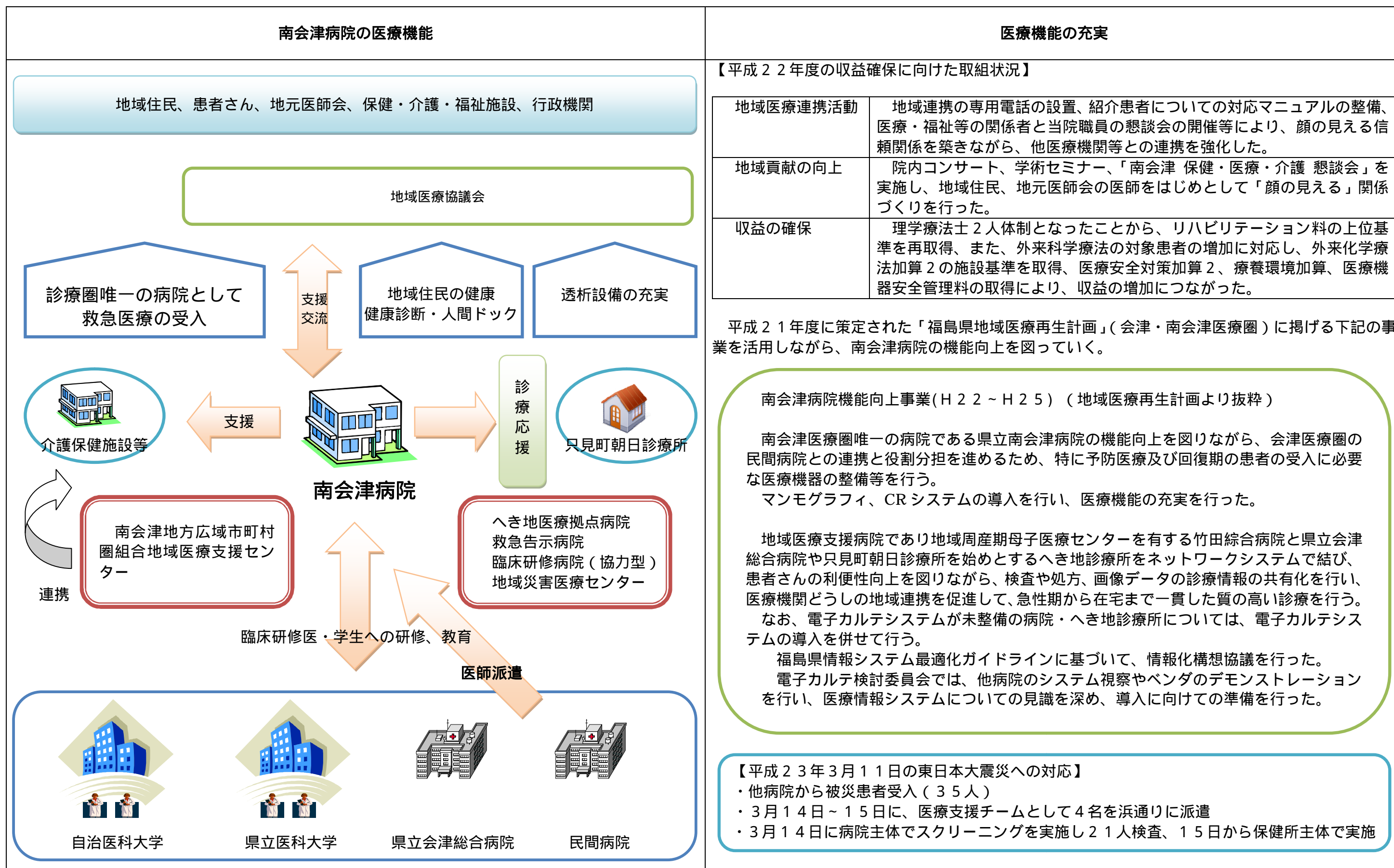
	改革プランの内容		平成 2 2 年度取組状況及び自己評価																							
役割	果たすべき役割	へき地における医療提供	取組状況自己評価	【 4 】	積極的に行われている																					
	経営形態	県立病院として経営																								
医療機能	急性期医療の実施	県医療計画において「へき地医療拠点病院」に指定されており、当診療圏唯一の病院として緊急の内科的・外科的処置に対応する医療機能を確保し、会津総合病院や開院後の会津医療センター(仮称)の支援を受けながら、この地域に不足している、高齢者に多い運動器や感覚器の疾患に対応する医療（整形外科、眼科、耳鼻咽喉科等）を提供する。	県内で高齢化率が一番高い地域特性に対応した医療の提供 地域の方々が安全に安心して暮らしていけるよう、診療圏唯一の病院として常勤医師の確保・定着を図るとともに、県内で一番高齢化が進行している地域の特性に対応した医療を提供していくため、県立医科大学や会津総合病院との連携を強化しながら、専門外来の維持・確保に努めた。 常勤医師 6 名（内科 4、外科 2） 非常勤医師 4 名（整形外科 1、神経精神科 1 名、耳鼻いんこう科 1 名、皮膚科 1 名）																							
	へき地における医療の確保	へき地医療拠点病院として、国保診療所への派遣機能を維持するとともに、訪問診療・訪問看護等により住民の医療を確保するなど、県内で最も高齢化率が高い地域特性に対応した医療を提供する。	へき地医療拠点病院として、国保診療所等への診療応援																							
			<table><tr><th>場所</th><th>実施日</th><th>2 2 年度</th><th>2 1 年度</th></tr><tr><td>柳津町国民健康保険診療所</td><td>毎週月曜日</td><td>4 9 回 / 年</td><td>4 6 回 / 年</td></tr><tr><td>金山町国民健康保険診療所</td><td>毎週火曜日から金曜日</td><td>1 9 7 回 / 年</td><td>1 9 2 回 / 年</td></tr><tr><td>特別養護老人ホーム桐寿苑</td><td>毎週金曜日（管理医として）</td><td>5 0 回 / 年</td><td>4 7 回 / 年</td></tr></table>				場所	実施日	2 2 年度	2 1 年度	柳津町国民健康保険診療所	毎週月曜日	4 9 回 / 年	4 6 回 / 年	金山町国民健康保険診療所	毎週火曜日から金曜日	1 9 7 回 / 年	1 9 2 回 / 年	特別養護老人ホーム桐寿苑	毎週金曜日（管理医として）	5 0 回 / 年	4 7 回 / 年				
	場所	実施日	2 2 年度	2 1 年度																						
	柳津町国民健康保険診療所	毎週月曜日	4 9 回 / 年	4 6 回 / 年																						
金山町国民健康保険診療所	毎週火曜日から金曜日	1 9 7 回 / 年	1 9 2 回 / 年																							
特別養護老人ホーム桐寿苑	毎週金曜日（管理医として）	5 0 回 / 年	4 7 回 / 年																							
		在宅医療を継続して実施																								
		<table><tr><th>項目</th><th>実施日</th><th>2 2 年度</th><th>2 1 年度</th></tr><tr><td>訪問診療</td><td>2 回 / 月</td><td>5 7 件 / 年（ 9 名）</td><td>7 3 件 / 年(1 0 名)</td></tr><tr><td>訪問看護</td><td>1 回 / 週</td><td>4 2 件 / 年（ 2 名）</td><td>7 0 件 / 年（ 4 名）</td></tr></table>				項目	実施日	2 2 年度	2 1 年度	訪問診療	2 回 / 月	5 7 件 / 年（ 9 名）	7 3 件 / 年(1 0 名)	訪問看護	1 回 / 週	4 2 件 / 年（ 2 名）	7 0 件 / 年（ 4 名）									
項目	実施日	2 2 年度	2 1 年度																							
訪問診療	2 回 / 月	5 7 件 / 年（ 9 名）	7 3 件 / 年(1 0 名)																							
訪問看護	1 回 / 週	4 2 件 / 年（ 2 名）	7 0 件 / 年（ 4 名）																							
規模	臨床研修協力施設としての研修・教育機能の展開	県立医科大学や自治医科大学等と連携しながら、臨床研修協力施設として、臨床研修医や学生への研修、教育を行う。	臨床研修医や学生への研修、教育																							
			<table><tr><th>項目</th><th>内容</th><th>2 2 年度</th><th>2 1 年度</th></tr><tr><td>家庭医研修プログラム</td><td>初期研修医の受入</td><td>1 名</td><td>3 名</td></tr><tr><td>へき地医療体験研修</td><td>地域医療に関心を持つ県内外の医学部生</td><td>2 3 名</td><td>1 5 名</td></tr><tr><td>地域医療現場見学</td><td>医学部進学を希望する高校 2 年生</td><td>1 0 名</td><td>1 3 名</td></tr></table>				項目	内容	2 2 年度	2 1 年度	家庭医研修プログラム	初期研修医の受入	1 名	3 名	へき地医療体験研修	地域医療に関心を持つ県内外の医学部生	2 3 名	1 5 名	地域医療現場見学	医学部進学を希望する高校 2 年生	1 0 名	1 3 名				
	項目	内容	2 2 年度	2 1 年度																						
	家庭医研修プログラム	初期研修医の受入	1 名	3 名																						
	へき地医療体験研修	地域医療に関心を持つ県内外の医学部生	2 3 名	1 5 名																						
地域医療現場見学	医学部進学を希望する高校 2 年生	1 0 名	1 3 名																							
地域住民の健康増進への支援	地域の医療機関や介護施設等とも連携しながら、健康診断、人間ドック等による疾病の予防、早期発見・治療等を通じて、地域住民の健康増進への支援を行う。	地域住民の健康増進への支援																								
		<table><tr><th>項目</th><th>2 2 年度</th><th>2 1 年度</th></tr><tr><td>特別養護老人ホーム桐寿苑の夏祭参加</td><td>ボランティア看護師 1 2 名</td><td>ボランティア看護師 7 名</td></tr><tr><td>健康診断・人間ドック事業の実施</td><td>2 5 9 名・ 1 6 名</td><td>2 1 4 名・ 2 3 名</td></tr><tr><td>院内健康教室の開催</td><td>1 1 回・ 1 0 7 名</td><td>5 回・ 1 3 5 名</td></tr><tr><td>心ある医療「出前講座」の開催</td><td>2 3 回・ 4 9 1 名</td><td>2 4 回・ 6 6 7 名</td></tr><tr><td>医療・保健・福祉関係機関連絡会</td><td>2 回 / 年</td><td>2 回 / 年</td></tr><tr><td>介護施設との合同ケア会議</td><td>毎月</td><td>毎月</td></tr></table>				項目	2 2 年度	2 1 年度	特別養護老人ホーム桐寿苑の夏祭参加	ボランティア看護師 1 2 名	ボランティア看護師 7 名	健康診断・人間ドック事業の実施	2 5 9 名・ 1 6 名	2 1 4 名・ 2 3 名	院内健康教室の開催	1 1 回・ 1 0 7 名	5 回・ 1 3 5 名	心ある医療「出前講座」の開催	2 3 回・ 4 9 1 名	2 4 回・ 6 6 7 名	医療・保健・福祉関係機関連絡会	2 回 / 年	2 回 / 年	介護施設との合同ケア会議	毎月	毎月
項目	2 2 年度	2 1 年度																								
特別養護老人ホーム桐寿苑の夏祭参加	ボランティア看護師 1 2 名	ボランティア看護師 7 名																								
健康診断・人間ドック事業の実施	2 5 9 名・ 1 6 名	2 1 4 名・ 2 3 名																								
院内健康教室の開催	1 1 回・ 1 0 7 名	5 回・ 1 3 5 名																								
心ある医療「出前講座」の開催	2 3 回・ 4 9 1 名	2 4 回・ 6 6 7 名																								
医療・保健・福祉関係機関連絡会	2 回 / 年	2 回 / 年																								
介護施設との合同ケア会議	毎月	毎月																								
		＊																								
	診療圏の人口動向や今後の患者数見込み等を踏まえ、平成 21 年度に病床数を削減（55 床 32 床）する。（実施済）	平成 2 1 年 4 月 1 日付けで 5 5 床から 3 2 床に病床変更を行った。																								

宮下病院の医療機能	医療機能の充実						
<div data-bbox="142 321 1466 1818"><div>地域住民、患者さん、保健・介護・福祉施設、行政機関</div><div><div>介護施設との 合同ケア会議</div><div>介護保健施設等</div><div>柳津町診療所</div><div>金山町診療所</div><div>診療 応 援</div></div><div><div>宮下病院等後援会</div><div>地域住民との交流</div><div>心ある医療 出前講座</div><div>訪問看護</div><div>訪問診療</div><div>在宅医療 への支援</div></div><div>交流 信頼</div><div>支援</div><div>救急患者の受入</div><div>臨床研修医・学生への研修、教育</div><div>医師派遣</div><div>宮下病院</div><div>へき地医療拠点病院 臨床研修病院（協力型）</div></div>	<div data-bbox="1495 296 2825 989"><div>【平成22年度の収益確保に向けた取組状況】</div><table><tr><td>地域医療連携活動</td><td>「医療・保健・福祉関係機関連絡会議」を開催し、診療所の医師や介護老人福祉施設の担当者、町村の保健師と情報の共有化を図るとともに、これらの機関を定期的に訪問するなど、新患者の獲得に向けて活動を行った。 医療圏町村の広報誌へ、新任医師の紹介、医師の診療日記、出前講座の内容、医療に関する情報の掲載を行った。</td></tr><tr><td>地域貢献の向上</td><td>心ある地域医療を目指して看護の日イベントを行い、絆創膏、タオルなどの記念品の配付や血圧・骨密度などの測定を実施し健康状態をチェックした。 七夕やクリスマスツリーの飾り付けや院内コンサートなどの四季折々の風物詩を通して、地域の方に心豊かに過ごしていただくための癒しの空間作りを行った。 地域住民の健康づくりなどに役立たせるため、病院スタッフである看護師、薬剤師、管理栄養士が23回の出前講座を行い、491人の参加があった。</td></tr><tr><td>後発医薬品の採用</td><td>後発医薬品の採用を積極的に行い、品目ベースで105品目23.8%となっている。（21年度17.6%）</td></tr></table></div> <div data-bbox="1495 1020 2825 1524"><p>平成21年度に策定された「福島県地域医療再生計画」（会津・南会津医療圏）に掲げる下記の事業を活用しながら、宮下病院の機能向上を図っていく。</p><div>地域医療連携ネットワークシステム導入事業（H22～25） （地域医療再生計画より抜粋）</div><p>地域医療支援病院であり地域周産期母子医療センターを有する竹田総合病院と県立会津総合病院や只見町朝日診療所を始めとするへき地診療所をネットワークシステムで結び、患者さんの利便性向上を図りながら、検査や処方、画像データの診療情報の共有化を行い、医療機関どうしの地域連携を促進して、急性期から在宅まで一貫した質の高い診療を行う。</p><p>なお、電子カルテシステムが未整備の病院・へき地診療所については、電子カルテシステムの導入を併せて行う。</p></div> <div data-bbox="1495 1566 2825 1797"><div>【平成23年3月11日の東日本大震災への対応】</div><ul style="list-style-type: none">・他病院から被災患者受入（13人）・避難所である柳津町健康福祉プラザ銀山荘へ医療チームの巡回診療実施・避難所への看護師の派遣・サーベイメータを会津総合病院へ貸し出し</div>	地域医療連携活動	「医療・保健・福祉関係機関連絡会議」を開催し、診療所の医師や介護老人福祉施設の担当者、町村の保健師と情報の共有化を図るとともに、これらの機関を定期的に訪問するなど、新患者の獲得に向けて活動を行った。 医療圏町村の広報誌へ、新任医師の紹介、医師の診療日記、出前講座の内容、医療に関する情報の掲載を行った。	地域貢献の向上	心ある地域医療を目指して看護の日イベントを行い、絆創膏、タオルなどの記念品の配付や血圧・骨密度などの測定を実施し健康状態をチェックした。 七夕やクリスマスツリーの飾り付けや院内コンサートなどの四季折々の風物詩を通して、地域の方に心豊かに過ごしていただくための癒しの空間作りを行った。 地域住民の健康づくりなどに役立たせるため、病院スタッフである看護師、薬剤師、管理栄養士が23回の出前講座を行い、491人の参加があった。	後発医薬品の採用	後発医薬品の採用を積極的に行い、品目ベースで105品目23.8%となっている。（21年度17.6%）
地域医療連携活動	「医療・保健・福祉関係機関連絡会議」を開催し、診療所の医師や介護老人福祉施設の担当者、町村の保健師と情報の共有化を図るとともに、これらの機関を定期的に訪問するなど、新患者の獲得に向けて活動を行った。 医療圏町村の広報誌へ、新任医師の紹介、医師の診療日記、出前講座の内容、医療に関する情報の掲載を行った。						
地域貢献の向上	心ある地域医療を目指して看護の日イベントを行い、絆創膏、タオルなどの記念品の配付や血圧・骨密度などの測定を実施し健康状態をチェックした。 七夕やクリスマスツリーの飾り付けや院内コンサートなどの四季折々の風物詩を通して、地域の方に心豊かに過ごしていただくための癒しの空間作りを行った。 地域住民の健康づくりなどに役立たせるため、病院スタッフである看護師、薬剤師、管理栄養士が23回の出前講座を行い、491人の参加があった。						
後発医薬品の採用	後発医薬品の採用を積極的に行い、品目ベースで105品目23.8%となっている。（21年度17.6%）						

4 南会津病院

(医師数：15人 病床数100床)

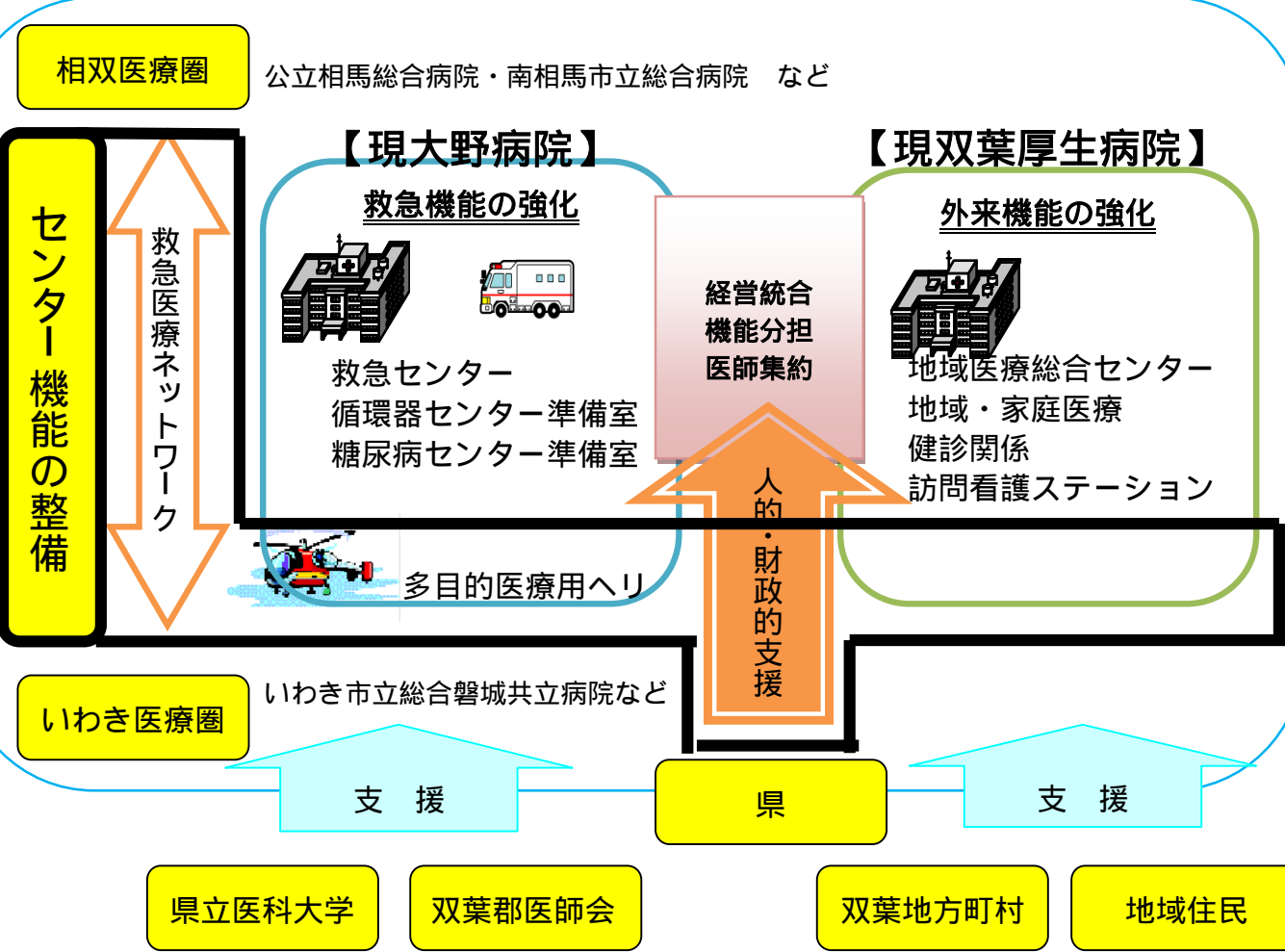
	改革プランの内容		平成 2 2 年度取組状況及び自己評価															
役 割	果たすべき役割	へき地における医療提供	取組状況自己評価	【 4 】	積極的に行われている													
	経営形態	県立病院として経営																
医 療 機 能	急性期医療の実施	南会津地域保健医療圏における唯一の病院として、入院・専門外来に係る医療機能を確保し、会津総合病院や開院後の会津医療センター(仮称)の支援を受けながら、急性期医療を実施する。	平成 2 2 年 3 月に開設した「神経精神科」(診療日が当初 1 回/月であった)を、6 月から隔週として地域住民の要望に対応した。 南会津地方振興局の仲介により、「二地域居住」で南会津町内に住宅を所有する医師と調整し、平成 2 3 年 4 月から「泌尿器科」を 2 回/月で開設した。 平成 2 3 年 6 月から、小児科の常勤医を 2 名配置した。															
	へき地における医療の確保	へき地医療拠点病院として、公的診療所への派遣機能の維持など、へき地医療を提供する。	へき地医療拠点病院として、国保診療所等への診療応援 <table><tr><td>場 所</td><td>内 容</td><td>2 2 年度</td><td>2 1 年度</td></tr><tr><td rowspan="2">只見町国民健康保険朝日診療所</td><td>整形外科応援 2 回 / 月</td><td>2 3 回 / 年</td><td>2 4 回 / 年</td></tr><tr><td>当直応援</td><td>5 回 / 年</td><td>7 回 / 年</td></tr></table> 会津総合病院への麻酔科の診療応援を行った。(週 1 回)				場 所	内 容	2 2 年度	2 1 年度	只見町国民健康保険朝日診療所	整形外科応援 2 回 / 月	2 3 回 / 年	2 4 回 / 年	当直応援	5 回 / 年	7 回 / 年	
	場 所	内 容	2 2 年度	2 1 年度														
	只見町国民健康保険朝日診療所	整形外科応援 2 回 / 月	2 3 回 / 年	2 4 回 / 年														
		当直応援	5 回 / 年	7 回 / 年														
	救急医療への対応	県医療計画において第二次救急医療機関に位置付けられており、引き続き救急医療を実施する	時間外患者 3 , 8 3 0 人、救急車 7 0 2 台を受け入れ、診療圏唯一の病院として役割を果たした。															
	災害時医療への対応	大規模災害、重篤救急患者の救命医療に対応するため、地域災害医療センターとして、引き続き災害時医療を実施する。	平成 2 3 年 3 月 1 1 日の東日本大震災においては、建物等に直接的な被害がなかったため積極的に後方支援を行った。 会津総合病院を始めとして震災被害のあった病院からの患者受入れ、若しくは、その後方支援として会津地区の病院からの患者受入れを行った。 3 月 1 4 ～ 1 5 日には医療派遣チーム (4 名) を現場に派遣し、積極的な医療支援を行った。															
	総合的な医療提供体制の確立	広大な面積を有する診療圏において、患者の利便性を考慮する必要があることから、地域の中核病院として、二次医療を中心に、診断・治療からリハビリテーションに至る総合的な医療提供体制の確立を目指す。	透析設備については、1 2 台から 1 9 台とした。患者数 3 2 名から 3 8 名 (平成 2 2 年 4 月～) 地域リハビリテーション広域支援センターに指定され、また、5 月からは理学療法士 2 名体制となり、充実した活動が展開された。 療養環境の向上を図るため、院内コンサートを開催した。今後は、地域のニーズ等も勘案しながら、回復期、療養期、緩和期、終末期など様々な医療サービスの提供について、検討を進めていく必要がある。															
	臨床研修病院としての研修・教育機能の展開	県立医科大学や自治医科大学等と連携しながら、臨床研修病院 (協力型) として臨床研修医や学生への研修、教育を行う。	臨床研修医や学生への研修、教育 <table><tr><td>項 目</td><td>内 容</td><td>参 加 人 数</td></tr><tr><td>BSL アドバンスドコース</td><td>・県立医大 6 年生</td><td>4 名</td></tr><tr><td>地域医療実習</td><td>・自治医大 5 年生</td><td>3 名</td></tr><tr><td>夏期研修</td><td>・自治医大 1 ～ 4 年生</td><td>1 0 名</td></tr></table> * BSL (bed side learning) = 実地臨床の現場での実習				項 目	内 容	参 加 人 数	BSL アドバンスドコース	・県立医大 6 年生	4 名	地域医療実習	・自治医大 5 年生	3 名	夏期研修	・自治医大 1 ～ 4 年生	1 0 名
	項 目	内 容	参 加 人 数															
BSL アドバンスドコース	・県立医大 6 年生	4 名																
地域医療実習	・自治医大 5 年生	3 名																
夏期研修	・自治医大 1 ～ 4 年生	1 0 名																
地域住民の健康増進への支援	地域の医療機関や介護施設等とも連携しながら、健康診断、人間ドック等による疾病の予防、早期発見・治療等を通じ、地域住民の健康増進への支援を行う。	健康診断受診者は、799 人 (昨年比 1.4% の増) となった。 また、人間ドック受診者は、122 人であり、昨年比 21% の増となった。 病院広報紙「かけはし」を作成し、郡内全戸に配布し、病院の存在を地域にアピールした。今後は、出前講座など地域への積極的なアプローチについても検討することとしている。																
規 模	診療圏の人口動向や今後の患者数見込みなどを踏まえ、平成 21 年度に 3 病棟から 2 病棟へ病棟再編し、病床数を削減 (150 床 100 床) する。(実施済)		平成 2 1 年 3 月末日に、1 5 0 床から 1 0 0 床に病床変更を行った。															



5 大野病院

(医師数： 1 人 病床数 1 5 0 床)

改革プランの内容			平成 2 2 年度取組状況及び自己評価		
役割	果たすべき役割 経営形態		医療拠点としての中核的機能・二次救急医療への対応 福島県厚生農業協同組合連合会が運営する双葉厚生病院と統合する方向で検討		
	診療機能の強化と医療サービスの向上		病院の機能強化や診療体制の充実等により、常勤医師のいる診療科の増加、複数医師の診療体制による診療内容の充実、併科受診の容易性の向上など医療サービスの向上を図る。		
医療機能	救急医療など政策医療の充実		病院の機能強化や診療体制の充実等により、救急患者の受入幅を拡大し、双葉郡内の搬送率を高めるなど、双葉地域の救急医療の向上を図る。		
	医師の勤務環境の向上等による医師の確保		医師の適正配置等により、医師の勤務環境を向上させ、新たな医師の確保を図る。		
	病院機能の在り方		統合に向けた詳細計画の策定に当たっては、県、福島県厚生農業協同組合連合会、大野病院及び双葉厚生病院の院長、地元町村会、地元医師会等から構成される（仮称）計画策定委員会を設置して、検討を行う。		
	大野病院の経営改善 診療圏の人口動向や今後の患者数見込みなどを踏まえ、平成 2 2 年度に 3 病棟から 2 病棟へ病棟再編を検討する。		双葉地域医療の充実強化に向けた県と JA 福島厚生連の取組内容		
			統合時の医療提供体制		
			双葉地域医療の充実強化に向けた県と JA 福島厚生連の取組内容		
			双葉地域医療の充実強化に向けた県と JA 福島厚生連の取組内容		
			双葉地域医療の充実強化に向けた県と JA 福島厚生連の取組内容		
			双葉地域医療の充実強化に向けた県と JA 福島厚生連の取組内容		
			双葉地域医療の充実強化に向けた県と JA 福島厚生連の取組内容		
			双葉地域医療の充実強化に向けた県と JA 福島厚生連の取組内容		
			双葉地域医療の充実強化に向けた県と JA 福島厚生連の取組内容		
			双葉地域医療の充実強化に向けた県と JA 福島厚生連の取組内容		
			双葉地域医療の充実強化に向けた県と JA 福島厚生連の取組内容		
			双葉地域医療の充実強化に向けた県と JA 福島厚生連の取組内容		
			双葉地域医療の充実強化に向けた県と JA 福島厚生連の取組内容		
			双葉地域医療の充実強化に向けた県と JA 福島厚生連の取組内容		
			双葉地域医療の充実強化に向けた県と JA 福島厚生連の取組内容		
			双葉地域医療の充実強化に向けた県と JA 福島厚生連の取組内容		
			双葉地域医療の充実強化に向けた県と JA 福島厚生連の取組内容		
			双葉地域医療の充実強化に向けた県と JA 福島厚生連の取組内容		
			双葉地域医療の充実強化に向けた県と JA 福島厚生連の取組内容		
			双葉地域医療の充実強化に向けた県と JA 福島厚生連の取組内容		
			双葉地域医療の充実強化に向けた県と JA 福島厚生連の取組内容		
			双葉地域医療の充実強化に向けた県と JA 福島厚生連の取組内容		
			双葉地域医療の充実強化に向けた県と JA 福島厚生連の取組内容		
			双葉地域医療の充実強化に向けた県と JA 福島厚生連の取組内容		
			双葉地域医療の充実強化に向けた県と JA 福島厚生連の取組内容		
			双葉地域医療の充実強化に向けた県と JA 福島厚生連の取組内容		
			双葉地域医療の充実強化に向けた県と JA 福島厚生連の取組内容		
			双葉地域医療の充実強化に向けた県と JA 福島厚生連の取組内容		
			双葉地域医療の充実強化に向けた県と JA 福島厚生連の取組内容		
			双葉地域医療の充実強化に向けた県と JA 福島厚生連の取組内容		
			双葉地域医療の充実強化に向けた県と JA 福島厚生連の取組内容		
			双葉地域医療の充実強化に向けた県と JA 福島厚生連の取組内容		
			双葉地域医療の充実強化に向けた県と JA 福島厚生連の取組内容		
			双葉地域医療の充実強化に向けた県と JA 福島厚生連の取組内容		
			双葉地域医療の充実強化に向けた県と JA 福島厚生連の取組内容		
			双葉地域医療の充実強化に向けた県と JA 福島厚生連の取組内容		
			双葉地域医療の充実強化に向けた県と JA 福島厚生連の取組内容		
			双葉地域医療の充実強化に向けた県と JA 福島厚生連の取組内容		
			双葉地域医療の充実強化に向けた県と JA 福島厚生連の取組内容		
			双葉地域医療の充実強化に向けた県と JA 福島厚生連の取組内容		
			双葉地域医療の充実強化に向けた県と JA 福島厚生連の取組内容		
			双葉地域医療の充実強化に向けた県と JA 福島厚生連の取組内容		
			双葉地域医療の充実強化に向けた県と JA 福島厚生連の取組内容		
			双葉地域医療の充実強化に向けた県と JA 福島厚生連の取組内容		
			双葉地域医療の充実強化に向けた県と JA 福島厚生連の取組内容		
			双葉地域医療の充実強化に向けた県と JA 福島厚生連の取組内容		
			双葉地域医療の充実強化に向けた県と JA 福島厚生連の取組内容		
			双葉地域医療の充実強化に向けた県と JA 福島厚生連の取組内容		
			双葉地域医療の充実強化に向けた県と JA 福島厚生連の取組内容		
			双葉地域医療の充実強化に向けた県と JA 福島厚生連の取組内容		
			双葉地域医療の充実強化に向けた県と JA 福島厚生連の取組内容		
			双葉地域医療の充実強化に向けた県と JA 福島厚生連の取組内容		
			双葉地域医療の充実強化に向けた県と JA 福島厚生連の取組内容		
			双葉地域医療の充実強化に向けた県と JA 福島厚生連の取組内容		
			双葉地域医療の充実強化に向けた県と JA 福島厚生連の取組内容		
			双葉地域医療の充実強化に向けた県と JA 福島厚生連の取組内容		
			双葉地域医療の充実強化に向けた県と JA 福島厚生連の取組内容		
			双葉地域医療の充実強化に向けた県と JA 福島厚生連の取組内容		
			双葉地域医療の充実強化に向けた県と JA 福島厚生連の取組内容		
			双葉地域医療の充実強化に向けた県と JA 福島厚生連の取組内容		
			双葉地域医療の充実強化に向けた県と JA 福島厚生連の取組内容		
			双葉地域医療の充実強化に向けた県と JA 福島厚生連の取組内容		
			双葉地域医療の充実強化に向けた県と JA 福島厚生連の取組内容		
			双葉地域医療の充実強化に向けた県と JA 福島厚生連の取組内容		
			双葉地域医療の充実強化に向けた県と JA 福島厚生連の取組内容		
			双葉地域医療の充実強化に向けた県と JA 福島厚生連の取組内容		
			双葉地域医療の充実強化に向けた県と JA 福島厚生連の取組内容		
			双葉地域医療の充実強化に向けた県と JA 福島厚生連の取組内容		
			双葉地域医療の充実強化に向けた県と JA 福島厚生連の取組内容		
			双葉地域医療の充実強化に向けた県と JA 福島厚生連の取組内容		
			双葉地域医療の充実強化に向けた県と JA 福島厚生連の取組内容		
			双葉地域医療の充実強化に向けた県と JA 福島厚生連の取組内容		
			双葉地域医療の充実強化に向けた県と JA 福島厚生連の取組内容		
			双葉地域医療の充実強化に向けた県と JA 福島厚生連の取組内容		
			双葉地域医療の充実強化に向けた県と JA 福島厚生連の取組内容		
			双葉地域医療の充実強化に向けた県と JA 福島厚生連の取組内容		
			双葉地域医療の充実強化に向けた県と JA 福島厚生連の取組内容		
			双葉地域医療の充実強化に向けた県と JA 福島厚生連の取組内容		
			双葉地域医療の充実強化に向けた県と JA 福島厚生連の取組内容		
			双葉地域医療の充実強化に向けた県と JA 福島厚生連の取組内容		
			双葉地域医療の充実強化に向けた県と JA 福島厚生連の取組内容		
			双葉地域医療の充実強化に向けた県と JA 福島厚生連の取組内容		
			双葉地域医療の充実強化に向けた県と JA 福島厚生連の取組内容		
			双葉地域医療の充実強化に向けた県と JA 福島厚生連の取組内容		
			双葉地域医療の充実強化に向けた県と JA 福島厚生連の取組内容		
			双葉地域医療の充実強化に向けた県と JA 福島厚生連の取組内容		
			双葉地域医療の充実強化に向けた県と JA 福島厚生連の取組内容		
			双葉地域医療の充実強化に向けた県と JA 福島厚生連の取組内容		
			双葉地域医療の充実強化に向けた県と JA 福島厚生連の取組内容		
			双葉地域医療の充実強化に向けた県と JA 福島厚生連の取組内容		
			双葉地域医療の充実強化に向けた県と JA 福島厚生連の取組内容		
			双葉地域医療の充実強化に向けた県と JA 福島厚生連の取組内容		
			双葉地域医療の充実強化に向けた県と JA 福島厚生連の取組内容		
			双葉地域医療の充実強化に向けた県と JA 福島厚生連の取組内容		
			双葉地域医療の充実強化に向けた県と JA 福島厚生連の取組内容		
			双葉地域医療の充実強化に向けた県と JA 福島厚生連の取組内容		
			双葉地域医療の充実強化に向けた県と JA 福島厚生連の取組内容		
			双葉地域医療の充実強化に向けた県と JA 福島厚生連の取組内容		
			双葉地域医療の充実強化に向けた県と JA 福島厚生連の取組内容		
			双葉地域医療の充実強化に向けた県と JA 福島厚生連の取組内容		
			双葉地域医療の充実強化に向けた県と JA 福島厚生連の取組内容		
			双葉地域医療の充実強化に向けた県と JA 福島厚生連の取組内容		
			双葉地域医療の充実強化に向けた県と JA 福島厚生連の取組内容		
			双葉地域医療の充実強化に向けた県と JA 福島厚生連の取組内容		
			双葉地域医療の充実強化に向けた県と JA 福島厚生連の取組内容		
			双葉地域医療の充実強化に向けた県と JA 福島厚生連の取組内容		
			双葉地域医療の充実強化に向けた県と JA 福島厚生連の取組内容		
			双葉地域医療の充実強化に向けた県と JA 福島厚生連の取組内容		
			双葉地域医療の充実強化に向けた県と JA 福島厚生連の取組内容		
			双葉地域医療の充実強化に向けた県と JA 福島厚生連の取組内容		
			双葉地域医療の充実強化に向けた県と JA 福島厚生連の取組内容		
			双葉地域医療の充実強化に向けた県と JA 福島厚生連の取組内容		
			双葉地域医療の充実強化に向けた県と JA 福島厚生連の取組内容		
			双葉地域医療の充実強化に向けた県と JA 福島厚生連の取組内容		
			双葉地域医療の充実強化に向けた県と JA 福島厚生連の取組内容		
			双葉地域医療の充実強化に向けた県と JA 福島厚生連の取組内容		
			双葉地域医療の充実強化に向けた県と JA 福島厚生連の取組内容		
			双葉地域医療の充実強化に向けた県と JA 福島厚生連の取組内容		
			双葉地域医療の充実強化に向けた県と JA 福島厚生連の取組内容		
			双葉地域医療の充実強化に向けた県と JA 福島厚生連の取組内容		
			双葉地域医療の充実強化に向けた県と JA 福島厚生連の取組内容		
			双葉地域医療の充実強化に向けた県と JA 福島厚生連の取組内容		
			双葉地域医療の充実強化に向けた県と JA 福島厚生連の取組内容		
			双葉地域医療の充実強化に向けた県と JA 福島厚生連の取組内容		
			双葉地域医療の充実強化に向けた県と JA 福島厚生連の取組内容		
			双葉地域医療の充実強化に向けた県と JA 福島厚生連の取組内容		
			双葉地域医療の充実強化に向けた県と JA 福島厚生連の取組内容		
			双葉地域医療の充実強化に向けた県と JA 福島厚生連の取組内容		
			双葉地域医療の充実強化に向けた県と JA 福島厚生連の取組内容		
			双葉地域医療の充実強化に向けた県と JA 福島厚生連の取組内容		
			双葉地域医療の充実強化に向けた県と JA 福島厚生連の取組内容		
			双葉地域医療の充実強化に向けた県と JA 福島厚生連の取組内容		
			双葉地域医療の充実強化に向けた県と JA 福島厚生連の取組内容		
			双葉地域医療の充実強化に向けた県と JA 福島厚生連の取組内容		
			双葉地域医療の充実強化に向けた県と JA 福島厚生連の取組内容		
			双葉地域医療の充実強化に向けた県と JA 福島厚生連の取組内容		
			双葉地域医療の充実強化に向けた県と JA 福島厚生連の取組内容		
			双葉地域医療の充実強化に向けた県と JA 福島厚生連の取組内容		
			双葉地域医療の充実強化に向けた県と JA 福島厚生連の取組内容		
			双葉地域医療の充実強化に向けた県と JA 福島厚生連の取組内容		
			双葉地域医療の充実強化に向けた県と JA 福島厚生連の取組内容		
			双葉地域医療の充実強化に向けた県と JA 福島厚生連の取組内容		
			双葉地域医療の充実強化に向けた県と JA 福島厚生連の取組内容		
			双葉地域医療の充実強化に向けた県と JA 福島厚生連の取組内容		
			双葉地域医療の充実強化に向けた県と JA 福島厚生連の取組内容		
			双葉地域医療の充実強化に向けた県と JA 福島厚生連の取組内容		
			双葉地域医療の充実強化に向けた県と JA 福島厚生連の取組内容		
			双葉地域医療の充実強化に向けた県と JA 福島厚生連の取組内容		
			双葉地域医療の充実強化に向けた県と JA 福島厚生連の取組内容		
			双葉地域医療の充実強化に向けた県と JA 福島厚生連の取組内容		
			双葉地域医療の充実強化に向けた県と JA 福島厚生連の取組内容		
			双葉地域医療の充実強化に向けた県と JA 福島厚生連の取組内容		
			双葉地域医療の充実強化に向けた県と JA 福島厚生連の取組内容		
			双葉地域医療の充実強化に向けた県と JA 福島厚生連の取組内容		
			双葉地域医療の充実強化に向けた県と JA 福島厚生連の取組内容		
			双葉地域医療の充実強化に向けた県と JA 福島厚生連の取組内容		
			双葉地域医療の充実強化に向けた県と JA 福島厚生連の取組内容		
			双葉地域医療の充実強化に向けた県と JA 福島厚生連の取組内容		
			双葉地域医療の充実強化に向けた県と JA 福島厚生連の取組内容		
			双葉地域医療の充実強化に向けた県と JA 福島厚生連の取組内容		
			双葉地域医療の充実強化に向けた県と JA 福島厚生連の取組内容		
			双葉地域医療の充実強化に向けた県と JA 福島厚生連の取組内容		
			双葉地域医療の充実強化に向けた県と JA 福島厚生連の取組内容		
			双葉地域医療の充実強化に向けた県と JA 福島厚生連の取組内容		
			双葉地域医療の充実強化に向けた県と JA 福島厚生連の取組内容		
			双葉地域医療の充実強化に向けた県と JA 福島厚生連の取組内容		
			双葉地域医療の充実強化に向けた県と JA 福島厚生連の取組内容		
			双葉地域医療の充実強化に向けた県と JA 福島厚生連の取組内容		
			双葉地域医療の充実強化に向けた県と JA 福島厚生連の取組内容		
			双葉地域医療の充実強化に向けた県と JA 福島厚生連の取組内容		
			双葉地域医療の充実強化に向けた県と JA 福島厚生連の取組内容		
			双葉地域医療の充実強化に向けた県と JA 福島厚生連の取組内容		
			双葉地域医療の充実強化に向けた県と JA 福島厚生連の取組内容		
			双葉地域医療の充実強化に向けた県と JA 福島厚生連の取組内容		
			双葉地域医療の充実強化に向けた県と JA 福島厚生連の取組内容		
			双葉地域医療の充実強化に向けた県と JA 福島厚生連の取組内容		
			双葉地域医療の充実強化に向けた県と JA 福島厚生連の取組内容		
			双葉地域医療の充実強化に向けた県と JA 福島厚生連の取組内容		
			双葉地域医療の充実強化に向けた県と JA 福島厚生連の取組内容		

双葉地域医療の充実強化策	統合へ向けた地域医療の充実
<p>1 「推進会議」の継続的開催 県が、「双葉地域医療の充実強化に向けた推進会議」を継続して開催し、将来に向けて双葉地域医療に責任を果たしていく。</p> <p>2 「推進会議」への地域住民の参画 「双葉地域医療の充実強化に向けた推進会議」の委員として地域住民代表に参画していただき、住民の声を医療政策に反映させる。</p> <p>3 センター機能の整備 県として、双葉地域医療の充実強化に向けたコーディネート機能を発揮。 統合病院の円滑な移行・地域医療再生計画の具体化 救急医療ネットワークなど医療関係機関の連携体制 地域全体で医療を支えていく機運づくり など</p> <p>4 JA 福島厚生連への人的・財政的な支援 人的支援：センター機能の整備（上記）医師確保への連携した取組み 財政的支援：政策医療をはじめ、地域医療機能の維持向上への支援 施設：現大野病院施設の無償貸与 など</p> 	<p>【平成 22 年度の取組状況】</p> <p>地域医療連携について</p> <p>(1) 夜間救急外来について 双葉地域の救急医療の充実強化を図るために、平成 22 年 4 月から双葉郡医師会の 13 名の先生方、双葉郡町村のご協力をいただき、毎週金曜日に大野病院救急外来で実施した。</p> <p>(2) 双葉郡医師会会員に大野病院の診療科の取組み、研究内容の紹介と理解等を通して医師会との連携を図るため、平成 22 年 11 月 11 日に大野病院会議室で^{さだんかい}壇談会を開催した。</p> <p>【プログラム内容】</p> <ol style="list-style-type: none"> 「初診時、足部軟部腫瘍を疑った関節リウマチによるモートン病の治療経験」 整形外科 橋本慶太 氏、皆川英成 氏 「胃過形成性ポリープに対する helicobacter pylori 除菌療法の取組み」 内科 塩谷康夫 氏、上北洋徳 氏、鈴木栄 氏 「不整脈の非薬物治療（カテーテルアブレーション）の現状について」 内科 上北洋徳 氏、塩谷康夫 氏、鈴木栄 氏 「金属アレルギーが疑われペースメーカー再植込みを要した一例」 内科 鈴木栄 氏、上北洋徳 氏、塩谷康夫 氏 「Collagenous colitis の一例」 玉井医院 玉井紀男 氏 「当院における最近の大腸癌治療」 外科 小船戸康英 氏、松本佳子 氏、佐藤直哉 氏、佐久間浩 氏 「当院検出の MRSA の薬剤感受性について」 感染対策委員会 小児科 木本圭一 氏 <p>(3) 福島県相双地域医療再生支援フォローアップ事業として、「地域医療再生フォーラム」が、平成 22 年 12 月 19 日に双葉町のステーションプラザふたばで開催された。</p> <p>【プログラム内容】</p> <ol style="list-style-type: none"> DVD 鑑賞 『くま先生のお話』 事業経過説明 保健福祉部地域医療課長 病院統合に関する説明 病院局長 基調講演 「あなたと家族の健康に家庭医はどう役だつのか」 講師：福島県立医科大学地域・家庭医療学講座 教授 葛西龍樹 氏 <p>【平成 23 年 3 月 11 日の東日本大震災への対応】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 3 月 11 日の震災後、トリアージを行いながら被災患者の受入を行い、緊急手術も実施 ・ 3 月 12 日に重症患者さんの転院搬送を行いながら、全職員と患者さんが川内村へ避難 ・ 3 月 14 日に全入院患者 37 の転院搬送後、各職員が避難所等へ解散 ・ 各避難所へ看護師の派遣

多目的医療用ヘリの導入について
(平成23年3月11日に発生した東日本大震災を契機とした、福島第一原子力発電所事故の影響により、県とJA福島厚生連とで統合の延期を申し合わせた。)

- < 目的 >
- 1 地域医療再生計画に基づき、ドクターヘリとの役割分担と連携による浜通り地域の救急医療の充実強化
 - 2 病院の魅力づくりによる県内外からの医師確保

- ケース1：病院間の患者搬送
より高次の医療機関での治療が必要な患者
一定程度症状が改善し地元の医療機関で継続した治療の必要がある患者
- ケース2：診療応援医師・医療関係者の移動支援
手術応援など高度専門的な医療を提供する医師
- ケース3：血液・医薬品の緊急支援
医療機関で緊急に必要とされる血液・医薬品等
- ケース4：災害発生時の初期対応、災害時の後方支援
災害発生時における被災患者、救助関係者、必要資材等

福島県多目的医療用ヘリ運航調査研究会
関係機関が相互に連携を図り、ヘリ運航に関する事項の理解を深めることを目的として、平成22年12月16日に大熊町で開催した。

多目的医療用ヘリの概要について
多目的医療用ヘリの運航要領について
講演「日本国憲法13条の精神を守ろう！」
福島県病院局病院企画監 井上徹英 氏

福島県多目的医療用ヘリ導入についての住民説明会
平成22年12月21日に大熊町で説明会を開催した。



テストフライト実施
平成23年度に大野病院を拠点とした本格運航に向けて、各種調査、訓練等を行うため、平成23年1月23日から27日までテストフライトを実施した。
また、1月23日に、地元住民の皆さまに試乗会を実施し、多目的ヘリを身近に感じていただいた。



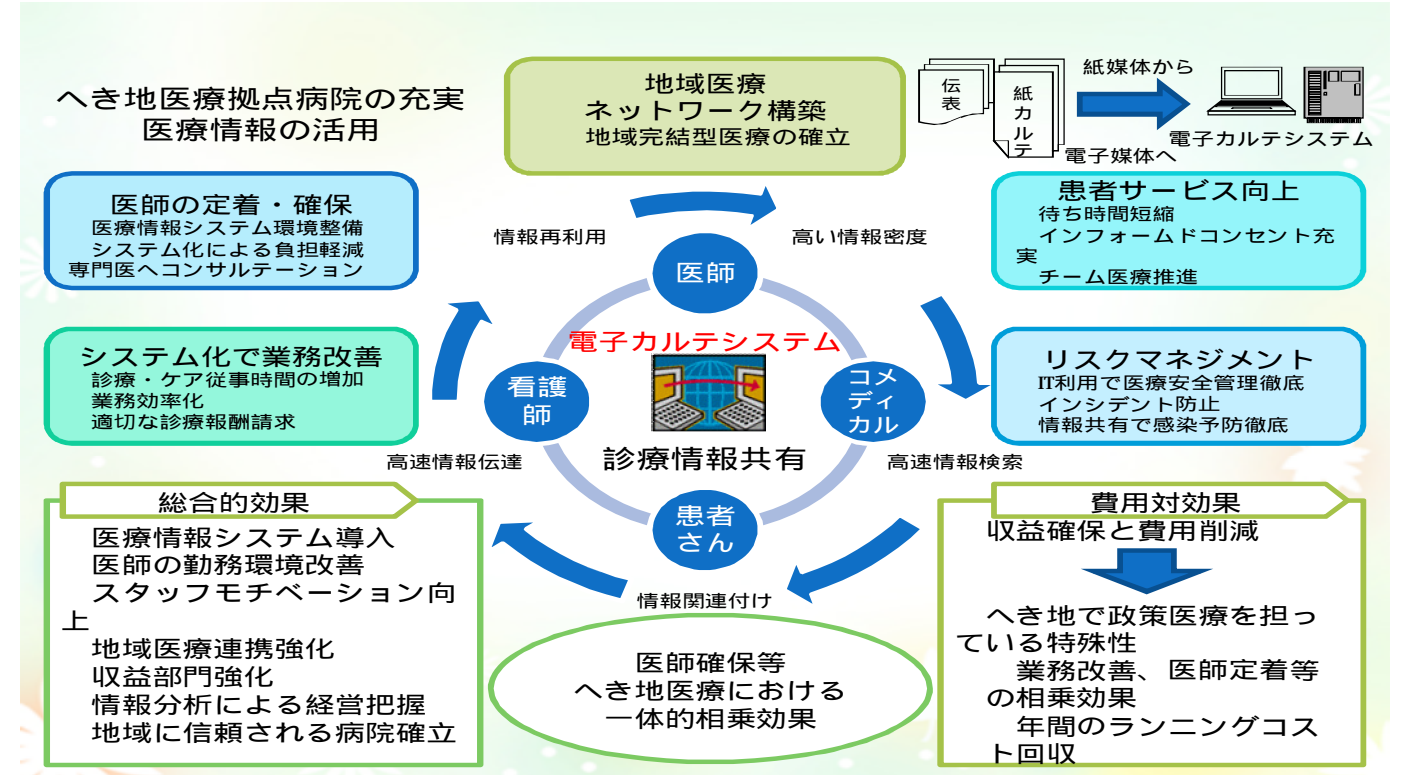
地域医療連携ネットワークシステムについて（医療情報化に向けた取組）

【医療の情報化に向けて】
医療に関する情報化については、電子カルテなどの病院情報システムが年々進歩しており、医療機関にとっては、欠くことができない重要なツールとなっている。

平成21年度に策定された「福島県地域医療再生計画（会津・南会津医療圏）」では、国の地域医療再生基金を活用して、平成25年度までに「会津地域医療連携ネットワークシステム」を構築することとなっている。

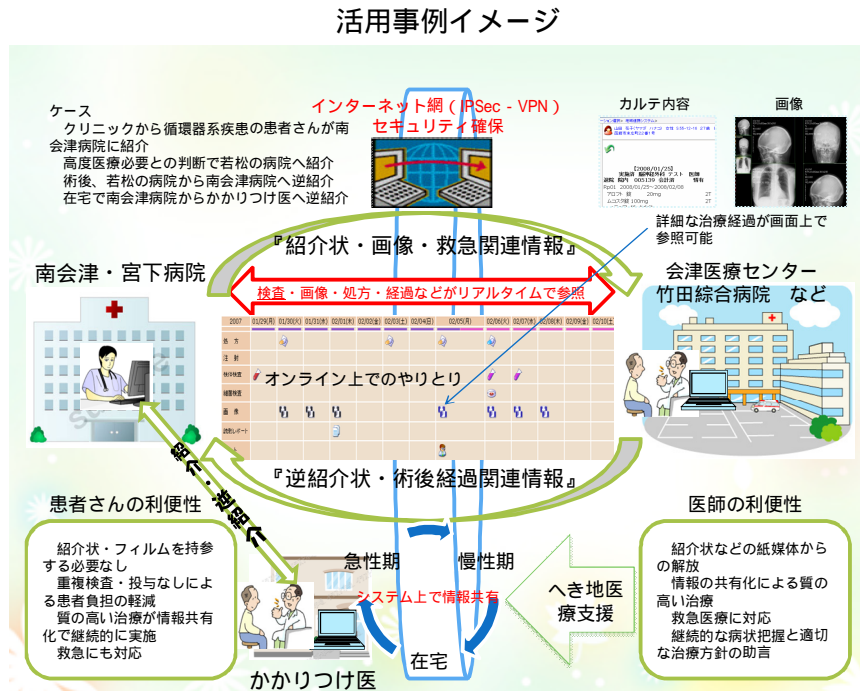
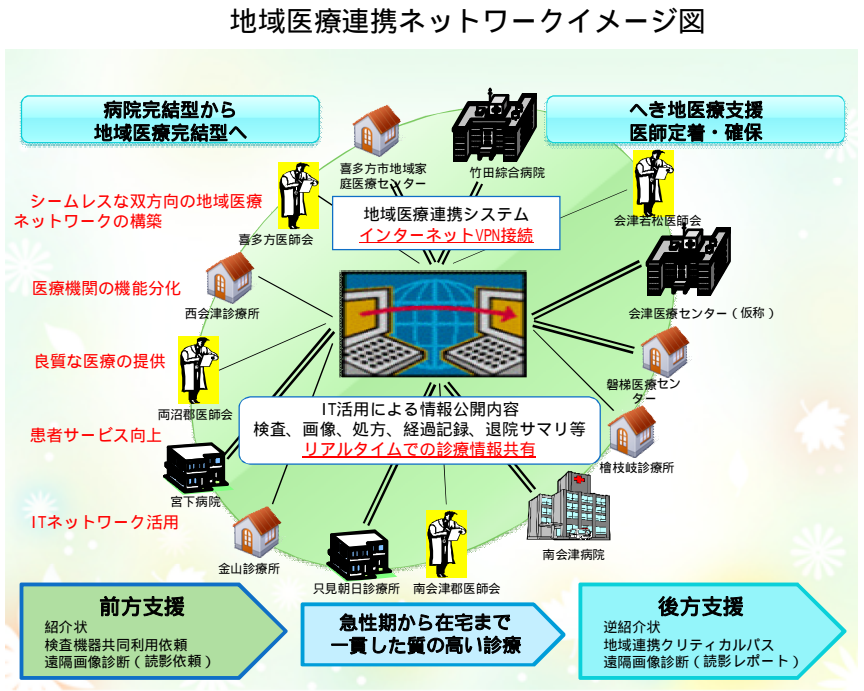
このため、当該システムの前提条件として、南会津病院に電子カルテシステムの導入を行い、へき地医療拠点病院の医療情報部門における環境整備と機能向上を図っていく。
また、県立病院と民間病院の役割分担を進め、ヒューマンネットワークの構築を進めるとともに、効率的かつ拡張可能性の高い医療情報システムの導入を行って、病院完結型医療から地域完結型医療の転換を図っていく。

- 【へき地における県立病院の医療情報化構想】
- へき地医療拠点病院の医療情報システムの環境整備
 - 双方向の医療ネットワークの構築と地域医療連携の促進
 - 患者サービスの向上
 - へき地における医師の定着・確保
 - 医療情報分野の活用



【地域医療連携ネットワークについて】
医師不足、医療の高度化の中で、地域の資源・労力を有効活用し、地域住民に良質の医療を提供していくことが求められているため、地域全体の質の底上げを図り、病院完結型から地域完結型医療の展開を進めていく。

- 医療機関の機能分化を支える連携ネットワーク
- 広域の医療連携ネットワーク
- 各医療機関のカルテ情報の一元化
- 地域全体での診療の質の向上
- 双方向の医療連携システム



【システムの活用について】
電子カルテを導入している中核病院が、地域連携システムへ情報提供を行い、診療所や他病院等が情報閲覧を行う。
地域における多くの医療機関の参画が重要であり、ベンダ間での情報共有を可能にするため、SS-MIX（厚生労働省電子的情報交換推進事業）標準化ストレージでの出力が想定されている。
なお、セキュリティについては、厚生労働省「医療情報システムの安全管理に関するガイドライン」に準拠したセキュリティ対策を実施する。

基本方針１：良質な医療サービスの提供（患者さんの視点）

改革プラン方針		平成２２年度取組状況及び自己評価			
目標 1	医療の質の向上	目標値達成状況評価		取組状況評価	
		【－】	目標値は設定していないため	【５】	極めて積極的に行われている
<p>【政策医療や予防医療の充実】</p> <p>民間医療機関等では対応が困難なへき地医療や精神・感染症医療等政策医療を安定して提供するとともに、保健・医療・福祉の連携により、県医療計画に定める４疾病５事業※や生活習慣病対策などの予防医療等の充実を図る。</p> <p>※ ４疾病５事業</p> <ul style="list-style-type: none">・４疾病（がん、脳卒中、急性心筋梗塞、糖尿病）・５事業（救急医療、災害時における医療、へき地の医療、周産期医療、小児医療） <p>【病院活性化による医療の質的向上】</p> <p>全スタッフが一丸となって「NST（栄養サポートチーム）」に代表される医師とコメディカルスタッフとの連携したチーム医療に取り組むとともに、病院内部の様々な委員会の活性化を図ることにより、医療の質を確保する。</p> <p>【病院機能評価の取得】</p> <p>病院機能評価の取得を通じて、病院機能の向上を図るとともに、患者さんの権利や安全・安心を確保するための体制整備を行う。</p> <p>【説明責任の発揮】</p> <p>患者さんとの信頼関係を構築するため、治療内容等について十分に説明を行い、患者さんの意見を尊重しながら同意を得た上で治療を実施するインフォームド・コンセントの充実を図る。</p>		○平成２２年度の取組状況			
		1 政策医療や予防医療の実施について			
		矢吹病院	○医療観察法に基づく「指定入院機関」、「児童思春期外来」、「精神障害者アウトリーチ」の実施に向けて検討を行った。		
		会津総合病院 喜多方病院	○教育・研究・診療の３つの機能を柱とする医療を提供することを目的に、平成２５年の会津医療センター（仮称）の開院に向けて準備を行った。		
		宮下病院 南会津病院	○「へき地医療拠点病院」として、地域住民が安全・安心に暮らせるように、国保診療所等への医師派遣を行った。		
				宮下病院	南会津病院
			H２２年度医師派遣回数	２９６回	２８回
			H２１年度医師派遣回数	２８５回	３１回
		大野病院	○双葉地域の中核病院としての整備を行い、救急医療体制を構築するため、双葉厚生病院との統合に向けた基本協定を締結し、統合の準備を行った。		
		2 病院活性化による医療の質的向上について			
◆ 会津総合病院では、高度な臨床栄養管理を適切に実施するための栄養サポートチーム、人工呼吸器の離脱に向け適切な呼吸器設定や、口腔状態の管理を行うための呼吸ケアチームを設置して、チーム医療の推進を行っている。					
3 病院機能評価取得について					
◆ 質の高い医療を提供していくため、財団法人日本医療機能評価機構からVer6の認定取得を行った。					
病院名	Ver4又は5認定期間	Ver6認定			
矢吹病院	17年3月～22年3月	○認定 【平成22年3月～平成27年3月】			
南会津病院	18年3月～23年3月	○認定 【平成23年3月～平成28年3月】			
宮下病院	19年2月～24年2月	○平成25年度認定に向けて院内で検討を開始			
4 説明責任の発揮について					
◆ 定期的な委員会を開催し、治療や検査に関する説明様式を見直す等、患者・家族への安心・安全な医療と情報提供に努めた。					
◆ クリニカルパスの実施や薬剤師による服薬指導等を通して、患者さんが理解し納得していたるように努めた。					

目標 2	患者サービスの向上	目標値達成状況		取組状況評価																																										
		【 4 】	目標値を達成できた	【 3 】	取り組んでいる																																									
<div>〔実践的な接遇能力向上〕</div> <div>患者さんの立場を考えて行動することができる心ある職員となることを目指し、患者さんを尊重した言葉遣いや応待を実践するロールプレイなどの実践的な学習方法などを取り入れた接遇研修会を定期的に開催し、職員の接遇能力の向上を図る。</div> <div>〔病院全体の業務改善〕</div> <div>患者さんにより良質なサービスを提供するため、待ち時間の短縮を始めとする業務改善に職員が一丸となって取り組む。</div>		○平成 2 2 年度の取組状況																																												
		1 接遇能力向上について																																												
		◆ 各病院において、接遇向上委員会や研修会を通じて、接遇能力の向上に努めた。																																												
		◆ 患者サービスの向上に向けて、外来及び病棟に設置してある投書箱への病院利用に関する投書に対するきめ細やかな対応に努めた。																																												
		<table><tr><td colspan="2">項目</td><td>矢吹</td><td>喜多方</td><td>会津総合</td><td>宮下</td><td>南会津</td><td>大野</td></tr><tr><td colspan="2">接遇向上委員会</td><td>毎月</td><td>毎月</td><td>毎月</td><td>毎月</td><td>1 回</td><td>4 回</td></tr><tr><td colspan="2">接遇研修会</td><td>2 回／年</td><td>1 回／年</td><td>3 回／年</td><td>3 回／年</td><td>2 回／年</td><td>5 回／年</td></tr><tr><td rowspan="2">患者満足度</td><td>H22</td><td>6 1 %</td><td>6 6 %</td><td>7 1 %</td><td>8 4 %</td><td>8 7 %</td><td>8 0 %</td></tr><tr><td>H21</td><td>7 2 %</td><td>6 9 %</td><td>6 6 %</td><td>8 6 %</td><td>9 1 %</td><td>8 2 %</td></tr></table>						項目		矢吹	喜多方	会津総合	宮下	南会津	大野	接遇向上委員会		毎月	毎月	毎月	毎月	1 回	4 回	接遇研修会		2 回／年	1 回／年	3 回／年	3 回／年	2 回／年	5 回／年	患者満足度	H22	6 1 %	6 6 %	7 1 %	8 4 %	8 7 %	8 0 %	H21	7 2 %	6 9 %	6 6 %	8 6 %	9 1 %	8 2 %
		項目		矢吹	喜多方	会津総合	宮下	南会津	大野																																					
		接遇向上委員会		毎月	毎月	毎月	毎月	1 回	4 回																																					
		接遇研修会		2 回／年	1 回／年	3 回／年	3 回／年	2 回／年	5 回／年																																					
		患者満足度	H22	6 1 %	6 6 %	7 1 %	8 4 %	8 7 %	8 0 %																																					
			H21	7 2 %	6 9 %	6 6 %	8 6 %	9 1 %	8 2 %																																					
(＊) 患者アンケート調査結果																																														
◆ 矢吹病院と宮下病院では、無料送迎バスを運行し外来患者の通院の利便性の向上を図った。																																														
【無料送迎バス利用者数】																																														
<table><tr><td></td><td>H 2 2</td><td>H 2 1</td><td>H 2 0</td><td colspan="2">運行概要</td></tr><tr><td>矢吹病院</td><td>4, 138 人</td><td>4, 198 人</td><td>4, 619 人</td><td colspan="2">矢吹病院～矢吹駅間</td></tr><tr><td>宮下病院</td><td>4, 036 人</td><td>4, 239 人</td><td>3, 803 人</td><td colspan="2">宮下病院～三島・金山町間</td></tr></table>							H 2 2	H 2 1	H 2 0	運行概要		矢吹病院	4, 138 人	4, 198 人	4, 619 人	矢吹病院～矢吹駅間		宮下病院	4, 036 人	4, 239 人	3, 803 人	宮下病院～三島・金山町間																								
	H 2 2	H 2 1	H 2 0	運行概要																																										
矢吹病院	4, 138 人	4, 198 人	4, 619 人	矢吹病院～矢吹駅間																																										
宮下病院	4, 036 人	4, 239 人	3, 803 人	宮下病院～三島・金山町間																																										
2 業務改善について																																														
◆ 予約診察の実施や会計時間の短縮を図るとともに、待ち時間の苦痛を少しでも和らげるため、四季折々の季節の風物詩やきれいな花などを通して、より心豊かに和やかに過ごしていただくための癒しの空間づくりを行った。																																														
○共通目標指標																																														
<div><div>患者満足度</div><div>*外来患者と入院患者に対する年 1 回の患者アンケート調査結果</div><div><div>2 1 年度実績値 7 7 . 4 %</div><div>2 2 年度目標値 8 0 % 以上</div><div>2 2 年度実績値 7 5 . 1 %</div><div>2 3 年度目標値 8 5 % 以上</div></div></div>																																														

□目標１：医療の質の向上（各病院の取組状況）

番号	取組機関	アクションプラン	取組内容	平成２２年度取組状況	取組評価												
1	共通取組	◇病院機能評価の認証更新	医療の質の向上と信頼の確立を目的として、財団法人日本医療機能評価機構が中立的な立場で医療機関の機能を評価・審査する病院機能評価の認定更新を図る。	○病院機能評価について <table><tr><td>病院名</td><td>実施状況</td></tr><tr><td>矢吹病院</td><td>○ver6 認定【H22. 3. 27～H27. 3. 26】</td></tr><tr><td>宮下病院</td><td>○ver6 認定へ向けて準備 ver5 認定【H19. 2. 18～H24. 2. 17】</td></tr><tr><td>南会津病院</td><td>○ver6 認定【H23. 3. 20～H28. 3. 19】</td></tr></table>	病院名	実施状況	矢吹病院	○ver6 認定【H22. 3. 27～H27. 3. 26】	宮下病院	○ver6 認定へ向けて準備 ver5 認定【H19. 2. 18～H24. 2. 17】	南会津病院	○ver6 認定【H23. 3. 20～H28. 3. 19】	5				
病院名	実施状況																
矢吹病院	○ver6 認定【H22. 3. 27～H27. 3. 26】																
宮下病院	○ver6 認定へ向けて準備 ver5 認定【H19. 2. 18～H24. 2. 17】																
南会津病院	○ver6 認定【H23. 3. 20～H28. 3. 19】																
2		◇インフォームド・コンセントの充実	良質な医療の提供を図るため、患者さんに対する的確な診断と治療はもとより、診断内容、治療計画さらには副作用やリスク等を含めて十分説明し、患者さんが理解、納得した上で治療行為を選択していくインフォームド・コンセントの充実を図る。	○会津総合病院では、カルテを電子化したことにより、診療情報の共有化が可能となり、インフォームド・コンセント、チーム医療の充実など医療の質の向上につなげてきた。 ○定期的な委員会を開催し、患者・家族への安心・安全な医療と情報の提供について検討してきた。	4												
3	矢吹病院	◇訪問看護の充実検討	今後とも新規退院患者などへのきめ細かな訪問看護を実施する。	○前年度に１日あたり７．２人まで増加したが、２２年度は東日本大震災後のガソリン不足等のため３月は前年より９４人の減となったほか、訪問看護終了者もいたため年間１２９人減少した。 【訪問看護実施件数】訪問看護登録者数６８名 <table><tr><td>平成２２年度</td><td>平成２１年度</td><td>平成２０年度</td><td>平成１９年度</td></tr><tr><td>１,６８８件</td><td>１,８１７件</td><td>１,７７６件</td><td>１,４０５件</td></tr></table>	平成２２年度	平成２１年度	平成２０年度	平成１９年度	１,６８８件	１,８１７件	１,７７６件	１,４０５件	5				
平成２２年度	平成２１年度	平成２０年度	平成１９年度														
１,６８８件	１,８１７件	１,７７６件	１,４０５件														
4		◇デイケア（社会復帰訓練）の充実検討	料理や手芸、スポーツ、季節ごとの行事などのプログラムなどを行うなど、デイケアの充実強化を図る。	○患者さんが６時間のデイケアの都合が悪い日は、３時間のショートケアで受け入れるなどの柔軟な対応に努めた結果、前年を０．１人上回った。 【デイケア実施状況】登録者数４５名 <table><tr><td>平成２２年度</td><td>平成２１年度</td><td>平成２０年度</td><td>平成１９年度</td></tr><tr><td>３,８４６件</td><td>３,７９０件</td><td>３,９５４件</td><td>３,８４０件</td></tr></table>	平成２２年度	平成２１年度	平成２０年度	平成１９年度	３,８４６件	３,７９０件	３,９５４件	３,８４０件	5				
平成２２年度	平成２１年度	平成２０年度	平成１９年度														
３,８４６件	３,７９０件	３,９５４件	３,８４０件														
5		◇心神喪失者等医療観察法に基づく指定入院医療機関としての指定検討	触法精神障害者の専門的入院治療と社会復帰を支援する医療体制の充実に向けて検討する。	○心神喪失者等医療観察法に基づく「指定入院医療機関」の指定検討については、これまでの看護師やコ・メディカルによる積極的な情報収集や研修会参加などのほか、県保健福祉部と県立医大と連携した協議を進めてところである。	3												
6	喜多方病院	◇受診枠の拡大による健康診断及び人間ドック充実	地域の要望に対応するため、１日当たりの受診枠を拡大して、健康診断・人間ドック事業を充実する。	○１日の受入枠の拡大、年間の受入時期の見直し及び受入体制の充実を行った。 【実施状況】 <table><tr><td>項目</td><td>平成２２年度</td><td>平成２１年度</td><td>平成２０年度</td></tr><tr><td>健康診断件数</td><td>３,２７５件</td><td>３,１７９件</td><td>２,８５４件</td></tr><tr><td>医療相談収益</td><td>２４,６１４千円</td><td>２５,２６９千円</td><td>２２,７８５千円</td></tr></table>	項目	平成２２年度	平成２１年度	平成２０年度	健康診断件数	３,２７５件	３,１７９件	２,８５４件	医療相談収益	２４,６１４千円	２５,２６９千円	２２,７８５千円	5
項目	平成２２年度	平成２１年度	平成２０年度														
健康診断件数	３,２７５件	３,１７９件	２,８５４件														
医療相談収益	２４,６１４千円	２５,２６９千円	２２,７８５千円														
7	会津総合病院	◇電子カルテシステム導入による医療の質の向上	患者さんに対する画面上での説明や待ち時間の短縮による患者サービスの向上のほか、データベースに蓄積された診療情報を症例研究に活用することで、質の高い医療を提供する。	○オーダーリングシステムとの連携により、検査・処置、投薬その他における患者誤認の防止や会計処理の迅速化にもつながっている。	5												
8		◇チーム医療の推進	医師、看護師、管理栄養士、薬剤師、臨床検査技師などが一体となり、多職種で各疾患治療に応じた栄養管理を適切に実施するNST（栄養サポートチーム）の充実を図るなど、チーム医療の推進を図る。	○高度な臨床栄養管理を適切に実施するため、 <u>栄養サポートチーム（NST）</u> の充実を図り、チーム医療の推進を図っている。（栄養サポートチーム加算、平成22年9月1日算定開始） ○一般病棟において人工呼吸器の離脱に向け適切な呼吸器設定や口腔状態の管理を行うため、医師、看護師、臨床工学技士、理学療法士からなる <u>呼吸ケアチーム</u> を設置して、チーム医療の推進を図っている。（呼吸ケアチーム加算、平成22年9月1日算定開始）	5												

9	宮下病院	◇診療圏域内唯一の病院として質の高い安定的な医療の提供	地域の方々が安全に安心して暮らしていけるよう、診療圏域内唯一の病院として、常勤医師の確保・定着に向けた取組みを強化していくとともに、県立医科大学や会津総合病院等との連携を強化しながら、高齢化が急速に進展する地域特性に対応した医療を継続して提供する。	【診療応援実施状況】 <table><tr><th>場所</th><th>内容</th><th>平成２２年度</th><th>平成２１年度</th></tr><tr><td>柳津町国民健康保険診療所</td><td>毎週月曜日に１名派遣</td><td>４９回／年</td><td>４６回／年</td></tr><tr><td>金山町国民健康保険診療所</td><td>毎週火曜日から金曜日まで１名派遣</td><td>１９７回／年</td><td>１９２回／年</td></tr><tr><td>特別養護老人ホーム桐寿苑</td><td>毎週金曜日に管理医として１名派遣</td><td>５０回／年</td><td>４７回／年</td></tr></table>	場所	内容	平成２２年度	平成２１年度	柳津町国民健康保険診療所	毎週月曜日に１名派遣	４９回／年	４６回／年	金山町国民健康保険診療所	毎週火曜日から金曜日まで１名派遣	１９７回／年	１９２回／年	特別養護老人ホーム桐寿苑	毎週金曜日に管理医として１名派遣	５０回／年	４７回／年	4
場所	内容	平成２２年度	平成２１年度																		
柳津町国民健康保険診療所	毎週月曜日に１名派遣	４９回／年	４６回／年																		
金山町国民健康保険診療所	毎週火曜日から金曜日まで１名派遣	１９７回／年	１９２回／年																		
特別養護老人ホーム桐寿苑	毎週金曜日に管理医として１名派遣	５０回／年	４７回／年																		
10		◇訪問診療・訪問看護による在宅医療への支援	地域の保健・医療・福祉関係機関との連携を強化しながら、訪問診療・訪問看護の充実を図り、在宅医療への支援を強化する。	○へき地医療拠点病院として、訪問診療や訪問看護を通じて、在宅で療養を続ける地域の方々を支援する取組を継続し、県内で最も高齢化率が高い地域特性に対応した医療の提供を実施した。 【実施状況】 <table><tr><th>項目</th><th>平成２２年度</th><th>平成２１年度</th><th>平成２０年度</th></tr><tr><td>訪問診療</td><td>５７件（２回／月） 対象者９名</td><td>７３件（２回／月） 対象者１０名</td><td>１０７件（２回／月） 対象者１３名</td></tr><tr><td>訪問看護</td><td>４２件（１回／週） 対象者２名</td><td>７０件（１回／週） 対象者４名</td><td>６４件（１回／週） 対象者４名</td></tr></table>	項目	平成２２年度	平成２１年度	平成２０年度	訪問診療	５７件（２回／月） 対象者９名	７３件（２回／月） 対象者１０名	１０７件（２回／月） 対象者１３名	訪問看護	４２件（１回／週） 対象者２名	７０件（１回／週） 対象者４名	６４件（１回／週） 対象者４名	5				
項目	平成２２年度	平成２１年度	平成２０年度																		
訪問診療	５７件（２回／月） 対象者９名	７３件（２回／月） 対象者１０名	１０７件（２回／月） 対象者１３名																		
訪問看護	４２件（１回／週） 対象者２名	７０件（１回／週） 対象者４名	６４件（１回／週） 対象者４名																		
11		◇健康診断・人間ドック事業の充実	健康診断を担当する内科医師を配置するとともに、受診項目の充実や料金体系の見直しを行い、健康診断・人間ドック事業の拡充を図る。	○地域の医療機関や介護施設等とも連携しながら、健康診断、人間ドックによる疾病の予防、早期発見・治療等を通じて、地域住民の健康増進への支援を行った。 【実施状況】 <table><tr><th>項目</th><th>平成２２年度</th><th>平成２１年度</th><th>平成２０年度</th></tr><tr><td>健康診断件数</td><td>２７５人</td><td>２３７人</td><td>３０９人</td></tr><tr><td>うち人間ドック</td><td>１６人</td><td>２３人</td><td>１９人</td></tr><tr><td>医療相談収益</td><td>３,５９１千円</td><td>４,０８０千円</td><td>４,７８０千円</td></tr></table>	項目	平成２２年度	平成２１年度	平成２０年度	健康診断件数	２７５人	２３７人	３０９人	うち人間ドック	１６人	２３人	１９人	医療相談収益	３,５９１千円	４,０８０千円	４,７８０千円	4
項目	平成２２年度	平成２１年度	平成２０年度																		
健康診断件数	２７５人	２３７人	３０９人																		
うち人間ドック	１６人	２３人	１９人																		
医療相談収益	３,５９１千円	４,０８０千円	４,７８０千円																		
12	南会津病院	◇透析器機の増設による透析機能の強化	透析患者の利便性向上や透析患者の増に向けて、透析設備の増設を図る。	○南会津地域の維持透析の充実を図るため、２２年３月末までに１２台から１９台とした。 【実施状況】 <table><tr><th>項目</th><th>平成２２年度</th><th>平成２１年度</th><th>平成２０年度</th></tr><tr><td>実患者数</td><td>３８人</td><td>３２人</td><td>３１人</td></tr><tr><td>外来透析体制</td><td colspan="3">月・水・金（午前・午後）、火・木・土（午前）</td></tr></table>	項目	平成２２年度	平成２１年度	平成２０年度	実患者数	３８人	３２人	３１人	外来透析体制	月・水・金（午前・午後）、火・木・土（午前）			3				
項目	平成２２年度	平成２１年度	平成２０年度																		
実患者数	３８人	３２人	３１人																		
外来透析体制	月・水・金（午前・午後）、火・木・土（午前）																				
13		◇健康診断・人間ドック事業の充実	地域の要望に対応するため、平成 20 年度より開始した人間ドックの受診枠を拡大して充実を図る。	○リーズナブルな料金設定により、オプション検査（脳ドック、腫瘍マーカー等）の受診者が増加した。 【実施状況】 <table><tr><th>項目</th><th>平成２２年度</th><th>平成２１年度</th><th>平成２０年度</th></tr><tr><td>健康診断件数</td><td>７９９人</td><td>７８８人</td><td>６５４人</td></tr><tr><td>うち人間ドック</td><td>１２２人</td><td>１０１人</td><td>３８人</td></tr><tr><td>医療相談収益</td><td>１３,９１３千円</td><td>１２,４３５千円</td><td>９,４６１千円</td></tr></table>	項目	平成２２年度	平成２１年度	平成２０年度	健康診断件数	７９９人	７８８人	６５４人	うち人間ドック	１２２人	１０１人	３８人	医療相談収益	１３,９１３千円	１２,４３５千円	９,４６１千円	4
項目	平成２２年度	平成２１年度	平成２０年度																		
健康診断件数	７９９人	７８８人	６５４人																		
うち人間ドック	１２２人	１０１人	３８人																		
医療相談収益	１３,９１３千円	１２,４３５千円	９,４６１千円																		
14	大野病院	◇内科医師の確保による健康診断事業の充実	特定検診・特定保健指導や地域のニーズに対応できる健康診断事業の実施・充実に努める。	【実施状況】 <table><tr><th>項目</th><th>平成２２年度</th><th>平成２１年度</th><th>平成２０年度</th></tr><tr><td>健康診断件数</td><td>－</td><td>１,３１５人</td><td>１,３３４人</td></tr><tr><td>うち人間ドック</td><td>実施していない</td><td>実施していない</td><td>実施していない</td></tr><tr><td>医療相談収益</td><td>６,５１７千円</td><td>９,９０２千円</td><td>１０,５６０千円</td></tr></table>	項目	平成２２年度	平成２１年度	平成２０年度	健康診断件数	－	１,３１５人	１,３３４人	うち人間ドック	実施していない	実施していない	実施していない	医療相談収益	６,５１７千円	９,９０２千円	１０,５６０千円	3
項目	平成２２年度	平成２１年度	平成２０年度																		
健康診断件数	－	１,３１５人	１,３３４人																		
うち人間ドック	実施していない	実施していない	実施していない																		
医療相談収益	６,５１７千円	９,９０２千円	１０,５６０千円																		

□目標2：患者サービスの向上(各病院の取組状況)

番号	取組機関	アクションプラン	取組内容	平成２２年度取組状況	取組評価																									
15	共通取組	◇患者アンケート調査や接遇向上委員会による接遇の向上	患者アンケート調査やご意見箱の設置などにより、患者さんのニーズや意見を把握できる体制を整えるとともに、定期的に接遇向上委員会を開催し、接遇技術の向上を図るための研修会やロールプレイ等の学習会を企画するなど、患者さんの立場に立った接遇サービスの向上を図る。	<div>□各病院の取組状況</div> <table><tr><th>病院名</th><th colspan="2">取組状況</th></tr><tr><td>矢吹病院</td><td colspan="2">○患者サービスの向上に向けて、外来及び病棟に設置してある投書箱への病院利用に関する投書の検討及びフィードバックを実施しているほか、接遇向上委員会や研修会などにより接遇向上に努めた。 ○接遇研修会については２回実施したが、他委員会や業務の都合などのため参加者が少なかった。今後は、回数増や実施時間帯及び実施日などについて配慮するなどして、参加率向上に努めたい。</td></tr><tr><td>喜多方病院</td><td colspan="2">○平成２３年１月に入院・外来患者を対象に患者満足度調査を実施した。 ○平成２２年１０月に外部講師を招聘して接遇セミナー向上を開催した。今回は、地域医療機関に参加の通知を行った。</td></tr><tr><td>会津総合病院</td><td colspan="2">○来院者からの苦情や要望等を受け付けるために、院内各所に「窓」という投書箱を設置し、投書があったものに対しては院長名での回答を院内掲示版に掲示している。 ○「基本理念及び行動指針」を院内各所に掲示しているほか、全職員のネームプレート裏側にも明記して、全職員がその実現に努めている。</td></tr><tr><td>宮下病院</td><td colspan="2">○治療・検査内容等の丁寧な説明と患者接遇の向上を図るとともに、四季折々の飾り付けや院内コンサートの開催を行った。 ○無料送迎バスの運行など、外来患者の利便性の向上を図った。 ○接遇研修会<table><tr><td>４月２日</td><td>転入者オリエンテーション（病院職員としての接遇、職場のエチケット）</td></tr><tr><td>７月２７・２９日</td><td>接遇研修Ⅰ（電話対応マナー）</td></tr></table></td></tr><tr><td>南会津病院</td><td colspan="2">○患者満足度調査については、平成２０年度の指標を下回らないことを目標にしていたが、８７．４％という下回る結果となった。</td></tr><tr><td>大野病院</td><td colspan="2">○２月に実施した患者アンケートの結果をふまえ、接遇の向上等に努めた。 ○接遇研修会は、接遇の基本をテーマに、DVDによる研修会や接遇力向上自己チェックを実施した。参加率は６8.3%であった。</td></tr></table>	病院名	取組状況		矢吹病院	○患者サービスの向上に向けて、外来及び病棟に設置してある投書箱への病院利用に関する投書の検討及びフィードバックを実施しているほか、接遇向上委員会や研修会などにより接遇向上に努めた。 ○接遇研修会については２回実施したが、他委員会や業務の都合などのため参加者が少なかった。今後は、回数増や実施時間帯及び実施日などについて配慮するなどして、参加率向上に努めたい。		喜多方病院	○平成２３年１月に入院・外来患者を対象に患者満足度調査を実施した。 ○平成２２年１０月に外部講師を招聘して接遇セミナー向上を開催した。今回は、地域医療機関に参加の通知を行った。		会津総合病院	○来院者からの苦情や要望等を受け付けるために、院内各所に「窓」という投書箱を設置し、投書があったものに対しては院長名での回答を院内掲示版に掲示している。 ○「基本理念及び行動指針」を院内各所に掲示しているほか、全職員のネームプレート裏側にも明記して、全職員がその実現に努めている。		宮下病院	○治療・検査内容等の丁寧な説明と患者接遇の向上を図るとともに、四季折々の飾り付けや院内コンサートの開催を行った。 ○無料送迎バスの運行など、外来患者の利便性の向上を図った。 ○接遇研修会 <table><tr><td>４月２日</td><td>転入者オリエンテーション（病院職員としての接遇、職場のエチケット）</td></tr><tr><td>７月２７・２９日</td><td>接遇研修Ⅰ（電話対応マナー）</td></tr></table>		４月２日	転入者オリエンテーション（病院職員としての接遇、職場のエチケット）	７月２７・２９日	接遇研修Ⅰ（電話対応マナー）	南会津病院	○患者満足度調査については、平成２０年度の指標を下回らないことを目標にしていたが、８７．４％という下回る結果となった。		大野病院	○２月に実施した患者アンケートの結果をふまえ、接遇の向上等に努めた。 ○接遇研修会は、接遇の基本をテーマに、DVDによる研修会や接遇力向上自己チェックを実施した。参加率は６8.3%であった。		3
病院名	取組状況																													
矢吹病院	○患者サービスの向上に向けて、外来及び病棟に設置してある投書箱への病院利用に関する投書の検討及びフィードバックを実施しているほか、接遇向上委員会や研修会などにより接遇向上に努めた。 ○接遇研修会については２回実施したが、他委員会や業務の都合などのため参加者が少なかった。今後は、回数増や実施時間帯及び実施日などについて配慮するなどして、参加率向上に努めたい。																													
喜多方病院	○平成２３年１月に入院・外来患者を対象に患者満足度調査を実施した。 ○平成２２年１０月に外部講師を招聘して接遇セミナー向上を開催した。今回は、地域医療機関に参加の通知を行った。																													
会津総合病院	○来院者からの苦情や要望等を受け付けるために、院内各所に「窓」という投書箱を設置し、投書があったものに対しては院長名での回答を院内掲示版に掲示している。 ○「基本理念及び行動指針」を院内各所に掲示しているほか、全職員のネームプレート裏側にも明記して、全職員がその実現に努めている。																													
宮下病院	○治療・検査内容等の丁寧な説明と患者接遇の向上を図るとともに、四季折々の飾り付けや院内コンサートの開催を行った。 ○無料送迎バスの運行など、外来患者の利便性の向上を図った。 ○接遇研修会 <table><tr><td>４月２日</td><td>転入者オリエンテーション（病院職員としての接遇、職場のエチケット）</td></tr><tr><td>７月２７・２９日</td><td>接遇研修Ⅰ（電話対応マナー）</td></tr></table>		４月２日	転入者オリエンテーション（病院職員としての接遇、職場のエチケット）	７月２７・２９日	接遇研修Ⅰ（電話対応マナー）																								
４月２日	転入者オリエンテーション（病院職員としての接遇、職場のエチケット）																													
７月２７・２９日	接遇研修Ⅰ（電話対応マナー）																													
南会津病院	○患者満足度調査については、平成２０年度の指標を下回らないことを目標にしていたが、８７．４％という下回る結果となった。																													
大野病院	○２月に実施した患者アンケートの結果をふまえ、接遇の向上等に努めた。 ○接遇研修会は、接遇の基本をテーマに、DVDによる研修会や接遇力向上自己チェックを実施した。参加率は６8.3%であった。																													
16		◇外来待ち時間の短縮	外来予約システムの見直しを行うことで、予約診療の充実・拡充を図るとともに、外来待ち時間の短縮を推進し、患者さんが満足できる医療の提供に努める。	<div>□各病院の取組状況</div> <table><tr><th>病院名</th><th colspan="2">取組状況</th></tr><tr><td>矢吹病院</td><td colspan="2">○精神科の午後再診は既に４７．５％が予約患者であるほか、新患も原則予約で対応しているため、外来全体の予約患者の割合は前年を２．１ポイント上回ったが、午前中の予約制は今後の検討課題であり、目標には達していない。</td></tr><tr><td>喜多方病院</td><td colspan="2">○患者様からの意見をうけて予約時間、診察順番の目安を表示するなど、待ち時間の改善に努めた。</td></tr><tr><td>会津総合病院</td><td colspan="2">○平成２１年３月からオーダリングシステムを導入したことにより、会計待ち時間の短縮及び伝票搬送負担の軽減など患者サービスの向上並びに受付・会計業務の簡略化等部門業務の効率化につながった。</td></tr><tr><td>宮下病院</td><td colspan="2">○予約診察の実施（内科、外科） ○待ち時間を活用した院内イベントや院内健康教室の開催</td></tr></table>	病院名	取組状況		矢吹病院	○精神科の午後再診は既に４７．５％が予約患者であるほか、新患も原則予約で対応しているため、外来全体の予約患者の割合は前年を２．１ポイント上回ったが、午前中の予約制は今後の検討課題であり、目標には達していない。		喜多方病院	○患者様からの意見をうけて予約時間、診察順番の目安を表示するなど、待ち時間の改善に努めた。		会津総合病院	○平成２１年３月からオーダリングシステムを導入したことにより、会計待ち時間の短縮及び伝票搬送負担の軽減など患者サービスの向上並びに受付・会計業務の簡略化等部門業務の効率化につながった。		宮下病院	○予約診察の実施（内科、外科） ○待ち時間を活用した院内イベントや院内健康教室の開催		3										
病院名	取組状況																													
矢吹病院	○精神科の午後再診は既に４７．５％が予約患者であるほか、新患も原則予約で対応しているため、外来全体の予約患者の割合は前年を２．１ポイント上回ったが、午前中の予約制は今後の検討課題であり、目標には達していない。																													
喜多方病院	○患者様からの意見をうけて予約時間、診察順番の目安を表示するなど、待ち時間の改善に努めた。																													
会津総合病院	○平成２１年３月からオーダリングシステムを導入したことにより、会計待ち時間の短縮及び伝票搬送負担の軽減など患者サービスの向上並びに受付・会計業務の簡略化等部門業務の効率化につながった。																													
宮下病院	○予約診察の実施（内科、外科） ○待ち時間を活用した院内イベントや院内健康教室の開催																													

				<table><tr><td>南会津病院</td><td>○外来待合い及び会計待合いのテレビを地上デジタル対応の薄型テレビに替え、待ち時間の苦痛軽減を図るとともに、壁掛けとすることで車椅子の通行が容易になるよう配慮した。</td></tr><tr><td>大野病院</td><td>○外来待ち時間については、前年度末までに内科及び外科が各 2 名増員となったことから、待ち時間に関する苦情は少なくなっていますが、継続して外来待ち時間の短縮について検討した。</td></tr></table>	南会津病院	○外来待合い及び会計待合いのテレビを地上デジタル対応の薄型テレビに替え、待ち時間の苦痛軽減を図るとともに、壁掛けとすることで車椅子の通行が容易になるよう配慮した。	大野病院	○外来待ち時間については、前年度末までに内科及び外科が各 2 名増員となったことから、待ち時間に関する苦情は少なくなっていますが、継続して外来待ち時間の短縮について検討した。																											
南会津病院	○外来待合い及び会計待合いのテレビを地上デジタル対応の薄型テレビに替え、待ち時間の苦痛軽減を図るとともに、壁掛けとすることで車椅子の通行が容易になるよう配慮した。																																		
大野病院	○外来待ち時間については、前年度末までに内科及び外科が各 2 名増員となったことから、待ち時間に関する苦情は少なくなっていますが、継続して外来待ち時間の短縮について検討した。																																		
17	喜多方病院	◇送迎バスの運行検討	会津統合病院（仮称）への移行準備や患者サービスの充実を図るため、送迎バスの運行を検討する。	<table><tr><td colspan="2">○統合病院移行後の患者確保の観点から、送迎バスの運行に向けて委員会を設置し、路線や運行計画、患者アンケートの内容等について具体的に検討を行い、運行計画書を作成した。</td></tr><tr><td colspan="2">【計画の概要】（平成 2 2 年 1 2 月）</td></tr><tr><td>◇目的</td><td>・会津医療センターへ向けて、通院患者さんの利便性向上を図る。</td></tr><tr><td>◇運行方式</td><td>・交通の安全、安心の確保からバス事業者等へ運行を委託</td></tr><tr><td>◇バス車両</td><td>・需要に応じた規模の中型バス（2 5 人程度）</td></tr><tr><td>◇運行ルート</td><td>・定期 5 路線とし、曜日毎に 1 路線ずつ運行し、1 回の運行時間は 4 0 分以内</td></tr><tr><td>◇運賃</td><td>・無料</td></tr><tr><td>◇利用促進 PR</td><td>・地域連携だよりやホームページで周知、チラシを作成し利用予定者に配付</td></tr><tr><td>◇関係機関との調整</td><td>・交通管理者、道路管理者、市町村、運輸事業者等と協議、調整を実施</td></tr></table>	○統合病院移行後の患者確保の観点から、送迎バスの運行に向けて委員会を設置し、路線や運行計画、患者アンケートの内容等について具体的に検討を行い、運行計画書を作成した。		【計画の概要】（平成 2 2 年 1 2 月）		◇目的	・会津医療センターへ向けて、通院患者さんの利便性向上を図る。	◇運行方式	・交通の安全、安心の確保からバス事業者等へ運行を委託	◇バス車両	・需要に応じた規模の中型バス（2 5 人程度）	◇運行ルート	・定期 5 路線とし、曜日毎に 1 路線ずつ運行し、1 回の運行時間は 4 0 分以内	◇運賃	・無料	◇利用促進 PR	・地域連携だよりやホームページで周知、チラシを作成し利用予定者に配付	◇関係機関との調整	・交通管理者、道路管理者、市町村、運輸事業者等と協議、調整を実施	4												
○統合病院移行後の患者確保の観点から、送迎バスの運行に向けて委員会を設置し、路線や運行計画、患者アンケートの内容等について具体的に検討を行い、運行計画書を作成した。																																			
【計画の概要】（平成 2 2 年 1 2 月）																																			
◇目的	・会津医療センターへ向けて、通院患者さんの利便性向上を図る。																																		
◇運行方式	・交通の安全、安心の確保からバス事業者等へ運行を委託																																		
◇バス車両	・需要に応じた規模の中型バス（2 5 人程度）																																		
◇運行ルート	・定期 5 路線とし、曜日毎に 1 路線ずつ運行し、1 回の運行時間は 4 0 分以内																																		
◇運賃	・無料																																		
◇利用促進 PR	・地域連携だよりやホームページで周知、チラシを作成し利用予定者に配付																																		
◇関係機関との調整	・交通管理者、道路管理者、市町村、運輸事業者等と協議、調整を実施																																		
18	宮下病院	◇無料送迎バスの効率的な運行	外来患者の利便性の向上を図るため、無料送迎バスの効率的な運行に努める。	<table><tr><td colspan="3">○外来患者の利便性の向上を図るため、無料送迎バスを運行している。今後とも地域からの要望や利用状況を踏まえ、行き先や運行時刻の見直しを行うなど、効率的な運行に努めていく。</td></tr><tr><td colspan="3">【運行状況】</td></tr><tr><td colspan="3">・三島町間方・浅峻・大谷方面</td></tr><tr><td colspan="3">・三島町大石田・西方・沼田・大登方面</td></tr><tr><td colspan="3">・三島町滝谷・桧原方面</td></tr><tr><td colspan="3">・金山町川口・三島町早戸方面</td></tr><tr><td colspan="3">・金山町大栗山・沼沢・川口・三島町早戸方面</td></tr><tr><td></td><td>平成 2 2 年度</td><td>平成 2 1 年度</td></tr><tr><td>迎え乗車数</td><td>2,0 5 0 人（1 日平均 8.4 人）</td><td>2, 1 8 8 人（1 日平均 9. 0 人）</td></tr><tr><td>送り乗車数</td><td>1,9 8 6 人（1 日平均 8.1 人）</td><td>2, 0 5 1 人（1 日平均 8. 5 人）</td></tr></table>	○外来患者の利便性の向上を図るため、無料送迎バスを運行している。今後とも地域からの要望や利用状況を踏まえ、行き先や運行時刻の見直しを行うなど、効率的な運行に努めていく。			【運行状況】			・三島町間方・浅峻・大谷方面			・三島町大石田・西方・沼田・大登方面			・三島町滝谷・桧原方面			・金山町川口・三島町早戸方面			・金山町大栗山・沼沢・川口・三島町早戸方面				平成 2 2 年度	平成 2 1 年度	迎え乗車数	2,0 5 0 人（1 日平均 8.4 人）	2, 1 8 8 人（1 日平均 9. 0 人）	送り乗車数	1,9 8 6 人（1 日平均 8.1 人）	2, 0 5 1 人（1 日平均 8. 5 人）	4
○外来患者の利便性の向上を図るため、無料送迎バスを運行している。今後とも地域からの要望や利用状況を踏まえ、行き先や運行時刻の見直しを行うなど、効率的な運行に努めていく。																																			
【運行状況】																																			
・三島町間方・浅峻・大谷方面																																			
・三島町大石田・西方・沼田・大登方面																																			
・三島町滝谷・桧原方面																																			
・金山町川口・三島町早戸方面																																			
・金山町大栗山・沼沢・川口・三島町早戸方面																																			
	平成 2 2 年度	平成 2 1 年度																																	
迎え乗車数	2,0 5 0 人（1 日平均 8.4 人）	2, 1 8 8 人（1 日平均 9. 0 人）																																	
送り乗車数	1,9 8 6 人（1 日平均 8.1 人）	2, 0 5 1 人（1 日平均 8. 5 人）																																	
19		◇院内イベントの開催	入院患者や当院への来院者が快適で安らぎのある時を過ごしていただけるよう、四季折々の飾り付けを行うとともに、院内コンサートを開催するなど、「癒しのある空間」の提供に努める。	<table><tr><td colspan="2">○院内イベントの実施状況</td></tr><tr><td>5 月 1 2 日</td><td>◇看護の日イベント（参加者約 8 2 名）</td></tr><tr><td>7 月</td><td>◇七夕飾り</td></tr><tr><td>7 月 7 日</td><td>◇七夕コンサート（参加者約 7 0 名）</td></tr><tr><td>9 月</td><td>◇お月見飾り</td></tr><tr><td>1 2 月 1 5 日</td><td>◇クリスマスコンサート（参加者約 8 5 名）</td></tr><tr><td>1 2 月</td><td>◇クリスマス飾り</td></tr><tr><td>1 月</td><td>◇正月飾り</td></tr><tr><td>3 月</td><td>◇雛飾り</td></tr><tr><td>3 月 3 日</td><td>◇ひな祭りコンサート</td></tr></table>	○院内イベントの実施状況		5 月 1 2 日	◇看護の日イベント（参加者約 8 2 名）	7 月	◇七夕飾り	7 月 7 日	◇七夕コンサート（参加者約 7 0 名）	9 月	◇お月見飾り	1 2 月 1 5 日	◇クリスマスコンサート（参加者約 8 5 名）	1 2 月	◇クリスマス飾り	1 月	◇正月飾り	3 月	◇雛飾り	3 月 3 日	◇ひな祭りコンサート	5										
○院内イベントの実施状況																																			
5 月 1 2 日	◇看護の日イベント（参加者約 8 2 名）																																		
7 月	◇七夕飾り																																		
7 月 7 日	◇七夕コンサート（参加者約 7 0 名）																																		
9 月	◇お月見飾り																																		
1 2 月 1 5 日	◇クリスマスコンサート（参加者約 8 5 名）																																		
1 2 月	◇クリスマス飾り																																		
1 月	◇正月飾り																																		
3 月	◇雛飾り																																		
3 月 3 日	◇ひな祭りコンサート																																		

基本方針２：収益確保と費用削減による健全な病院経営（健全な病院経営の視点）

改革プラン方針		平成２２年度取組状況及び自己評価				
目標 1	収益の確保	目標値達成状況評価		取組状況評価		
		【５】	目標値を上回った	【３】	取り組んでいる	
<p>〔医療機能の充実〕</p> <p>医師確保による医療機能の充実を図るとともに、適切な施設基準の取得や診療報酬請求漏れの防止、査定率減少に取り組む。</p> <p>患者数の増加を図るため、健康診断の充実や特定保健指導の取組みを通じて、生活習慣病対策など予防医療に力を入れるとともに、透析などの特殊外来や訪問診療・訪問看護の充実に取り組む。</p> <p>〔先進医療機器の導入〕</p> <p>質の高い医療の提供や収益確保を図るため、計画的に先進医療機器の導入を行う。</p>		○平成２２年度の取組状況				
		1 医療機能の充実				
		◆ 各病院の診療報酬査定委員会では、査定内容の分析を行って、適正に請求できるケースについては再審査請求を行うなど、査定率の減少に努めた。				
		◆ 各病院の医事担当者による「収益確保プロジェクト」では、診療報酬制度や医事業務遂行における課題などについて勉強会を行い、幅広い視野から収益確保につながる対策を検討した。				
		◆ 地域の保健・医療・福祉関係機関との連携を行いながら、訪問看護・訪問診療の充実を図り、在宅医療への支援を行った。				
		【訪問看護・訪問診療実施状況】				
		病院名	部門	平成２２年度	平成２１年度	平成２０年度
		矢吹病院	訪問看護	1,688件・68名	1,817件・63名	1,776件
		宮下病院	訪問看護	42件・2名	70件・4名	64件・4名
			訪問診療	57件・9名	73件・10名	107件・13名
		◆ 会津総合病院では、平成２１年7月からDPC請求を開始し、在院日数の適正管理、クリニカルパスの作成拡大、術前検査等の見直し、注射等の手術中実施へのシフト、基準作成による抗生剤使用量の抑制、NST活動の推進による薬剤等使用量の抑制、抗生剤・高額薬剤・造影剤を中心としたジェネリック化の推進を行ってきた。その結果、 <u>出来高算定ベースと比較して1.1億円の増収</u> となった。				
		◆ 南会津病院では、透析器械を19台に増設し、透析患者の利便性向上に努めた。				
		【透析実施状況】				
				平成２２年度	平成２１年度	平成２０年度
		会津総合病院	透析台数	12台	12台	12台
			年平均実患者数	9名	8名	9名
		南会津病院	透析台数	19台	12台	12台
			年平均患者数	38名	32名	31名

<

目標 2	未収金の発生防止と早期回収の強化	目標値達成状況		取組状況																																																																																
		【 5 】	目標値を上回った	【 3 】	取り組んでいる																																																																															
<div>〔医療相談の実施〕</div> <p>新たな未収金発生の抑制を図るため、高額療養費制度などの周知徹底や医療費に関する面談を行うなど、全職員の共通認識の下で医療相談を積極的に実施する。</p> <div>〔未収金マニュアルの活用〕</div> <p>喫緊の課題である未収金残高の削減に向けて、県立病院医業未収金マニュアルを活用し、新たな未収金発生を防止するとともに、現存する未収金の早期回収に努める。</p> <div>〔効果的な未収金対策の推進〕</div> <p>未収金回収については、電話や文書での督促、自宅訪問などを継続的な実施により、早期回収に向けた効果的な対策を推進する。</p>		○平成 2 2 年度の取組状況																																																																																		
		1 医療相談の実施																																																																																		
		◆ 入院患者さんについては、限度額適用認定証の交付手続きを行うことで窓口負担が軽減されることから、制度の周知、活用に努めるとともに、医療費に関する個別の医療相談を継続して行い、各部門が連携して未収金対策に取り組んだ。																																																																																		
		2 未収金マニュアルの活用																																																																																		
		◆ 「県立病院事業未収金マニュアル」及び「福島県立病院医業未収金支払督促事務取扱指針」に基づき、未収金回収については電話や文書での督促、自宅訪問による早期徴収を実施した。																																																																																		
		【未収金残高状況】（単位：人・件・千円）																																																																																		
		<table><tr><th rowspan="2">病院名</th><th colspan="3">H 2 2 年度末</th><th colspan="2">H 2 1 年度末</th><th colspan="2">H 2 0 年度末</th></tr><tr><th>実人数</th><th>件数</th><th>金額</th><th>件数</th><th>金額</th><th>件数</th><th>金額</th></tr><tr><td>矢吹病院</td><td>13</td><td>49</td><td>1,964</td><td>48</td><td>3,223</td><td>35</td><td>3,843</td></tr><tr><td>喜多方病院</td><td>38</td><td>25</td><td>795</td><td>25</td><td>770</td><td>20</td><td>1,460</td></tr><tr><td>会津総合病院</td><td>827</td><td>1,402</td><td>52,041</td><td>1,530</td><td>53,822</td><td>1,360</td><td>52,448</td></tr><tr><td>宮下病院</td><td>6</td><td>17</td><td>289</td><td>19</td><td>339</td><td>19</td><td>390</td></tr><tr><td>南会津病院</td><td>147</td><td>536</td><td>9,863</td><td>455</td><td>8,896</td><td>435</td><td>9,601</td></tr><tr><td>大野病院</td><td>248</td><td>-</td><td>9,995</td><td>423</td><td>11,347</td><td>543</td><td>12,975</td></tr><tr><td>病院局</td><td>36</td><td>50</td><td>7,554</td><td>74</td><td>9,757</td><td>119</td><td>13,659</td></tr><tr><td>合 計</td><td>1,315</td><td>2,079</td><td>82,499</td><td>2,574</td><td>88,153</td><td>2,531</td><td>94,374</td></tr></table>				病院名	H 2 2 年度末			H 2 1 年度末		H 2 0 年度末		実人数	件数	金額	件数	金額	件数	金額	矢吹病院	13	49	1,964	48	3,223	35	3,843	喜多方病院	38	25	795	25	770	20	1,460	会津総合病院	827	1,402	52,041	1,530	53,822	1,360	52,448	宮下病院	6	17	289	19	339	19	390	南会津病院	147	536	9,863	455	8,896	435	9,601	大野病院	248	-	9,995	423	11,347	543	12,975	病院局	36	50	7,554	74	9,757	119	13,659	合 計	1,315	2,079	82,499	2,574	88,153	2,531	94,374
		病院名	H 2 2 年度末				H 2 1 年度末		H 2 0 年度末																																																																											
			実人数	件数	金額	件数	金額	件数	金額																																																																											
		矢吹病院	13	49	1,964	48	3,223	35	3,843																																																																											
喜多方病院	38	25	795	25	770	20	1,460																																																																													
会津総合病院	827	1,402	52,041	1,530	53,822	1,360	52,448																																																																													
宮下病院	6	17	289	19	339	19	390																																																																													
南会津病院	147	536	9,863	455	8,896	435	9,601																																																																													
大野病院	248	-	9,995	423	11,347	543	12,975																																																																													
病院局	36	50	7,554	74	9,757	119	13,659																																																																													
合 計	1,315	2,079	82,499	2,574	88,153	2,531	94,374																																																																													
3 効果的な未収金対策の推進																																																																																				
◆ 担当者会議において、未収金の効果的な催告方法の検討、連帯保証人への催告徹底の申し合わせなどを行っている。																																																																																				
◆ 資力があるにもかかわらず正当な理由なく診療費を未納している方に対しては、支払い督促の申立を行っていたが、2 2 年度の申立は、時効となったケースもあり行っていない。																																																																																				
<table><tr><td></td><td>平成 2 2 年度</td><td>平成 2 1 年度</td><td>平成 2 0 年度</td><td>平成 1 9 年度</td></tr><tr><td>支払督促</td><td>0 件</td><td>0 件</td><td>5 件</td><td>5 件</td></tr><tr><td>調停</td><td>0 件</td><td>2 件</td><td>1 件</td><td>0 件</td></tr></table>					平成 2 2 年度	平成 2 1 年度	平成 2 0 年度	平成 1 9 年度	支払督促	0 件	0 件	5 件	5 件	調停	0 件	2 件	1 件	0 件																																																																		
	平成 2 2 年度	平成 2 1 年度	平成 2 0 年度	平成 1 9 年度																																																																																
支払督促	0 件	0 件	5 件	5 件																																																																																
調停	0 件	2 件	1 件	0 件																																																																																
○共通目標指標																																																																																				
<div>過年度未収金残高</div> <div><div>2 1 年度実績値 8 8 百万円</div><div>2 2 年度目標値 9 0 百万円</div><div>2 2 年度実績値 8 2 百万円</div><div>2 3 年度目標値 8 8 百万円</div></div>																																																																																				

目標 3	費用の見直し	目標値達成状況		取組状況																										
		【2】	目標値を下回った	【3】	取り組んでいる																									
<p>[人件費の抑制]</p> <p>更なる総人件費の抑制を図るため、給与費の抑制や、病棟・病床数の見直し、業務の効率化による職員配置の適正化、委託の推進などに取り組む。</p> <p>[診療材料・医薬品の費用削減]</p> <p>更なる材料費の削減を図るため、平成20年度に導入した新型SPDにより、医薬品・診療材料費の共同購入や適正管理を徹底する。</p> <p>[日常的な経費節減]</p> <p>日常的な経費の削減を図るため、光熱水費の更なる節減や価格変動に応じた契約単価の見直しによる燃料費の削減、委託業務における業務内容の見直しなどを行う。</p>		○平成22年度の取組状況																												
		1 人件費の抑制																												
		◆ 患者数の動向や病棟再編の実施状況等に応じた看護職員、医療技術職員及び事務職員等の配置見直しを行い、新規採用を見送るなど定員管理の適正化に努め、総人件費の抑制を図った。																												
		<table><tr><td colspan="2">項目</td><td>平成22年度</td><td>平成21年度</td><td>平成20年度</td></tr><tr><td colspan="2">給与費</td><td>7,746,207 千円</td><td>8,344,629 千円</td><td>8,310,258 千円</td></tr><tr><td></td><td>うち退職手当除く</td><td>6,981,109 千円</td><td>7,193,418 千円</td><td>7,656,733 千円</td></tr><tr><td colspan="2">職員数（6月1日）</td><td>737人</td><td>781人</td><td>814人</td></tr></table>				項目		平成22年度	平成21年度	平成20年度	給与費		7,746,207 千円	8,344,629 千円	8,310,258 千円		うち退職手当除く	6,981,109 千円	7,193,418 千円	7,656,733 千円	職員数（6月1日）		737人	781人	814人					
		項目		平成22年度	平成21年度	平成20年度																								
		給与費		7,746,207 千円	8,344,629 千円	8,310,258 千円																								
			うち退職手当除く	6,981,109 千円	7,193,418 千円	7,656,733 千円																								
		職員数（6月1日）		737人	781人	814人																								
		＊本局職員含む																												
		2 診療材料・医薬品の費用削減																												
◆ 医薬品・診療材料の購入費は、大きな比重を占めていることから、SPD導入を行い、適正な管理、採用品目の見直しを行い、業務の効率化及び経費の削減に取り組んだ。																														
◆ SPDは、業務の効率化と費用削減を図るため、医薬品・診療材料の価格交渉や一括発注、診療材料の供給・搬送、在庫管理を委託している。																														
<table><tr><td colspan="2">項目</td><td>平成22年度</td><td>平成21年度</td><td>平成20年度</td></tr><tr><td colspan="2">材料費</td><td>1,606,525 千円</td><td>1,498,914 千円</td><td>1,857,281 千円</td></tr><tr><td></td><td>うち薬品費</td><td>924,079 千円</td><td>844,377 千円</td><td>1,039,837 千円</td></tr><tr><td></td><td>うち診療材料費</td><td>575,723 千円</td><td>547,753 千円</td><td>691,214 千円</td></tr><tr><td colspan="2">SPD効果</td><td>10,250 千円</td><td>6,971 千円</td><td>1,103 千円</td></tr></table>				項目		平成22年度	平成21年度	平成20年度	材料費		1,606,525 千円	1,498,914 千円	1,857,281 千円		うち薬品費	924,079 千円	844,377 千円	1,039,837 千円		うち診療材料費	575,723 千円	547,753 千円	691,214 千円	SPD効果		10,250 千円	6,971 千円	1,103 千円		
項目		平成22年度	平成21年度	平成20年度																										
材料費		1,606,525 千円	1,498,914 千円	1,857,281 千円																										
	うち薬品費	924,079 千円	844,377 千円	1,039,837 千円																										
	うち診療材料費	575,723 千円	547,753 千円	691,214 千円																										
SPD効果		10,250 千円	6,971 千円	1,103 千円																										
＊SPD効果＝購入額削減額－委託額																														
		3 日常的な経費削減																												
		◆ 委託料については、医療機器の保守料など仕様の見直しを行い委託額の縮減に取り組んだ。																												
		<table><tr><td colspan="2">項目</td><td>平成22年度</td><td>平成21年度</td><td>平成20年度</td></tr><tr><td colspan="2">経費</td><td>1,915,709 千円</td><td>1,689,261 千円</td><td>1,790,164 千円</td></tr><tr><td></td><td>うち消耗品費</td><td>51,404 千円</td><td>47,823 千円</td><td>62,201 千円</td></tr><tr><td></td><td>うち光熱水費</td><td>158,701 千円</td><td>157,155 千円</td><td>169,028 千円</td></tr><tr><td></td><td>うち委託料</td><td>965,734 千円</td><td>908,079 千円</td><td>919,054 千円</td></tr></table>				項目		平成22年度	平成21年度	平成20年度	経費		1,915,709 千円	1,689,261 千円	1,790,164 千円		うち消耗品費	51,404 千円	47,823 千円	62,201 千円		うち光熱水費	158,701 千円	157,155 千円	169,028 千円		うち委託料	965,734 千円	908,079 千円	919,054 千円
		項目		平成22年度	平成21年度	平成20年度																								
		経費		1,915,709 千円	1,689,261 千円	1,790,164 千円																								
			うち消耗品費	51,404 千円	47,823 千円	62,201 千円																								
			うち光熱水費	158,701 千円	157,155 千円	169,028 千円																								
			うち委託料	965,734 千円	908,079 千円	919,054 千円																								
		○共通目標指標																												
		<div>職員給与比率（一般病院）</div> <div>＊職員給与費／医業収益＊100</div>																												
<div>21年度実績値 106.9%</div> <div>22年度目標値 92%以下</div> <div>22年度実績値 98.4%</div> <div>23年度目標値 87%以下</div>																														

□目標１：収益の確保（各病院の取組状況）

番号	取組機関	アクションプラン	取組内容	進捗状況	取組評価																					
1	共通取組	◇常勤医師の確保	関係機関等と連携しながら、常勤医師を確保することで、安定的な診療体制の確立を図る。	<div>□常勤医師（平成23年6月1日現在64人）</div> <table><tr><th>病院名</th><th>医師数</th><th>取組状況</th></tr><tr><td>矢吹病院</td><td>7人</td><td>○常勤医師については、22年度は増員することができなかったが、22年度に当院にて臨床研修を実施した公立岩瀬病院の臨床研修医1名が23年度より当院の常勤医師となった。</td></tr><tr><td>喜多方病院</td><td>4人</td><td>○平成21年度から、内科医1名が非常勤となり、常勤医師は4名となっている。</td></tr><tr><td>会津総合病院</td><td>31人</td><td>○内科16、外科3、整形外科3、神経精神科2、皮膚科1、耳鼻科2、麻酔科1、婦人科1、歯科1、病理1、（研修医1）＊研修医は含めない</td></tr><tr><td>宮下病院</td><td>6人</td><td>○内科4名、外科1名、麻酔科1名</td></tr><tr><td>南会津病院</td><td>15人</td><td>○関係機関に積極的に働きかけをおこなったが、結果として増とならなかった。 ○産婦人科常勤医2名を計画していたが、現在のところ見通しが立っていない。</td></tr><tr><td>大野病院</td><td>1人</td><td>○震災の影響で再開の見込みがつかないため、派遣元の県立医大等へ異動</td></tr></table>	病院名	医師数	取組状況	矢吹病院	7人	○常勤医師については、22年度は増員することができなかったが、22年度に当院にて臨床研修を実施した公立岩瀬病院の臨床研修医1名が23年度より当院の常勤医師となった。	喜多方病院	4人	○平成21年度から、内科医1名が非常勤となり、常勤医師は4名となっている。	会津総合病院	31人	○内科16、外科3、整形外科3、神経精神科2、皮膚科1、耳鼻科2、麻酔科1、婦人科1、歯科1、病理1、（研修医1）＊研修医は含めない	宮下病院	6人	○内科4名、外科1名、麻酔科1名	南会津病院	15人	○関係機関に積極的に働きかけをおこなったが、結果として増とならなかった。 ○産婦人科常勤医2名を計画していたが、現在のところ見通しが立っていない。	大野病院	1人	○震災の影響で再開の見込みがつかないため、派遣元の県立医大等へ異動	4
病院名	医師数	取組状況																								
矢吹病院	7人	○常勤医師については、22年度は増員することができなかったが、22年度に当院にて臨床研修を実施した公立岩瀬病院の臨床研修医1名が23年度より当院の常勤医師となった。																								
喜多方病院	4人	○平成21年度から、内科医1名が非常勤となり、常勤医師は4名となっている。																								
会津総合病院	31人	○内科16、外科3、整形外科3、神経精神科2、皮膚科1、耳鼻科2、麻酔科1、婦人科1、歯科1、病理1、（研修医1）＊研修医は含めない																								
宮下病院	6人	○内科4名、外科1名、麻酔科1名																								
南会津病院	15人	○関係機関に積極的に働きかけをおこなったが、結果として増とならなかった。 ○産婦人科常勤医2名を計画していたが、現在のところ見通しが立っていない。																								
大野病院	1人	○震災の影響で再開の見込みがつかないため、派遣元の県立医大等へ異動																								
2	矢吹病院	◇看護補助加算1の算定	看護補助加算1の算定を開始し、より高い入院基本料等加算の取得により、収益増を図る。	○平成20年11月より「看護補助加算2」から「看護補助加算1」に上位ランクの届出を行って算定している。	5																					
3		◇外来患者に対する精神科作業療法の実施	精神科作業療法については、入院患者を対象に実施しているが、今後、外来患者のニーズを把握し、外来部門とOT部門の連携方法等の具体策について検討する。	○外来の精神科作業療法については、22年4月に対象者1名から開始し、その後1年間をとおして徐々に希望者も増え、3月の対象患者数は7人となり、実施人数は年間延べ141人に達した。	3																					
4	会津総合病院	◇コメディカルスタッフの確保	リハビリテーションに関する施設基準への対応を図るため、コメディカルスタッフ（OT（作業療法士）・PT（理学療法士））の確保を図る。	○スタッフの確保までには至らなかった。	2																					
5		◇DPC・電子カルテ・クリニカルパスの有効活用等による入院収益の増	疾病ごとの入院収入と投下医療資源についての管理を強化し、収益増を図るため、電子カルテ機能を十分に活用するとともに、クリニカルパスの作成見直しを行う。	○DPC導入による効果（出来高算定ベースとの比較）として、平成22年度は約1.1億円の増収となった。 ○平成21年7月入院分から医療費のDPC請求を開始し、それに併せて「DPC包括請求にかかる対応指針」を作成し、在院日数の適正管理、クリニカルパスの作成拡大、術前検査等の見直し、注射等の手術中実施へのシフト、基準作成による抗生剤使用量の抑制、NST活動の推進による薬剤等使用量の抑制、抗生剤・高額薬剤・造影剤を中心としたジェネリック化の推進を行ってきた。 ○平成22年度の後発医薬品採用割合 金額ベース 8.56%（H21 10.29%）、品目ベース 8.83%（H21 9.19%）	4																					
6	宮下病院	◇診療科目の充実（再掲）	診療科目の充実を図るなど、県立医科大学や会津総合病院等との連携を強化しながら、県内で高齢化率が一番高い地域の特性に的確に対応した医療を提供。	○再掲	4																					
7		◇訪問診療の充実による外来患者の確保	訪問診療等の充実により、患者サービスの向上や外来患者の確保を図る。	○へき地医療拠点病院として、訪問診療や訪問看護を実施するとともに、平成21年7月からは地域包括支援センターや介護施設との合同ケア会議を定期的開催するなど、在宅療養を続ける地域の方々を支援する取組みを継続し、外来患者の確保を図った。	4																					
8		◇無料送迎バスの効率的な運行（再掲）	外来患者の利便性向上や収益増に向けて、無料送迎バスの効率的な運行を図る。	○再掲	4																					
9	南会津病院	◇DPC病院への移行による収益の確保	DPC（包括支払制度）病院への移行に向けて、引き続きDPC準備病院としてデータの収集等を行う。	○必ずしも急性期患者のみを対象とするわけではないという当院の性格から、当面DPC対象病院となることは収益の面からみても不相当であると判断し、準備病院を辞退した。	—																					
10		◇透析器機の増設による透析機能の強化（再掲）	透析患者の利便性向上や透析患者の増に向けて、透析設備の増設を図る。	○再掲	3																					

11	大野病院	◇薬剤管理指導の効率的な実施	収益の確保を図るため、薬剤管理指導を効率的に実施する。	○薬剤指導管理料については、入院患者の減少による影響から算定額が減少した。	3						
12		◇亜急性期入院医療管理料の導入	新たな収入の確保を図るため、急性期治療を経過した患者に対し、在宅復帰支援に向けた亜急性期病床を設置する。	○亜急性期入院医療管理料については、算定を辞退した。	—						
13	病院局	◇県立病院収益確保プロジェクトの実施	平成22年度診療報酬制度改定やDPC導入への対応、地域連携の強化による患者確保などに向けた対策を講じるため、経営改善に向けて組織されている病院経営検討会に、実務担当者レベルのメンバーを加え発展させ、定期的に部門横断的な検討を行い、具体的に取り組む。	○経営改善に向けた対応策を検討するため、診療報酬制度や契約関係などの様々な角度から、お互いに知恵を出し合いながら収益確保につながる対策を検討した。 <table><tr><td>回数</td><td>実施日</td><td>内容</td></tr><tr><td>第1回</td><td>7月2日</td><td>◇平成22年度診療報酬改定における現状について ◇医事業務遂行における運用フローと課題について ◇情報提供</td></tr></table>	回数	実施日	内容	第1回	7月2日	◇平成22年度診療報酬改定における現状について ◇医事業務遂行における運用フローと課題について ◇情報提供	3
回数	実施日	内容									
第1回	7月2日	◇平成22年度診療報酬改定における現状について ◇医事業務遂行における運用フローと課題について ◇情報提供									
14		◇未利用財産の売却	病院事業財産を活用することにより収益確保を図るため、公舎跡地等未利用財産の売却を進める。	○再掲 ○病院事業財産で未利用になっていた医師公舎跡地の売却を行い、収益確保を図った。	5						
15		◇外部意見による経営評価	県立病院事業の経営改善に向けた取組状況について、有識者で構成される第三者機関である県立病院経営評価委員会の評価を受けるなど、多様な意見を取り入れながら一層の経営健全化を図る。	○再掲 ○病院経営、医療情勢、自治体病院に関する専門的知識を備えた外部有識者で構成する「県立病院事業経営評価委員会」を7月28日に開催し、「県立病院改革プラン取組状況報告書」についての意見・助言をいただいた。 ○初年度の自己評価としては、概ね妥当であるとの評価をいただいた。 ○現在の医療を取り巻く環境変化に適切に対応するため、今後も引き続き、より効果的・効率的に医業収益の確保、医業費用の引き下げ等、積極的に取組みを行っていく必要がある。 ○県立病院として、その地域にどのような医療提供体制が必要なのかを十分に踏まえながら、目的を持って医師確保を行い、高齢化社会を迎えている中で、地域で完結できる医療体制の構築に努めていく必要がある。 ○改革プランに基づいて取組みがなされた事項等については、数値目標等の達成状況だけではなく、本来求められた成果が現れているのかを十分検証するとともに、計画と実態が大きくかけ離れているならば計画の見直しを行うなど、その取組みにおける今後の課題についても、併せて把握しておく必要がある。	4						

□目標２：未収金の発生防止と早期回収の強化（各病院の取組状況）

番号	取組機関	アクションプラン	取組内容	進捗状況	取組評価								
16	共通取組	◇未収金の発生防止と早期回収の強化		<div>□各病院の取組状況</div> <table><tr><th>病院名</th><th>実施状況</th></tr><tr><td>矢吹病院</td><td>○院内の組織的な取組みを推進するため平成２２年１月に未収金対策プロジェクトチームを設置し、医療相談室をはじめとする各部門の協力を得ながら、未収金対策の早期着手に努め、文書催告や電話催告、出張徴収等を実施した。 ○限度額適用認定証の交付を受けることで入院費の窓口負担額が軽減されることから、この制度の周知、活用に努めてきたところであり、このことも過年度未収金が少なくなった大きな要因となっている。</td></tr><tr><td>喜多方病院</td><td>○未収金対策として未収金にさせない対策として、医療相談専門員を配置し、公費負担制度等の活用について支援を行った。 ○未収金が発生した場合の早期回収に努めた結果、目標額の６割弱の未収金残高へ圧縮することができた。</td></tr><tr><td>会津総合病院</td><td>○平成２２年度から平成２３年度に繰り越された過年度医業未収金は、52,040千円で、平成２１年度から平成２２年度への繰越額 53,822千円に比べて 1,782千円の減少となった。 ○過年度医業未収金の回収については、事務局職員（管理職含む）が電話督促や自宅訪問な</td></tr></table>	病院名	実施状況	矢吹病院	○院内の組織的な取組みを推進するため平成２２年１月に未収金対策プロジェクトチームを設置し、医療相談室をはじめとする各部門の協力を得ながら、未収金対策の早期着手に努め、文書催告や電話催告、出張徴収等を実施した。 ○限度額適用認定証の交付を受けることで入院費の窓口負担額が軽減されることから、この制度の周知、活用に努めてきたところであり、このことも過年度未収金が少なくなった大きな要因となっている。	喜多方病院	○未収金対策として未収金にさせない対策として、医療相談専門員を配置し、公費負担制度等の活用について支援を行った。 ○未収金が発生した場合の早期回収に努めた結果、目標額の６割弱の未収金残高へ圧縮することができた。	会津総合病院	○平成２２年度から平成２３年度に繰り越された過年度医業未収金は、52,040千円で、平成２１年度から平成２２年度への繰越額 53,822千円に比べて 1,782千円の減少となった。 ○過年度医業未収金の回収については、事務局職員（管理職含む）が電話督促や自宅訪問な	3
病院名	実施状況												
矢吹病院	○院内の組織的な取組みを推進するため平成２２年１月に未収金対策プロジェクトチームを設置し、医療相談室をはじめとする各部門の協力を得ながら、未収金対策の早期着手に努め、文書催告や電話催告、出張徴収等を実施した。 ○限度額適用認定証の交付を受けることで入院費の窓口負担額が軽減されることから、この制度の周知、活用に努めてきたところであり、このことも過年度未収金が少なくなった大きな要因となっている。												
喜多方病院	○未収金対策として未収金にさせない対策として、医療相談専門員を配置し、公費負担制度等の活用について支援を行った。 ○未収金が発生した場合の早期回収に努めた結果、目標額の６割弱の未収金残高へ圧縮することができた。												
会津総合病院	○平成２２年度から平成２３年度に繰り越された過年度医業未収金は、52,040千円で、平成２１年度から平成２２年度への繰越額 53,822千円に比べて 1,782千円の減少となった。 ○過年度医業未収金の回収については、事務局職員（管理職含む）が電話督促や自宅訪問な												

				<table><tr><td></td><td>どを行い早期回収に努めた。</td></tr><tr><td>宮下病院</td><td>○電話による納付依頼件数５３件、督促状・催告状の送付件数２２件、自宅訪問等による納付依頼件数１０件</td></tr><tr><td>南会津病院</td><td>○医療費が高額となる見込みの入院患者については、維持の入院係から医療相談員に情報を早期に伝達することで、高額医療費事前申請制度等の説明等を行うことができ、高額未収金の発生防止につなげた。 ○県外患者の多くなるゴールデンウィークと年末年始には委託職員による医療費計算・収納業務を行い、受信当日の収納に努めた。 ○特定の患者による長期末納の累積、そもそも支払能力に乏しい患者の入院受入れ等により、残高は再び増加傾向にあるものの、かろうじてプランの目標は達成した。</td></tr><tr><td>大野病院</td><td>○過年度未収金の回収金額は不明ですが、新たな未収金の発生防止や未納者の所在の確認、電話等による納付交渉等を実施した。さらに行方不明や訪問、役場調査等により生活保護等納付資力がないなどの確認ができた不良債権については、整理、促進に努めた。</td></tr></table>		どを行い早期回収に努めた。	宮下病院	○電話による納付依頼件数５３件、督促状・催告状の送付件数２２件、自宅訪問等による納付依頼件数１０件	南会津病院	○医療費が高額となる見込みの入院患者については、維持の入院係から医療相談員に情報を早期に伝達することで、高額医療費事前申請制度等の説明等を行うことができ、高額未収金の発生防止につなげた。 ○県外患者の多くなるゴールデンウィークと年末年始には委託職員による医療費計算・収納業務を行い、受信当日の収納に努めた。 ○特定の患者による長期末納の累積、そもそも支払能力に乏しい患者の入院受入れ等により、残高は再び増加傾向にあるものの、かろうじてプランの目標は達成した。	大野病院	○過年度未収金の回収金額は不明ですが、新たな未収金の発生防止や未納者の所在の確認、電話等による納付交渉等を実施した。さらに行方不明や訪問、役場調査等により生活保護等納付資力がないなどの確認ができた不良債権については、整理、促進に努めた。	
	どを行い早期回収に努めた。												
宮下病院	○電話による納付依頼件数５３件、督促状・催告状の送付件数２２件、自宅訪問等による納付依頼件数１０件												
南会津病院	○医療費が高額となる見込みの入院患者については、維持の入院係から医療相談員に情報を早期に伝達することで、高額医療費事前申請制度等の説明等を行うことができ、高額未収金の発生防止につなげた。 ○県外患者の多くなるゴールデンウィークと年末年始には委託職員による医療費計算・収納業務を行い、受信当日の収納に努めた。 ○特定の患者による長期末納の累積、そもそも支払能力に乏しい患者の入院受入れ等により、残高は再び増加傾向にあるものの、かろうじてプランの目標は達成した。												
大野病院	○過年度未収金の回収金額は不明ですが、新たな未収金の発生防止や未納者の所在の確認、電話等による納付交渉等を実施した。さらに行方不明や訪問、役場調査等により生活保護等納付資力がないなどの確認ができた不良債権については、整理、促進に努めた。												
17	病院局	◇未収金担当者会議の開催	実務者レベルの会議を定期的に開催し、実効性のある効果的な滞納防止策や回収策を検討し、各病院の共通的な取組みとして実施する。	○平成２２年１１月１９日に未収金担当者等会議を実施し、定期監査結果、各県立病院における取組み、支払い督促について検討を行った。	3								

□目標3：費用の見直し(各病院の取組状況)

番号	取組機関	アクションプラン	取組内容	進捗状況	取組評価	
18	共通取組	◇業務委託内容の見直しによる委託費削減	委託業務の契約内容等についてゼロベースで見直しを行うとともに、入札方式や複数年契約の検討、医療機器の調達における保守管理を考慮した契約実施などにより、委託費用の削減に取り組む。	□各病院の取組状況	3	
				病院名		実施状況
				矢吹病院		○病院機能評価業務委託が書類審査となったことにより減となったほか、前年に実施した用地買収に伴う樹木伐採業務（移転補償）分の減、さらに入札による清掃等委託額の減などにより減少した。
				喜多方病院		○検査委託について、血液検査等の項目をまとめ、一括して見積もり合わせを行うなど、競争性の確保により、契約単価の引き下げを行った。
				会津総合病院		○廃棄物処理、クリーニング、基準寝具、警備について、会津４病院による一括契約として経費の節減に努めた。
				宮下病院		○委託仕様の見直しを行い、削減可能なものと削減できないものとを峻別し、さらなる経費節減を図るとともに、外部委託を行っていた屋根の除雪等を職員直営で実施した。
				南会津病院		○麻酔科医の常勤化により診療応援を最小限にとどめたことや、機器の保守点検については更新時期に合わせて見合わせたことなどから、前年度より３百万円程度減となった。
				大野病院		○診療応援増に伴う委託料が増加となった。
19		◇消耗品費や光熱水費等の削減	消耗品や光熱水費等の経費削減を図るため、職員の意識改革を進める。	□各病院の取組状況	4	
				病院名		実施状況
				矢吹病院		○消耗品費については前年並み（若干の減）であったが、猛暑等に伴う電気料増などにより光熱水費は増加した。 ○薬品費及び診療材料費については、SPDの効果のほか、主に患者数の減により減少した。
				喜多方病院		○光熱水費については、猛暑のため電氣量が増加したもの。 ○消耗品費については、使用済の注射針を入れる「ハリポイ」の新規購入や、手指消毒用薬剤の設置場所の増等医療事故防止や院内感染対策のために購入した消耗品の増による。

				<table><tr><td>会津総合病院</td><td>○平成２１年１２月から電力需給契約を変更（契約ワット数 700kw→670kw）し、引き続き電気基本料の削減を図った。 ○電力需給契約の変更により電気基本料の削減が図られた（H21 11,159 千円 → H22 10,835 千円）</td></tr><tr><td>宮下病院</td><td>○職員の意識改革による食事材料費、医療消耗備品費等の削減に努めた。</td></tr><tr><td>南会津病院</td><td>○病院機構評価の受審のため、業務上必要な各種消耗品等の購入を行ったが、一方で同等廉価品の購入を進めるなどして節減に努めた結果、消耗品については目標を達成した。</td></tr><tr><td>大野病院</td><td>○消耗品については、購入品目の絞り込みや適正在庫に努め、購入数量や時期の適正化の検討を行った。 ○光熱水費については、時間外の照明、事務機器の節電等、エコオフィスの推進と効率的な病棟運営を行うため、２病棟体制を維持した。</td></tr></table>	会津総合病院	○平成２１年１２月から電力需給契約を変更（契約ワット数 700kw→670kw）し、引き続き電気基本料の削減を図った。 ○電力需給契約の変更により電気基本料の削減が図られた（H21 11,159 千円 → H22 10,835 千円）	宮下病院	○職員の意識改革による食事材料費、医療消耗備品費等の削減に努めた。	南会津病院	○病院機構評価の受審のため、業務上必要な各種消耗品等の購入を行ったが、一方で同等廉価品の購入を進めるなどして節減に努めた結果、消耗品については目標を達成した。	大野病院	○消耗品については、購入品目の絞り込みや適正在庫に努め、購入数量や時期の適正化の検討を行った。 ○光熱水費については、時間外の照明、事務機器の節電等、エコオフィスの推進と効率的な病棟運営を行うため、２病棟体制を維持した。									
会津総合病院	○平成２１年１２月から電力需給契約を変更（契約ワット数 700kw→670kw）し、引き続き電気基本料の削減を図った。 ○電力需給契約の変更により電気基本料の削減が図られた（H21 11,159 千円 → H22 10,835 千円）																				
宮下病院	○職員の意識改革による食事材料費、医療消耗備品費等の削減に努めた。																				
南会津病院	○病院機構評価の受審のため、業務上必要な各種消耗品等の購入を行ったが、一方で同等廉価品の購入を進めるなどして節減に努めた結果、消耗品については目標を達成した。																				
大野病院	○消耗品については、購入品目の絞り込みや適正在庫に努め、購入数量や時期の適正化の検討を行った。 ○光熱水費については、時間外の照明、事務機器の節電等、エコオフィスの推進と効率的な病棟運営を行うため、２病棟体制を維持した。																				
20		◇新型SPDによる医療費等の削減	材料費の削減を図るため、平成２０年度に導入した新型SPDにより、医薬品・診療材料費の共同購入や適正管理を徹底する。	<table><tr><td colspan="2">□各病院の取組状況</td></tr><tr><td>病院名</td><td>実施状況</td></tr><tr><td>矢吹病院</td><td>○SPD の効果のほか、主に患者数の減により減少した。</td></tr><tr><td>喜多方病院</td><td>○執行額ベースでは削減できたものの、患者数の減による医業収益の減のため、医業収益に対する割合が上昇した。</td></tr><tr><td>会津総合病院</td><td>○薬品及び診療材料の購入に当たっては、平成２０年８月から新型SPD（病院局契約）が導入され、引き続き廉価購入に努めた。 ○薬品については、医療原価低減のため後発医薬品採用の一層の推進に努めた。 ○平成２２年４月から診療開始となった血液内科において、高額薬品使用額が増えたことから、平成２２年度の後発医薬品採用率は金額ベースで 8.56%と平成２１年度の 10.29%に比較して 1.73%の減少となった。</td></tr><tr><td>宮下病院</td><td>○薬品費は、先発品から後発品へ切り替えたことにより、圧縮が図られた。 ○診療材料費は、安価品への切り替えや売却したことにより、圧縮が図られた。</td></tr><tr><td>南会津病院</td><td>○診療材料についても、１２月までに１５品目で同等廉価品に切り替えるなど節減に努めた結果、削減率は５．０%となった。</td></tr><tr><td>大野病院</td><td>○材料費（特に薬品費）については、薬物療法が中心の内科患者の入院が増加したこと、高額である化学療法が増加したことにより、対前年比 8.7%（薬品費：19.6%）の増となった。 ○薬品については、薬事委員会を開催し、ジェネリック医薬品等の新規薬品の導入検討や期限切れ間近の薬品の使用促進に努めた。 ○診療材料については、診療材料購入検討委員会を開催し、効率的な診療材料の導入や安価な同等品への切り替え、在庫の使用促進に努めました。また、新型 SPD による診療材料の効率的な在庫管理の徹底に努めた。</td></tr></table>	□各病院の取組状況		病院名	実施状況	矢吹病院	○SPD の効果のほか、主に患者数の減により減少した。	喜多方病院	○執行額ベースでは削減できたものの、患者数の減による医業収益の減のため、医業収益に対する割合が上昇した。	会津総合病院	○薬品及び診療材料の購入に当たっては、平成２０年８月から新型SPD（病院局契約）が導入され、引き続き廉価購入に努めた。 ○薬品については、医療原価低減のため後発医薬品採用の一層の推進に努めた。 ○平成２２年４月から診療開始となった血液内科において、高額薬品使用額が増えたことから、平成２２年度の後発医薬品採用率は金額ベースで 8.56%と平成２１年度の 10.29%に比較して 1.73%の減少となった。	宮下病院	○薬品費は、先発品から後発品へ切り替えたことにより、圧縮が図られた。 ○診療材料費は、安価品への切り替えや売却したことにより、圧縮が図られた。	南会津病院	○診療材料についても、１２月までに１５品目で同等廉価品に切り替えるなど節減に努めた結果、削減率は５．０%となった。	大野病院	○材料費（特に薬品費）については、薬物療法が中心の内科患者の入院が増加したこと、高額である化学療法が増加したことにより、対前年比 8.7%（薬品費：19.6%）の増となった。 ○薬品については、薬事委員会を開催し、ジェネリック医薬品等の新規薬品の導入検討や期限切れ間近の薬品の使用促進に努めた。 ○診療材料については、診療材料購入検討委員会を開催し、効率的な診療材料の導入や安価な同等品への切り替え、在庫の使用促進に努めました。また、新型 SPD による診療材料の効率的な在庫管理の徹底に努めた。	4
□各病院の取組状況																					
病院名	実施状況																				
矢吹病院	○SPD の効果のほか、主に患者数の減により減少した。																				
喜多方病院	○執行額ベースでは削減できたものの、患者数の減による医業収益の減のため、医業収益に対する割合が上昇した。																				
会津総合病院	○薬品及び診療材料の購入に当たっては、平成２０年８月から新型SPD（病院局契約）が導入され、引き続き廉価購入に努めた。 ○薬品については、医療原価低減のため後発医薬品採用の一層の推進に努めた。 ○平成２２年４月から診療開始となった血液内科において、高額薬品使用額が増えたことから、平成２２年度の後発医薬品採用率は金額ベースで 8.56%と平成２１年度の 10.29%に比較して 1.73%の減少となった。																				
宮下病院	○薬品費は、先発品から後発品へ切り替えたことにより、圧縮が図られた。 ○診療材料費は、安価品への切り替えや売却したことにより、圧縮が図られた。																				
南会津病院	○診療材料についても、１２月までに１５品目で同等廉価品に切り替えるなど節減に努めた結果、削減率は５．０%となった。																				
大野病院	○材料費（特に薬品費）については、薬物療法が中心の内科患者の入院が増加したこと、高額である化学療法が増加したことにより、対前年比 8.7%（薬品費：19.6%）の増となった。 ○薬品については、薬事委員会を開催し、ジェネリック医薬品等の新規薬品の導入検討や期限切れ間近の薬品の使用促進に努めた。 ○診療材料については、診療材料購入検討委員会を開催し、効率的な診療材料の導入や安価な同等品への切り替え、在庫の使用促進に努めました。また、新型 SPD による診療材料の効率的な在庫管理の徹底に努めた。																				
21	喜多方病院	◇病棟再編の実施	診療圏の人口動向や今後の患者数見込み等を考慮し、病棟再編を実施する。	○平成２１年４月より、病床数を１３５床から５０床に削減し、１病棟体制とした。	—																
22	宮下病院 南会津病院	◇病床削減の実施	診療圏の人口動向や今後の患者数見込み等を考慮し、病床数の削減を実施する。	○平成２１年４月から、病床数を５５床から３２床に削減した。（宮下） ○平成２１年３月末に、病床数を１５０床から１００床に削減した。（南会津）	—																
23	病院局	◇総人件費の抑制	更なる総人件費の抑制を図るため、給与費の抑制や、病棟・病床数の見直し、業務の効率化による職員配置の適正化、委託の推進などに取り組む。	○患者数の状況に応じた看護職員や医療技術職員等の配置の見直し、事務職員配置の見直し、病棟再編を行い、総人件費の抑制を図った。	4																

基本方針３：医療提供体制の充実強化（病院の体制整備の視点）

改革プラン方針		平成２２年度取組状況及び自己評価						
目標 1	診療体制及び経営基盤の強化	目標値達成状況評価		取組状況評価				
		【４】	目標値を上回った	【４】	積極的に行われている			
<p>[医師確保等の充実強化]</p> <p>県立医科大学等との連携や医師紹介事業者の活用、公募による医師確保策の充実強化を図るとともに、医師の給与の見直しや勤務環境の改善などの処遇改善を行い、医師にとって魅力ある職場づくりを行う。</p> <p>また、医師確保緊急対策プログラム（※）に基づき、医師確保に取り組む。</p> <p>※ 県の地域医療対策協議会で検討され、平成２１年度から実施</p> <p>[医療の質と調和した経営改善]</p> <p>「医療の質」、「経営の質」の両面においてバランスがとれた病院経営を進めるため、５つの視点（患者さんの視点・健全な病院経営の視点・病院の体制整備の視点・人材育成の視点・地域連携の視点）に沿った基本方針に基づく経営改革を実施する。</p>		○平成２２年度の取組状況						
		１ 医師確保等の充実強化について						
		【常勤医師数】 (単位：人)						
		病院名	H21.5	H21.9	H22.1	H22.3	H22.6	H23.6
		矢吹病院	6	6	6	6	6	7
		喜多方病院	4	4	4	4	4	4
		会津総合病院	21	21	20	20	21	31
		宮下病院	5	5	5	5	5	6
		南会津病院	11	11	12	12	12	15
		大野病院	8	7	9	11	11	1
合 計	55	54	56	58	59	64		
		◆ へき地医療拠点病院である南会津病院の医師と病院事業管理者、病院局幹部職員との意見交換会を実施し、医師が安心して働ける勤務環境の整備や診療機能の充実などに努めた。						
		２ 医療の質と調和した経営改善について						
		◆ 各病院長、看護部長、事務長等を構成員とする「病院経営戦略会議」を７月２２日に開催し、改革プラン取組状況及び病院経営について検討を行った。						
		◆ 各病院の事務次長等を構成員とする「病院経営検討会」を６月４日に開催し、外部講師を迎えて「収益確保に向けた地域医療連携の取組について」講演をいただき、意見交換を行いながら各病院での実行に移した。						
		○共通目標指標						
		常勤医師数						
		<div><div>21年度実績値 58人</div><div>22年度目標値 67人</div><div>22年度実績値 64人</div><div>23年度目標値 71人</div></div>						

目標 2	医療安全対策の強化	目標値達成状況評価		取組状況評価	
		【 3 】	目標値をほぼ達成できた	【 4 】	積極的に行われている
<p>【不断の意識啓発】</p> <p>医療の安全性を高め、患者さんにより信頼される病院となるため、職員全員の医療事故防止に向けた一層の意識啓発と病院全体の危機管理を不断に取り組む。</p> <p>【組織的な体制整備】</p> <p>医療安全を総合的に推進する医療安全担当の配置、医療事故防止マニュアルの不断の見直し、医療事故防止対策委員会で医療事故の発生防止対策の検討、医療事故防止に関する研修会の定期的な開催など、医療安全対策に病院全体で組織的に取り組み、安全な医療の確保を図る。</p> <p>【マニュアルの周知徹底】</p> <p>危機発生時に迅速かつ的確な対応が図られるよう、普段から研修会等において、医療事故防止マニュアルの周知徹底に努める。</p>		○平成 2 2 年度の取組状況			
		1 医療安全対策の推進について			
		◆医療安全担当の配置		◇定期的に院内ラウンドを行い、医療事故や院内感染を防止し医療安全対策を組織的に推進した。	
		◆医療安全対策委員会		◇アクシデント、インシデント事案について、発生事例の分析や今後の対応策について協議した。	
		◆院内感染対策委員会		◇新型インフルエンザ、感染予防等の対策について検討を行った。	
		◆医療事故防止対策研修会		◇第一線で実務に従事している外部講師を迎え、職員の医療安全に対する意識向上と医療安全の強化に努めた。 ◇研修会を複数回開催することで、安全な業務遂行能力の向上及び医療安全に関する職員の意識向上を促した。	
		◆ 各病院の医療安全担当責任者で構成される「医療安全対策プロジェクトチーム」で、リスク情報収集や調査分析を行い、医療事故防止対策の強化に取り組んだ。			
		◆ 平成 2 3 年 3 月 1 1 日に発生した東日本大震災については、原発災害の影響により大野病院全体が避難することになり、また、他病院でも建物損害による患者さんの移動、さらに混乱の中での被災患者さんの受入など、日頃の防災訓練を越えるような事態が発生したところであり、各病院で今回のケースを検証し、病院間で情報を共有しながら、今後の医療安全及び防災の観点から確認していく必要がある。			
		矢吹病院		○他病院の患者さん 3 9 名受入、避難所への医療支援実施	
		喜多方病院		○避難患者 5 名受入、医師会の医療支援に参加	
		会津総合病院		○避難患者 2 1 名受入、避難所への医療支援実施、スクリーニング実施	
		宮下病院		○避難患者 1 3 名受入、避難所への医療支援実施	
		南会津病院		○避難患者 3 6 名受入、スクリーニング実施	
		大野病院		○入院患者、職員が川内村保健センターへ避難後、他病院へ患者さんを搬送	
○共通目標指標					
<div><div>医療安全研修参加率</div><div><div>2 1 年度実績値 7 6 . 1 %</div><div>2 2 年度目標値 9 0 %</div><div>2 2 年度実績値 6 6 . 6 %</div><div>2 3 年度目標値 9 0 %</div></div></div>					
＊大野病院は除く					

□目標１：診療体制及び経営基盤の強化(各病院の取組状況)

番号	取組機関	アクションプラン	取組内容	進捗状況	取組評価						
1	共通取組	◇常勤医師の確保（再掲）	安定的な診療体制の確立を図るため、関係機関等と連携しながら、常勤医師を確保する。	○再掲	4						
2	会津総合病院 南会津病院	◇臨床研修医の受入	県立医科大学や自治医科大学等との連携の下、臨床研修病院として研修医の受入を行う。	○会津総合病院 基幹型臨床研修病院として研修医を受け入れ、臨床研修協力病院とともに臨床研修を行った。（平成２２年度は２人を受け入れ（自治医科大学卒１年次１、２年次１）、平成２３年度は１人を受け入れ入れている。（自治医科大学卒１年次））臨床研修医の受け入れにより、指導医の資質向上が図られるとともに、地域医療の質が向上し、それに伴う患者数の増加が期待される。 ○南会津病院 卒後臨床研修の受入れについては、研修希望者がなかったため、平成２２年度は結果として０となったが、医学生の研修受入れなど積極的に対応した。	5						
3	宮下病院 南会津病院	◇家庭医プログラムに基づく実習生の受入	県立医科大学の家庭医プログラムに基づき、ホームステイにより実習生の受入を行う。	○家庭医研修プログラム（福島県立医科大学）に基づく実習生の受入を行った。 ○南会津病院は４名の受入を行った。	1 4						
4	宮下病院	◇自治医科大学福島県人会夏期研修等の受入	自治医科大学福島県人会のへき地医療体験研修を積極的に支援することで、本県出身の医学部生への将来的なへき地医療従事の動機付けとなることを目指す。	○自治医科大学福島県人会夏期研修等の受入 <table><tr><td>８月１９日</td><td>○地域医療現場見学（医学部進学を希望する会津地区の高等学校２年生１０名参加）</td></tr><tr><td>９月３日</td><td>○へき地医療体験研修（夏期）（地域医療に関心を持つ医学部生６名参加）</td></tr><tr><td>２月２５日</td><td>○へき地医療体験研修（冬期）（地域医療に関心を持つ医学部生１７名参加）</td></tr></table>	８月１９日	○地域医療現場見学（医学部進学を希望する会津地区の高等学校２年生１０名参加）	９月３日	○へき地医療体験研修（夏期）（地域医療に関心を持つ医学部生６名参加）	２月２５日	○へき地医療体験研修（冬期）（地域医療に関心を持つ医学部生１７名参加）	5
８月１９日	○地域医療現場見学（医学部進学を希望する会津地区の高等学校２年生１０名参加）										
９月３日	○へき地医療体験研修（夏期）（地域医療に関心を持つ医学部生６名参加）										
２月２５日	○へき地医療体験研修（冬期）（地域医療に関心を持つ医学部生１７名参加）										
5	南会津病院	◇研修病院としての役割	自治医科大学の実施する院外BSL研修の受入を行う。	○医学部生の研修や会津・南会津保健福祉事務所の主催する地域医療体験研修のプログラムに参加した。 ・BSLアドバンスドコース（県立医大６年生）４名 ・地域医療実習（自治医大５年生）３名 ・夏期研修（自治医大１～４年生）１０名	4						
6	病院局	◇医科大学との連携による医師確保の強化	県立医科大学や自治医科大学等との連携強化、近隣県や東京都内の医科大学への医師派遣依頼などにより、医師確保対策の強化を図る。 また、県の医師確保緊急対策プログラムに基づき、医師確保を図る。	○県立医科大学や自治医科大学等への派遣要請の強化を行った。 ○県立医科大学の支援を受けて、平成２５年開院予定の会津医療センター（仮称）となる会津総合病院や２３年４月にJA厚生連と統合を予定していた大野病院への医師確保を行った。	4						
7		◇公募による医師確保	医師紹介事業者の活用、インターネットを始め様々な広報媒体の活用、本県に興味を持っている県外在住者へのPR、公募による医師確保対策の強化を図る。	○ホームページや雑誌をはじめ医師紹介事業者の活用等、様々な広報媒体の活用を行い、公募による医師確保対策の強化を図った。	3						
8		◇医師の処遇改善	県立病院に勤務する医師について、給与の見直し、医療事務作業補助者の配置などによる勤務負担の軽減、研修制度の充実など処遇改善を図り、医師にとって魅力ある職場づくりを行う。	○各病院の医師と病院事業管理者をはじめとした病院局幹部職員との意見交換会を実施し、現場医師の意見を把握しながら、顔の見える関係の構築を図り、魅力ある病院づくりを行った。 ○１１月２２日に南会津病院で実施	3						
9		◇中長期的な医師確保	将来に向けた医師の確保を図るため、医学部生への修学資金の貸与、臨床研修医の受入れなどを行う。	○平成２２年度から保健福祉部の修学資金制度と統合し、「へき地医療等医師確保修学資金」を創設した。なお、従来貸与を受けていた医学部学生については、これまで同様貸与を継続している。	4						
10		◇目標管理の実施	５つの視点に沿った基本方針を踏まえ、良質な医療の提供と健全な病院経営の実現に向けた取組みを実施していくとともに、定期的に取組みの進捗状況や課題の検討などを行う。	○平成２１年５月に策定した改革プランの進捗管理を行うために、１０月の事業計画策定時に合わせて、BSCに基づく行動計画シートの進行管理・自己評価を実施し、下半期に向けたさらなる取組に向けた確認を行った。	3						

□目標2：医療安全対策の強化(各病院の取組状況)

番号	取組機関	アクションプラン	取組内容	進捗状況	取組評価																																												
11	共通取組	◇専任の医療安全担当による管理体制の強化や研修会の開催等による安全対策の強化	○専任の医療安全担当を配置する。 ○医療安全対策委員会等の活動を強化して、医療事故防止や院内感染防止に関する情報の収集やアクシデント・インシデント事例の検証等を行う。 ○定期的に医療事故防止のための研修会を開催し、マニュアルの見直しや改善事項等について職員への指示を徹底するなど、医療の安全確保に総合的かつ組織的に取り組む。	<div>□医療安全の取組状況</div> <div>○矢吹病院<ul style="list-style-type: none">・医療安全に関する研修会は年５回開催して、安全な業務遂行能力の向上及び医療安全に関する職員の意識向上を促した。・医療安全管理委員会と院内感染対策委員会については、毎月１回開催して、それぞれの問題点や医療事故の防止、感染症予防等の対策について検討した。</div> <div>○喜多方病院<ul style="list-style-type: none">・医療安全及び院内感染の対策会議は、それぞれ毎月開催しており、医療安全に関する事例検討や、注意すべき院内感染等について各部署への周知徹底を図っている。・医療安全研修会は、２５名の参加にとどまったため、アンケート等により内容を検討の上、参加者数の増など充実を図りたい。</div> <div>○会津総合病院<table><tr><th>時期</th><th>内容</th><th>出席者数</th></tr><tr><td>H２２.7.5～9</td><td>◇手洗研修会</td><td>２９２人（出席率１００％）</td></tr><tr><td>H２２.7.１３</td><td>◇免疫不全患者の防御環境と感染防止</td><td>５３人（出席率１９.５％）</td></tr><tr><td>H２２.7.2１</td><td>◇結核医療の基準改正について</td><td>３５人（出席率１２.9％）</td></tr><tr><td>H２２.9.27～１０.1</td><td>◇電話応対について</td><td>１６６人（出席率6１％）</td></tr><tr><td>H２２.9.30、１０.6</td><td>◇医薬品の安全使用について</td><td>4４人（出席率１6.2％）</td></tr><tr><td>H２2.10.26外</td><td>◇AED（講義と実技）</td><td>179人（出席率65.8％）</td></tr><tr><td>H２2.11.19</td><td>◇AHA ガイドライン 2010 変更点について</td><td>20人（出席率7.4％）</td></tr><tr><td>H２2.12.20～28</td><td>◇感染性胃腸炎対応</td><td>93人（出席率34.2％）</td></tr><tr><td>H23.2.16、25</td><td>◇医療におけるヒューマンエラーの考え方</td><td>84人（出席率30.9％）</td></tr><tr><td>H23.2.24</td><td>◇感染症 Uptodate</td><td>46人（出席率16.9％）</td></tr><tr><td>H23.3.24</td><td>◇福島原発の原子力災害に伴う放射線影響と緊急被ばく医療対応」</td><td>74人（出席率27.2％）</td></tr></table></div> <div>○宮下病院<table><tr><td>医療安全対策委員会</td><td>◇ヒヤリ・ハット報告及びその対策、医療安全情報の周知徹底、毎月の医療安全標語の策定 等</td></tr><tr><td>院内感染防止委員会</td><td>◇新型インフルエンザ対策（まん延期診療・業務継続計画の策定）、院内感染対策、抗菌薬使用状況 等、院内ラウンドの実施（２回）</td></tr><tr><td>医療安全研修会</td><td>◇9月14日 医療安全研修会Ⅰ（注射・輸液をめぐるヒヤリ・ハット事例と輸液の適正使用） ◇10月14日 医療ガス保安講習会 ◇1月20日 輸血・血液管理研修会 ◇3月20日 医療安全研修会Ⅱ（医薬品の安全使用）</td></tr><tr><td>院内感染防止研修会</td><td>◇9月28日 院内感染防止研修Ⅰ（器具消毒と手指衛生） ◇3月2日 院内感染防止研修Ⅱ（院内ラウンドによる院内感染予防）</td></tr></table></div>	時期	内容	出席者数	H２２.7.5～9	◇手洗研修会	２９２人（出席率１００％）	H２２.7.１３	◇免疫不全患者の防御環境と感染防止	５３人（出席率１９.５％）	H２２.7.2１	◇結核医療の基準改正について	３５人（出席率１２.9％）	H２２.9.27～１０.1	◇電話応対について	１６６人（出席率6１％）	H２２.9.30、１０.6	◇医薬品の安全使用について	4４人（出席率１6.2％）	H２2.10.26外	◇AED（講義と実技）	179人（出席率65.8％）	H２2.11.19	◇AHA ガイドライン 2010 変更点について	20人（出席率7.4％）	H２2.12.20～28	◇感染性胃腸炎対応	93人（出席率34.2％）	H23.2.16、25	◇医療におけるヒューマンエラーの考え方	84人（出席率30.9％）	H23.2.24	◇感染症 Uptodate	46人（出席率16.9％）	H23.3.24	◇福島原発の原子力災害に伴う放射線影響と緊急被ばく医療対応」	74人（出席率27.2％）	医療安全対策委員会	◇ヒヤリ・ハット報告及びその対策、医療安全情報の周知徹底、毎月の医療安全標語の策定 等	院内感染防止委員会	◇新型インフルエンザ対策（まん延期診療・業務継続計画の策定）、院内感染対策、抗菌薬使用状況 等、院内ラウンドの実施（２回）	医療安全研修会	◇9月14日 医療安全研修会Ⅰ（注射・輸液をめぐるヒヤリ・ハット事例と輸液の適正使用） ◇10月14日 医療ガス保安講習会 ◇1月20日 輸血・血液管理研修会 ◇3月20日 医療安全研修会Ⅱ（医薬品の安全使用）	院内感染防止研修会	◇9月28日 院内感染防止研修Ⅰ（器具消毒と手指衛生） ◇3月2日 院内感染防止研修Ⅱ（院内ラウンドによる院内感染予防）	4
時期	内容	出席者数																																															
H２２.7.5～9	◇手洗研修会	２９２人（出席率１００％）																																															
H２２.7.１３	◇免疫不全患者の防御環境と感染防止	５３人（出席率１９.５％）																																															
H２２.7.2１	◇結核医療の基準改正について	３５人（出席率１２.9％）																																															
H２２.9.27～１０.1	◇電話応対について	１６６人（出席率6１％）																																															
H２２.9.30、１０.6	◇医薬品の安全使用について	4４人（出席率１6.2％）																																															
H２2.10.26外	◇AED（講義と実技）	179人（出席率65.8％）																																															
H２2.11.19	◇AHA ガイドライン 2010 変更点について	20人（出席率7.4％）																																															
H２2.12.20～28	◇感染性胃腸炎対応	93人（出席率34.2％）																																															
H23.2.16、25	◇医療におけるヒューマンエラーの考え方	84人（出席率30.9％）																																															
H23.2.24	◇感染症 Uptodate	46人（出席率16.9％）																																															
H23.3.24	◇福島原発の原子力災害に伴う放射線影響と緊急被ばく医療対応」	74人（出席率27.2％）																																															
医療安全対策委員会	◇ヒヤリ・ハット報告及びその対策、医療安全情報の周知徹底、毎月の医療安全標語の策定 等																																																
院内感染防止委員会	◇新型インフルエンザ対策（まん延期診療・業務継続計画の策定）、院内感染対策、抗菌薬使用状況 等、院内ラウンドの実施（２回）																																																
医療安全研修会	◇9月14日 医療安全研修会Ⅰ（注射・輸液をめぐるヒヤリ・ハット事例と輸液の適正使用） ◇10月14日 医療ガス保安講習会 ◇1月20日 輸血・血液管理研修会 ◇3月20日 医療安全研修会Ⅱ（医薬品の安全使用）																																																
院内感染防止研修会	◇9月28日 院内感染防止研修Ⅰ（器具消毒と手指衛生） ◇3月2日 院内感染防止研修Ⅱ（院内ラウンドによる院内感染予防）																																																

				<p>○南会津病院</p> <ul style="list-style-type: none">・毎年実施している「グリッターバグの手洗い研修」は、受託職員も含め１３９名の参加があり、９６．５％となった。 <p>○大野病院</p> <ul style="list-style-type: none">・医療安全対策は、当院の最重点取組みと位置づけており、積極的に職員の医療安全への意識を高め、医療事故防止に努めた。・医療事故防止対策としては、医療安全管理委員会やリスクマネジメント部会を開催し、ヒヤリハット事例の共有や院内事例等について検討を行い、医療事故防止に努めた。・院内感染対策としては、院内感染対策委員会や実行組織として ICT 委員会を開催し、ノロウイルス等の嘔吐による院内感染の防止について検討した。また、保健所からの診療の要請に応えた。	
12	会津総合病院	◇オーダーリングシステム・電子カルテシステムの導入による安全・安心な医療の提供	システムによる禁忌投薬等の防止やバーコードチェックによる患者誤認の防止など、安全安心な医療の提供を行う。	○オーダーリングシステム・電子カルテシステムによる禁忌投薬等の防止やバーコードチェックによる患者誤認の防止など、安全・安心な医療の提供に努めた。	5
13	病院局	◇医療安全対策プロジェクトチームの開催	各病院の医療安全担当責任者で構成される医療安全対策プロジェクトチームを定期的 to開催し、一層の安全な医療の提供を図るため、リスク情報収集や調査分析を行うなど、医療事故防止対策の強化に組織的に取り組む。	○３月に実施予定であったプロジェクトが、東日本大震災の影響により中止した。	1

基本方針４：職員の資質向上と人材育成（人材育成の視点）

改革プラン方針		平成２２年度取組状況及び自己評価			
目標 １	人材の育成と確保	目標値達成状況		取組状況	
		【２】	目標値を下回った	【３】	取り組んでいる
<p>〔人材の積極的活用〕</p> <p>組織の活性化や職員のモチベーションの向上を図るため、人的資源としての院内の優秀な人材の積極的な活用を図る。</p> <p>〔リーダー育成〕</p> <p>地域住民から信頼される病院となるため、職員の育成を図るとともに、核となるリーダーの育成に努める。</p>		○平成２２年度の取組状況			
		１ 人的資源の積極的な活用とリーダーの育成について			
		◆医療スタッフの専門性向上への支援			
		資格取得におけるリーダーシップの発揮と新たな活動の展開を図るため支援を行っていく。			
		また、研修などでの自己研鑽を通じて、実践・実行を伴ったさらなる技術発展を目指していく。			
		【認定看護師の取得状況】（平成２３年６月末現在）			
		認定分野	取得者	所属	
		◇救急看護	中村美華	会津総合病院	
		◇感染管理	志賀友美	大野病院	
			一条和枝	会津総合病院	
◇糖尿病看護	猪俣理恵	会津総合病院			
		【平成２３年度の認定看護師取得見込】			
		がん性疼痛看護	１人		
		摂食・嚥下障害看護	１人		
		【平成２２年度資格取得状況】			
矢吹病院		◇精神科看護修士	１人		
		◇看護管理者ファーストレベル研修派遣	１人		
会津総合病院		◇認定看護師（糖尿病看護）	１人		
		◇看護管理者セカンドレベル研修派遣	１人		
		◇看護管理者ファーストレベル研修派遣	２人		
宮下病院		◇防火管理者資格取得講習	１人		
		◇福島県医師臨床研修指導医養成講習会	１人		
		◇特定化学物質・四アルキル鉛作業主任者	１人		
		◇看護協会研修「看護管理Ⅰ」	１人		
南会津病院		◇NST 専門療法士	１人		
		◇看護管理者ファーストレベル研修派遣	１人		
病院局		◇地域医療の情報化コーディネータ育成研修派遣	１人		
		合 計		１３人	

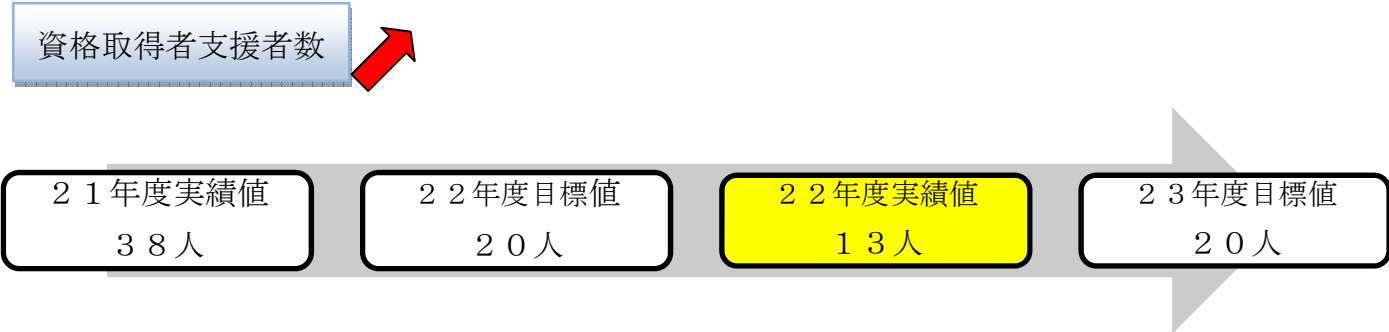
〔資質向上の環境づくり〕
各種研修会や学会等への参加機会の拡充や教育体制の充実などにより、全体の水準向上を図るとともに、資質向上に取り組める環境づくりに努める。

- 2 資質向上の環境づくりについて
- ◆ 看護管理検討会（看護部長）、看護部教育企画委員会（看護師長）、看護研究指導委員会を定期的に開催し、医療情勢を踏まえた業務課題について検討を行った。
 - ◆ 看護は実践科学であり、看護の資質向上を目指すうえで、実践の中から課題を見出して看護研究に取り組むことは重要であるため、研究成果について共有を行い相互の研鑽に努めるため、「第24回県立病院看護部看護研究発表会」を開催した。
また、当日は講演も行われ活発な討論が行われた。

日 時：平成22年11月26日（金）
場 所：コラッセふくしま
講 演：「看護研究～看護の経験を知へ～」
講師 県立南会津病院専門看護技師兼看護師長 佐藤 隆子
内 容：

病院名	研究テーマ	研究者
矢吹病院	◇不眠の実態と就寝前薬服用時間・方法の見直しによる効果	○座間靖子 影山和子
	◇精神科長期入院患者に SST 技法を用いた他者との交流の場を提供して ～会話に対する自己効力感の変化を振り返る～	○吉田さゆみ
喜多方病院	◇A 病院脂質異常症外来患者に体重表使用を試みて ～使用前後の意識の変化～	○大野純子 橋本勝 丑米美佳
会津総合病院	◇後期高齢者の受診行動とその背景	○齋藤史子 安西悦子 五十嵐とみ子
宮下病院	◇Medical SAFER を用いたヒヤリハット報告書の分析 ～投薬に焦点をあてて～	○佐藤由美 大原志津
南会津病院	◇A 地区南部の災害拠点病院に勤務する看護職員の災害マニュアルに対する意識調査 ～院内シミュレーションを実施して～	○舟木智恵 佐藤久美
大野病院	◇青年期にクローン病を発症した患者のライフストーリー	○白岩美穂

○共通目標指標



目標 2

職員の意識改革

〔病院経営研修会の開催〕

職員一人一人の経営に対する意識改革を図るため、職員が病院経営に主体的に参加することが重要なことから、経営改善に関わる病院経営研修会を開催する。

〔職員満足度調査の実施〕

職員のモチベーションの向上を図るため、満足度調査を行い、問題点を把握し改善を行うことで、働きがいを感じる良好な職場環境づくりに努める。

○平成 2 2 年度の取組状況

1 病院経営研修会について

病院経営研修会の開催は、未実施となってしまったが、会津医療センター（仮称）の整備状況や大野病院と双葉厚生病院との統合関係、へき地医療における医療提供体制等について、随時、医療スタッフとの意見交換を実施した。

2 職員満足度調査について

◆ 職員提案制度を通じて、職員一人ひとりの病院経営に対する参画意識が高まった。

◆ 職員自らが考え提案したものを実施し実現することにより、患者サービスの向上、業務の改善及び病院経営の改善等につながる効果が得られた。

◆ 業務改善及び職員の資質向上等を目的とした課題・目標管理の実施、行動指針についての職員公募などを行い、特に評価の高かった取り組みについて病院長から表彰を行い、職員のモチベーション向上を図った。

病院名	項目	内容
喜多方病院	院長賞	◇ちょっと待って 発注前の 在庫確認
		◇迷ったら 確認しよう 何度でも
		◇目くばり 気くばり こちよく
		◇楽しく 明るく いつまでも
会津総合病院	院長賞	◇処方入力の安全性を向上させる医薬品の効率的運用を図るために採用医薬品を整理（薬事委員会チーム）
	優秀賞	◇通所者主体のリハビリテーションの提供と QOL の向上（デイケア）
	奨励賞	◇手術室節約生活への第一歩（看護部中央手術室）
宮下病院	最優秀賞	◇カルテ整理の見直し（看護部）
	優秀賞	◇外来診療録の見直し（医局ほか）
	努力賞	◇病棟の環境整備（看護部ほか）
	提案賞	◇禁忌医薬品集の作成（薬剤部ほか）

○共通目標指標

職員提案件数

2 1 年度実績値

1 0 5 件

2 2 年度目標値

1 5 5 件

2 2 年度実績値

1 1 5 件

2 3 年度目標値

1 6 5 件以上

□目標１：人材の育成と確保（各病院の取組状況）

番号	取組機関	アクションプラン	取組内容	進捗状況	取組評価																																					
1	共通取組	◇各分野のスペシャリストの育成	病院内の組織の活性化と職員のモチベーションの向上を図るため、業務推進に当たってのリーダーを育成するとともに、職員の資質向上を図ることを目的に、医療スタッフの専門的で高度な知識や技能の習得を計画的に進める。	○再掲	3																																					
2		◇人材育成のための各種研修会への参加や院内教育の充実	職員の資質向上と組織全体の活性化のため、各種研修会や学会等への参加機会の拡充を図るとともに、病院内における職員教育・研修計画に基づき各種研修会等を定期的に開催する。	<div>○各病院の実施状況</div> <table><tr><th>病院名</th><th colspan="2">実施状況</th></tr><tr><td>矢吹病院</td><td colspan="2">○資格取得については、２２年度は精神科看護修士２名を予定していたが、取得は１名で、もう１名は次年度繰り越しとなった。また、認定看護師についても２３年度に１名予定していたが、これについても持ち越しとなった。</td></tr><tr><td>喜多方病院</td><td colspan="2">○資格取得については、病気休暇取得者の発生等により、研修派遣が困難であり、支援には至らなかった。 ○院内教育研修会については、下記のとおり開催し人材育成の推進を図った。 ○看護必要度（１回）、人工呼吸器（１回）、造血の仕組み等（１回）、悪性リンパ種（１回）抗がん剤関係（２回）、多発性骨髄腫（１回）、誤嚥性肺炎予防（１回）、血液細胞移植（１回）、白血病（１回）、伝達研修（４回）</td></tr><tr><td>会津総合病院</td><td colspan="2">○現在の資格取得者は、認定看護師（集中ケア１人、感染管理１人、糖尿病看護１人）、NST専門栄養士２人 ○今後の予定としては、認定看護師（がん性疼痛看護１人）、看護専門外来開設に向けた人材の育成として、県立医科大学看護学研究科の開講科目を利用した研修に２人を派遣</td></tr><tr><td rowspan="6">宮下病院</td><td colspan="2">○各種研修会等への参加状況</td></tr><tr><td rowspan="3">◆医療安全管理者養成研修</td><td>６月２９日</td><td>・医療安全フォローアップⅠ</td></tr><tr><td>９月１６、１７日</td><td>・医療安全のための危険予知活動実践セミナー</td></tr><tr><td>１０月２９日</td><td>・インシデントから学ぶ医療安全</td></tr><tr><td>◆院内感染防止に関する研修</td><td>７月２９日</td><td>・見直そう感染管理始めよう身近なところから</td></tr><tr><td>◆医薬品安全管理責任者研修</td><td>１月２７日</td><td>・医薬品安全管理責任者講習会</td></tr><tr><td>◆訪問看護に関する研修</td><td>９月２８日</td><td>・家族ケア入門・家族をケアするということ</td></tr><tr><td>南会津病院</td><td colspan="2">○目標としていたNST専門療法士１名を養成することができた。認定看護師、看護管理セカンドレベルについては、引き続き今後養成に努めていきたい。</td></tr><tr><td>大野病院</td><td colspan="2">○今年度の資格取得支援者はいませんでした。が、教育委員会、看護研究委員会とも月１回程度開催した。 ○伝達研修は、看護部全員を対象に１回につき３～４人の伝達を行い開催しました。そのほか病棟単位等で個別に伝達研修を実施した。</td></tr></table>	病院名	実施状況		矢吹病院	○資格取得については、２２年度は精神科看護修士２名を予定していたが、取得は１名で、もう１名は次年度繰り越しとなった。また、認定看護師についても２３年度に１名予定していたが、これについても持ち越しとなった。		喜多方病院	○資格取得については、病気休暇取得者の発生等により、研修派遣が困難であり、支援には至らなかった。 ○院内教育研修会については、下記のとおり開催し人材育成の推進を図った。 ○看護必要度（１回）、人工呼吸器（１回）、造血の仕組み等（１回）、悪性リンパ種（１回）抗がん剤関係（２回）、多発性骨髄腫（１回）、誤嚥性肺炎予防（１回）、血液細胞移植（１回）、白血病（１回）、伝達研修（４回）		会津総合病院	○現在の資格取得者は、認定看護師（集中ケア１人、感染管理１人、糖尿病看護１人）、NST専門栄養士２人 ○今後の予定としては、認定看護師（がん性疼痛看護１人）、看護専門外来開設に向けた人材の育成として、県立医科大学看護学研究科の開講科目を利用した研修に２人を派遣		宮下病院	○各種研修会等への参加状況		◆医療安全管理者養成研修	６月２９日	・医療安全フォローアップⅠ	９月１６、１７日	・医療安全のための危険予知活動実践セミナー	１０月２９日	・インシデントから学ぶ医療安全	◆院内感染防止に関する研修	７月２９日	・見直そう感染管理始めよう身近なところから	◆医薬品安全管理責任者研修	１月２７日	・医薬品安全管理責任者講習会	◆訪問看護に関する研修	９月２８日	・家族ケア入門・家族をケアするということ	南会津病院	○目標としていたNST専門療法士１名を養成することができた。認定看護師、看護管理セカンドレベルについては、引き続き今後養成に努めていきたい。		大野病院	○今年度の資格取得支援者はいませんでした。が、教育委員会、看護研究委員会とも月１回程度開催した。 ○伝達研修は、看護部全員を対象に１回につき３～４人の伝達を行い開催しました。そのほか病棟単位等で個別に伝達研修を実施した。		3
病院名	実施状況																																									
矢吹病院	○資格取得については、２２年度は精神科看護修士２名を予定していたが、取得は１名で、もう１名は次年度繰り越しとなった。また、認定看護師についても２３年度に１名予定していたが、これについても持ち越しとなった。																																									
喜多方病院	○資格取得については、病気休暇取得者の発生等により、研修派遣が困難であり、支援には至らなかった。 ○院内教育研修会については、下記のとおり開催し人材育成の推進を図った。 ○看護必要度（１回）、人工呼吸器（１回）、造血の仕組み等（１回）、悪性リンパ種（１回）抗がん剤関係（２回）、多発性骨髄腫（１回）、誤嚥性肺炎予防（１回）、血液細胞移植（１回）、白血病（１回）、伝達研修（４回）																																									
会津総合病院	○現在の資格取得者は、認定看護師（集中ケア１人、感染管理１人、糖尿病看護１人）、NST専門栄養士２人 ○今後の予定としては、認定看護師（がん性疼痛看護１人）、看護専門外来開設に向けた人材の育成として、県立医科大学看護学研究科の開講科目を利用した研修に２人を派遣																																									
宮下病院	○各種研修会等への参加状況																																									
	◆医療安全管理者養成研修	６月２９日	・医療安全フォローアップⅠ																																							
		９月１６、１７日	・医療安全のための危険予知活動実践セミナー																																							
		１０月２９日	・インシデントから学ぶ医療安全																																							
	◆院内感染防止に関する研修	７月２９日	・見直そう感染管理始めよう身近なところから																																							
	◆医薬品安全管理責任者研修	１月２７日	・医薬品安全管理責任者講習会																																							
◆訪問看護に関する研修	９月２８日	・家族ケア入門・家族をケアするということ																																								
南会津病院	○目標としていたNST専門療法士１名を養成することができた。認定看護師、看護管理セカンドレベルについては、引き続き今後養成に努めていきたい。																																									
大野病院	○今年度の資格取得支援者はいませんでした。が、教育委員会、看護研究委員会とも月１回程度開催した。 ○伝達研修は、看護部全員を対象に１回につき３～４人の伝達を行い開催しました。そのほか病棟単位等で個別に伝達研修を実施した。																																									
3	矢吹病院	◇県立医大看護学部企画の「社会人の学び直しニーズ対応教育推進プログラム」の	職員の資質向上に取り組む環境づくりを進めるため、地域ケアに必要な知識・技術の習得や事例検討、実践によって、長期在院精神疾患患者に対する看護の	○社会人の学び直しニーズ対応教育推進プログラムについては、単発的ではあるが前年を上回る延べ76名の参加があり学習意欲の高さがうかがえた。今後も県立医大看護学部の協力のもと、取り組んでいきたい。	4																																					

		積極的参加	レベルアップを目指す「社会人の学び直しニーズ対応教育推進プログラム」への参加を促進する。																																
4	会津総合病院	◇既取得資格の更新に係る支援検討	病院経営上有益な資格を既に有する者に対して、その資格更新に係る経費の支援を検討する。	○資格更新に係る経費の支援検討までには至らなかった。	1																														
5	病院局	◇資格取得支援	専門的な知識と技能を持った職員の育成を図るため、全職種で資格取得等のスキルアップの支援体制を確立する。	○認定看護師をはじめとした職員の専門性向上への支援を実施した。 （２３年度においても認定看護師等の取得への支援を行う。） ○地域医療における情報化を推進していくため、地域医療の情報化コーディネータ育成研修会に派遣を行った。	3																														
6		◇民間実務経験者の採用	これまで培った豊富な経験や専門知識を活用しながら、県立病院の経営改善を図るため、病院経営の管理・監督、企画立案、医療事務等の能力を備えた民間実務経験者を採用する。	○民間実務経験者の採用試験は、実施しなかった。	1																														
7		◇経営感覚を持った職員の育成	経営感覚を持った職員の育成を図るため、初任者研修会や部門横断的な研修会等でワークショップを開催し、各職員が主体的に業務の問題点を洗い出すとともに、解決策を見いだしていく。	<div>○昼食時を利用した自主勉強会である「ランチタイムミーティング」を開催し、お互いの業務について意見交換を行う予定であったが、東日本大震災の影響もあり未実施となった。<ul style="list-style-type: none">・各自の業務に関すること・今の病院（県政）に一言・もし１００億円あったら、自分はどのような施策を展開するか</div> <div>○ワンステップ運動の実施 毎日の業務の中で、できて当たり前だが、なかなかできそうで、できていない基本について、見てるだけ、考えているだけの排除を行い、一歩踏み出して一人ひとりの県立病院基本理念の実践につなげていく活動</div> <table><tr><th>月</th><th>テーマ</th><th>内容</th></tr><tr><td>4月 5月</td><td>出会いはあいさつから</td><td>・新年度は、新たな出会いの季節でもあります。同じ職場内の人、各病院の担当者、関係部署の人、局内に訪問してくる人と、元気のよいあいさつからはじまりましょう。</td></tr><tr><td>6月</td><td>スケジュールを確認しよう</td><td>・いつまで、何をやるのかの目標を設定し、今年一年間の全体スケジュールを再確認しましょう。</td></tr><tr><td>7月</td><td>職場のクリーンアップ</td><td>・来局者を気持ちよく迎えるためにも、きれいな執務環境を保ち、いい仕事の実行に心がけよう。危機管理の面からも、安易に机上に書類を置かないで、情報管理を意識しましょう。</td></tr><tr><td>8月</td><td>仕事と休みのメリハリを</td><td>・これからもいい仕事を継続的に行的っていくために、計画的に夏季休暇を取得し、夏の暑さをのりきりましょう。</td></tr><tr><td>9月</td><td>ほうれんそうを日常会話に</td><td>・業務を円滑に進めていく上で、報告、連絡、相談（ほうれんそう）を日常の雑談にしましょう。</td></tr><tr><td>10月</td><td>業務の再確認をしよう</td><td>・「やるべき業務」、「やりたい業務」を漏らしていないか、それぞれ再確認を行いましょう！</td></tr><tr><td>11月</td><td>気配り・目配り大切に</td><td>・忙しい中でも、お互いに気配り・目配りを合い言葉に、局内外の人たちに接しましょう。</td></tr><tr><td>12月 1月</td><td>新しい業務に備え既存業務の削減</td><td>・既存業務をうまくスクラップして、仕事に余裕を持ちましょう。最小限の労力で最大限の効果を発揮するために、無駄を省いて仕事の精度を上げましょう。</td></tr><tr><td>2月 3月</td><td>確認会話で冷静な判断を</td><td>・誰にでも言い間違い、聞き間違い、思い込みがあります。忙しい今の時期こそ、お互いに確認会話を心がけましょう。確認会話を習慣にして、あせらず、一呼吸おいて、冷静な判断を心がけましょう。</td></tr></table>	月	テーマ	内容	4月 5月	出会いはあいさつから	・新年度は、新たな出会いの季節でもあります。同じ職場内の人、各病院の担当者、関係部署の人、局内に訪問してくる人と、元気のよいあいさつからはじまりましょう。	6月	スケジュールを確認しよう	・いつまで、何をやるのかの目標を設定し、今年一年間の全体スケジュールを再確認しましょう。	7月	職場のクリーンアップ	・来局者を気持ちよく迎えるためにも、きれいな執務環境を保ち、いい仕事の実行に心がけよう。危機管理の面からも、安易に机上に書類を置かないで、情報管理を意識しましょう。	8月	仕事と休みのメリハリを	・これからもいい仕事を継続的に行的っていくために、計画的に夏季休暇を取得し、夏の暑さをのりきりましょう。	9月	ほうれんそうを日常会話に	・業務を円滑に進めていく上で、報告、連絡、相談（ほうれんそう）を日常の雑談にしましょう。	10月	業務の再確認をしよう	・「やるべき業務」、「やりたい業務」を漏らしていないか、それぞれ再確認を行いましょう！	11月	気配り・目配り大切に	・忙しい中でも、お互いに気配り・目配りを合い言葉に、局内外の人たちに接しましょう。	12月 1月	新しい業務に備え既存業務の削減	・既存業務をうまくスクラップして、仕事に余裕を持ちましょう。最小限の労力で最大限の効果を発揮するために、無駄を省いて仕事の精度を上げましょう。	2月 3月	確認会話で冷静な判断を	・誰にでも言い間違い、聞き間違い、思い込みがあります。忙しい今の時期こそ、お互いに確認会話を心がけましょう。確認会話を習慣にして、あせらず、一呼吸おいて、冷静な判断を心がけましょう。	3
月	テーマ	内容																																	
4月 5月	出会いはあいさつから	・新年度は、新たな出会いの季節でもあります。同じ職場内の人、各病院の担当者、関係部署の人、局内に訪問してくる人と、元気のよいあいさつからはじまりましょう。																																	
6月	スケジュールを確認しよう	・いつまで、何をやるのかの目標を設定し、今年一年間の全体スケジュールを再確認しましょう。																																	
7月	職場のクリーンアップ	・来局者を気持ちよく迎えるためにも、きれいな執務環境を保ち、いい仕事の実行に心がけよう。危機管理の面からも、安易に机上に書類を置かないで、情報管理を意識しましょう。																																	
8月	仕事と休みのメリハリを	・これからもいい仕事を継続的に行的っていくために、計画的に夏季休暇を取得し、夏の暑さをのりきりましょう。																																	
9月	ほうれんそうを日常会話に	・業務を円滑に進めていく上で、報告、連絡、相談（ほうれんそう）を日常の雑談にしましょう。																																	
10月	業務の再確認をしよう	・「やるべき業務」、「やりたい業務」を漏らしていないか、それぞれ再確認を行いましょう！																																	
11月	気配り・目配り大切に	・忙しい中でも、お互いに気配り・目配りを合い言葉に、局内外の人たちに接しましょう。																																	
12月 1月	新しい業務に備え既存業務の削減	・既存業務をうまくスクラップして、仕事に余裕を持ちましょう。最小限の労力で最大限の効果を発揮するために、無駄を省いて仕事の精度を上げましょう。																																	
2月 3月	確認会話で冷静な判断を	・誰にでも言い間違い、聞き間違い、思い込みがあります。忙しい今の時期こそ、お互いに確認会話を心がけましょう。確認会話を習慣にして、あせらず、一呼吸おいて、冷静な判断を心がけましょう。																																	

目標2:職員の意識改革(各病院の取組状況)

番号	取組機関	アクションプラン	取組内容	進捗状況	取組評価														
8	共通取組	◇職員提案制度の実施	職員の病院経営への参加意識の向上を図るため、患者サービスの向上や業務の効率化、経費の削減・収益の向上に向けた職員提案制度を充実する。	<div>○各病院の実施状況</div> <table><tr><th>病院名</th><th>実施状況</th></tr><tr><td>矢吹病院</td><td><ul style="list-style-type: none">職員提案については、募集強調月間などを設定して取り組んだが、病院機能評価受審や自治体病院学会対応などへの取り組みのため、提案件数は3件のみとなった。今後も、随時、提案を募集するとともに、職員からの様々な意見についても随時受け入れる体制を維持していきたい。院内広報については、医療安全や訪問看護、薬剤情報などの院内広報活動を実施しており、今後も適宜実施していく。目標管理委員会は年12回開催しており、各レベルに応じた自己評価・師長評価を実施して能力向上を図った。</td></tr><tr><td>喜多方病院</td><td><ul style="list-style-type: none">平成23年度行動指針について、職員公募を実施し、医事業務委託職員など、院内各部署から幅広い応募があった。応募のあった指針は、経営改善、事故防止、接遇向上及び一般の4区分で選考を行った。受賞者4名に対しては、平成23年3月1日開催の全体会席上で表彰を行った。行動指針は、職員ネームプレートの裏面への添付やナースステーション等院内各所に掲示し、職員が常時参照できるようにして意識向上を図った。</td></tr><tr><td>会津総合病院</td><td><ul style="list-style-type: none">平成22年度は1件の職員提案があった。提案内容は医学セミナーの開催であり、本提案は「市民公開講座」の開催という形で採用された。毎年度実施している業務改善及び職員の資質向上を目的とした課題・目標管理については、平成22年度は21件の取組みが行われた。</td></tr><tr><td>宮下病院</td><td><ul style="list-style-type: none">診療部として、「外来診療録の整理方法等の見直し」、「放射線業務連絡会の開催」、「誕生日をお祝いしよう！」看護部として、「看護の日企画イベント実施」、「癒しのある空間の提供」、「お花を飾り憩いの空間を広げる」、「院内健康教室の開催」、「内視鏡・超音波検査前オリエンテーションの充実」、「カルテ整理の見直し」、「口腔ケアの充実」、「病棟の環境整備」、「在宅療養介護用パンフレットの作成」薬剤部として、「禁忌医薬品集の作成」、「医療従事者に対する医薬品情報提供の再検討」事務部として「業務委託費削減に向けての取組」</td></tr><tr><td>南会津病院</td><td><ul style="list-style-type: none">職員提案については、平成21年度より毎年2月を「職員提案月間」と定め、院内での積極的な応募を図ったところであるが、病院機能評価等による業務改善等が事前に行われたことなどもあり、職員提案の形式での提案件数は上がらなかったが、実質的な業務の改善は多数行われた。形式的な運営委員会は12回となったが、震災後は運営委員会構成員による「災害対応ミーティング」を毎朝行うなど、適宜対応した。</td></tr><tr><td>大野病院</td><td><ul style="list-style-type: none">職員提案については、定期的に主任者会議等で積極的な提案を指示、周知した。病院経営の視点の醸成等、職員の意識向上に取り組んだ。</td></tr></table>	病院名	実施状況	矢吹病院	<ul style="list-style-type: none">職員提案については、募集強調月間などを設定して取り組んだが、病院機能評価受審や自治体病院学会対応などへの取り組みのため、提案件数は3件のみとなった。今後も、随時、提案を募集するとともに、職員からの様々な意見についても随時受け入れる体制を維持していきたい。院内広報については、医療安全や訪問看護、薬剤情報などの院内広報活動を実施しており、今後も適宜実施していく。目標管理委員会は年12回開催しており、各レベルに応じた自己評価・師長評価を実施して能力向上を図った。	喜多方病院	<ul style="list-style-type: none">平成23年度行動指針について、職員公募を実施し、医事業務委託職員など、院内各部署から幅広い応募があった。応募のあった指針は、経営改善、事故防止、接遇向上及び一般の4区分で選考を行った。受賞者4名に対しては、平成23年3月1日開催の全体会席上で表彰を行った。行動指針は、職員ネームプレートの裏面への添付やナースステーション等院内各所に掲示し、職員が常時参照できるようにして意識向上を図った。	会津総合病院	<ul style="list-style-type: none">平成22年度は1件の職員提案があった。提案内容は医学セミナーの開催であり、本提案は「市民公開講座」の開催という形で採用された。毎年度実施している業務改善及び職員の資質向上を目的とした課題・目標管理については、平成22年度は21件の取組みが行われた。	宮下病院	<ul style="list-style-type: none">診療部として、「外来診療録の整理方法等の見直し」、「放射線業務連絡会の開催」、「誕生日をお祝いしよう！」看護部として、「看護の日企画イベント実施」、「癒しのある空間の提供」、「お花を飾り憩いの空間を広げる」、「院内健康教室の開催」、「内視鏡・超音波検査前オリエンテーションの充実」、「カルテ整理の見直し」、「口腔ケアの充実」、「病棟の環境整備」、「在宅療養介護用パンフレットの作成」薬剤部として、「禁忌医薬品集の作成」、「医療従事者に対する医薬品情報提供の再検討」事務部として「業務委託費削減に向けての取組」	南会津病院	<ul style="list-style-type: none">職員提案については、平成21年度より毎年2月を「職員提案月間」と定め、院内での積極的な応募を図ったところであるが、病院機能評価等による業務改善等が事前に行われたことなどもあり、職員提案の形式での提案件数は上がらなかったが、実質的な業務の改善は多数行われた。形式的な運営委員会は12回となったが、震災後は運営委員会構成員による「災害対応ミーティング」を毎朝行うなど、適宜対応した。	大野病院	<ul style="list-style-type: none">職員提案については、定期的に主任者会議等で積極的な提案を指示、周知した。病院経営の視点の醸成等、職員の意識向上に取り組んだ。	3
病院名	実施状況																		
矢吹病院	<ul style="list-style-type: none">職員提案については、募集強調月間などを設定して取り組んだが、病院機能評価受審や自治体病院学会対応などへの取り組みのため、提案件数は3件のみとなった。今後も、随時、提案を募集するとともに、職員からの様々な意見についても随時受け入れる体制を維持していきたい。院内広報については、医療安全や訪問看護、薬剤情報などの院内広報活動を実施しており、今後も適宜実施していく。目標管理委員会は年12回開催しており、各レベルに応じた自己評価・師長評価を実施して能力向上を図った。																		
喜多方病院	<ul style="list-style-type: none">平成23年度行動指針について、職員公募を実施し、医事業務委託職員など、院内各部署から幅広い応募があった。応募のあった指針は、経営改善、事故防止、接遇向上及び一般の4区分で選考を行った。受賞者4名に対しては、平成23年3月1日開催の全体会席上で表彰を行った。行動指針は、職員ネームプレートの裏面への添付やナースステーション等院内各所に掲示し、職員が常時参照できるようにして意識向上を図った。																		
会津総合病院	<ul style="list-style-type: none">平成22年度は1件の職員提案があった。提案内容は医学セミナーの開催であり、本提案は「市民公開講座」の開催という形で採用された。毎年度実施している業務改善及び職員の資質向上を目的とした課題・目標管理については、平成22年度は21件の取組みが行われた。																		
宮下病院	<ul style="list-style-type: none">診療部として、「外来診療録の整理方法等の見直し」、「放射線業務連絡会の開催」、「誕生日をお祝いしよう！」看護部として、「看護の日企画イベント実施」、「癒しのある空間の提供」、「お花を飾り憩いの空間を広げる」、「院内健康教室の開催」、「内視鏡・超音波検査前オリエンテーションの充実」、「カルテ整理の見直し」、「口腔ケアの充実」、「病棟の環境整備」、「在宅療養介護用パンフレットの作成」薬剤部として、「禁忌医薬品集の作成」、「医療従事者に対する医薬品情報提供の再検討」事務部として「業務委託費削減に向けての取組」																		
南会津病院	<ul style="list-style-type: none">職員提案については、平成21年度より毎年2月を「職員提案月間」と定め、院内での積極的な応募を図ったところであるが、病院機能評価等による業務改善等が事前に行われたことなどもあり、職員提案の形式での提案件数は上がらなかったが、実質的な業務の改善は多数行われた。形式的な運営委員会は12回となったが、震災後は運営委員会構成員による「災害対応ミーティング」を毎朝行うなど、適宜対応した。																		
大野病院	<ul style="list-style-type: none">職員提案については、定期的に主任者会議等で積極的な提案を指示、周知した。病院経営の視点の醸成等、職員の意識向上に取り組んだ。																		
9	病院局	◇病院経営セミナーの開催	職員一人一人の病院運営への主体的参加の意識を促すため、医療を取り巻く環境について、各病院職員に周知するセミナーの実施などにより、病院経営の情報の共有化を図る。	○再掲	2														

基本方針５：地域との連携・共生（地域連携の視点）

改革プラン方針		平成２２年度取組状況及び自己評価				
目標 1	地域医療機関等との連携	目標値達成状況評価		取組状況評価		
		【４】	目標値を達成できた	【４】	積極的に行われている	
<p>【紹介率の向上】</p> <p>紹介率を向上させながら患者数の増加を図るため、地域の医療機関等との機能分担や訪問を通じての顔の見える連携を積極的に進める。</p> <p>【社会復帰に向けた体制整備】</p> <p>患者さんを地域全体でサポートしていくため、医療機関や保健・介護福祉施設、行政機関との連携を強化し、患者さんが適切な治療を受け早期の社会復帰を果たせるような体制整備を図る。</p> <p>【医師派遣等による支援機能発揮】</p> <p>へき地医療拠点病院として、国保診療所や介護保健施設への医師派遣による診療応援を実施するなど、地域の病院等との相互協力・支援の取組みを充実する。</p> <p>【地域生活移行に向けた体制整備】</p> <p>患者さんの地域生活移行に向けた体制の充実を図るため、ボランティアによる地域住民との交流やグループホームなどとの連携を強化する。</p>		○平成２２年度の取組状況				
		1 地域医療連携について				
		◆ 地域の医療・保健・福祉・消防機関への医師の専門分野の紹介や院内行事等の広報活動を通じて、地域の医療機関等との連携を強化し、紹介率の向上に努めた。				
		矢吹病院	○介護施設等への訪問やグループホーム、福祉ホームなど、体験利用を含めて計５０回の施設訪問を実施			
		喜多方病院	○地域医療機関及び社会福祉施設等への訪問活動を行い、病病・病診連携の向上や医療ニーズの把握に地域連携活動の更なる充実強化を図った。			
		会津総合病院	○会津地方の医療機関に対するあいさつ回りの実施及び地元医師会への加入促進を図った。（平成２２年度新規加入医師３人）合計８名加入			
		宮下病院	○「医療・保健・福祉関係機関連絡会議」を開催して、診療所の医師や介護老人福祉施設の担当者、町村の保健師と情報の共有化を図り、定期的に訪問を実施			
		南会津病院	○地域連携の専用電話の設置、紹介患者についての対応マニュアルの整備、医療・福祉等の関係者との懇談会を開催			
		大野病院	○地域連携室を通じた他病院や診療所との連携、医師の研究等の内容の周知と医師会との連携を図るため、 <small>さだんかい</small> 瑣談会を実施			
		【紹介率・病床利用率の状況】				
	矢吹病院	喜多方病院	会津総合病院	宮下病院	南会津病院	大野病院
22 紹介率	29.0%	21.6%	22.8%	11.1%	13.4%	-%
21 紹介率	15.8%	18.0%	21.8%	8.7%	13.4%	18.2%
22 病床利用率	69.2%	74.0%	54.7%	55.5%	58.3%	35.9%
21 病床利用率	70.6%	85.1%	51.3%	55.9%	50.1%	27.2%
*大野病院の数値については、震災の影響でデータ不足のため算出不可						
2 医師派遣等による支援機能について						
矢吹病院	○矢吹救護院天風寮「緑風園」 嘱託診療（２４回／年） ○特別養護老人ホーム「寿光園」 嘱託診療（３６回／年） ○福島県太陽の国病院 嘱託診療（２４回／年）					
会津総合病院	○宮下病院（整形外科・耳鼻科・皮膚科・神経精神科）、南会津病院（神経精神科・神経内科・皮膚科）、喜多方病院（整形外科）に非常勤医師派遣					
宮下病院	○柳津町国民健康保険診療所（毎週月曜日に１名派遣（４９回／年））					

	○金山町国民健康保険診療所（毎週火曜日から金曜日１名派遣（１９７回／年）） ○特別養護老人ホーム桐寿苑（毎週金曜日に１名派遣（５０回／年））			
南会津病院	○只見町国民健康保険朝日診療所（診療応援２３回、当直応援５回）			
3 地域生活移行に向けた体制整備について				
◆ 矢吹病院における取組み				
◇心理教育部	○新潟県南浜病院の活動状況の視察を行い、心理教育プログラムについてのスタッフのスキルアップを行った。 ○「みんなネットフォーラム２０１０」に参加し、心理教育の一つの柱である家族支援に関する情報収集を実施した。			
◇レクレーション療法部	○福島県 SST 協会実施の研修に参加し、スタッフの室の向上に努めた。 ○７回実施（カラオケ大会、七夕飾り、ミニ運動会等）			
◇作業療法部	○実施状況			
	H 2 2 年度	H 2 1 年度	H 2 0 年度	平成 1 9 年度
	1 2, 9 2 2 人	1 3, 7 4 1 人	1 4, 4 6 2 人	1 6, 0 1 1 人
◇デイケア医療部	○登録者数 4 5 人			
	H 2 2 年度	H 2 1 年度	H 2 0 年度	平成 1 9 年度
	3, 8 4 6 人	3, 7 9 0 人	3, 9 5 4 人	3, 8 4 0 人
◇訪問看護室	○登録者数 6 8 人（平成 2 2 年 4 月）			
	H 2 2 年度	H 2 1 年度	H 2 0 年度	平成 1 9 年度
	1, 6 8 8 人	1, 8 1 7 人	1, 7 7 6 人	1, 4 0 5 人
○共通目標指標				
紹介率				
2 1 年度実績値 1 6 . 7 %				
2 2 年度目標値 1 9 % 以上				
2 2 年度実績値 1 7 . 2 %				
2 3 年度目標値 2 0 % 以上				
病床利用率（一般）				
2 1 年度実績値 4 7 . 6 %				
2 1 年度目標値 5 9 % 以上				
2 2 年度実績値 5 2 . 2 %				
2 3 年度目標値 6 8 % 以上				

目標 2	県民への情報提供	目標値達成状況評価		取組状況評価	
		【－】	目標値の設定なし	【４】	積極的に行われている
<p>〔効果的な情報発信〕</p> <p>地域に親しまれる病院となるため、院外広報誌の発行等を通じて医療に関する情報や院内活動などの情報発信に取り組む。</p> <p>〔出前講座等の実施〕</p> <p>地域に信頼される病院を目指し、行政や団体機関等における講演会等への講師派遣、各県立病院が主催する研修会や出前講座などのイベントなど、職員が積極的に地域に出向いた活動を行う。</p>		○平成 2 2 年度の取組状況			
		1 情報発信について			
		◆ ホームページの定期的な更新や市町村広報誌への記事掲載、院内外情報誌の発行を通じて、医師の紹介や院内イベント、診療情報等の積極的な発信を行った。			
		【院外広報誌等の発行状況】			
		矢吹病院	○「彩雲」の発行（9月の第4号、3月の第5号は震災の影響で中止）		
		喜多方病院	○地域医療連携室だより「ヒマラヤ杉」の発行（3回）		
		会津総合病院	○新規病院案内の作成		
		宮下病院	○医療圏町村の広報誌への情報掲載（毎月）、31回掲載		
		南会津病院	○「かけはし」の発行（4回）		
		大野病院	○「望双」の発行（5回）、医師の特集号を発行		
病院局	○「県立病院ニュース」発行（2回）				
		2 出前講座等の実施について			
		（1）市民公開講座の開催			
		会津総合病院で、地域に開かれた病院づくりを目指すことを目的に実施した。			
		項目	第1回	第2回	
		1 日 時	○平成 2 2 年 9 月 1 0 日（金）	◇平成 2 3 年 3 月 1 0 日（木）	
		2 場 所	○会津若松ワシントンホテル	◇会津若松市民文化センター	
		3 参加者	○約 4 5 0 人	◇約 3 0 0 人	
		4 内 容	○特別講演 「いのちの養生法」 ～心と言葉と体の不思議～ 講師：玄有宗久 氏 ○講演 1 「わかる！貧血の話」 講師：大田雅嗣 氏 県立医科大学会津医療センター準備室教授・会津総合病院院長補佐 ○講演 2 「お酒と膵臓病」 講師：入澤篤志 氏 県立医科大学会津医療センター準備室教授・会津総合病院院長補佐	【第一部 医療・健康セミナー】 ◇座長 飯塚美伸 氏 会津総合病院診療部長 ◇講演 1 「難治癌の新しい治療法」 ～肝・胆・膵癌に挑む～ 講師：齋藤拓朗 氏 県立医科大学会津医療センター準備室教授・会津総合病院院長補佐 ◇講演 2 「大腸ポリープと癌の話」 講師：富樫一智 氏 県立医科大学会津医療センター準備室教授・会津総合病院院長補佐 【第二部 健康寄席】 ◇落語家 三遊亭兼好 師匠	

◆ ２２年度宮下病院出前講座開催一覧

月日		講座名	講師
５月１４日	柳津町	○高齢者の転倒予防・寝たきり予防	外来：富田佳加
５月１７日	柳津町	○高齢者の転倒予防・寝たきり予防	外来：富田佳加
５月２５日	柳津町	○元気をつくる食生活	給食：佐野朋恵
６月２８日	三島町	○笑い与健康～笑いは免疫力を高める	病棟：山宮孝子、外来：一条幸
７月１３日	三島町	○高齢者の転倒予防・寝たきり予防	部長：若林香代子、外来：渡部俊子
７月２１日	柳津町	○いつまでもいきいきと自分らしく	外来：五十嵐富美子、富田佳加
８月２７日	柳津町	○笑い与健康～笑いは免疫力を高める	部長：若林香代子、病棟：山宮孝子
９月１０日	柳津町	○元気をつくる食生活	給食：佐野朋恵
９月１４日	柳津町	○高血圧予防教室	部長：若林香代子、外来：佐藤由美
１０月１５日	柳津町	○腰痛、膝痛の原因	病棟：志田つや子、長谷川文
１０月２７日	柳津町	○高齢者の転倒予防・寝たきり予防	部長：若林香代子、外来：渡部俊子
１１月１２日	金山町	○腰痛、膝痛の原因	部長：若林香代子、病棟：児山佐代美
１２月２１日	柳津町	○高齢者の転倒予防・寝たきり予防	外来：渡部俊子、病棟：岩佐奈々
１２月２２日	柳津町	○高齢者の転倒予防・寝たきり予防	部長：若林香代子、外来：渡部俊子
１２月２５日	三島町	○笑い与健康～笑いは免疫力を高める	大雪により中止
１月２０日	三島町	○笑い与健康～笑いは免疫力を高める	部長：若林香代子、病棟：山宮孝子
１月２７日	三島町	○笑い与健康～笑いは免疫力を高める	部長：若林香代子、病棟：山宮孝子
２月９日	三島町	○上手な薬の飲み方・使い方	薬剤部長：木村仁一
２月１０日	三島町	○いつまでもいきいきと自分らしく	外来：富田佳加
２月１４日	柳津町	○笑い与健康～笑いは免疫力を高める	部長：若林香代子、病棟：山宮孝子
２月２１日	柳津町	○笑い与健康～笑いは免疫力を高める	部長：若林香代子、病棟：山宮孝子
２月２２日	三島町	○笑い与健康～笑いは免疫力を高める	部長：若林香代子、病棟：山宮孝子
２月２４日	柳津町	○いつまでもいきいきと自分らしく	部長：若林香代子、外来：富田佳加
３月４日	三島町	○いつまでもいきいきと自分らしく	病棟：山宮孝子、外来：富田佳加
３月１５日	柳津町	○いつまでもいきいきと自分らしく	震災により中止

◆ ２２年度大野病院出前講座開催一覧

月日		講座名	講師
５月２５日	富岡町	◇リハビリテーション医療の基礎知識	理学療法士 新妻和恵
１０月２２日	大熊町	◇メタボリック・シンドロームと食生活	管理栄養士 槻林澄子
１２月７日	富岡町	◇インフルエンザについて	看護師 古田邦彦
１２月２０日	双葉町	◇お年寄りに安心な生活環境	作業療法士 鴻野豊勝
１月５日	富岡町	◇ノロウイルスについて	看護師 志賀友美
１月１２日	双葉町	◇感染症指定医療機関の感染対策について	看護師 志賀友美
１月１７日	南相馬市	◇医療関連感染対策について	看護師 志賀友美
１月２０日	大熊町	◇メタボリック・シンドロームと食生活	管理栄養士 槻林澄子
２月２３日	大熊町	◇メタボリック・シンドロームと食生活	管理栄養士 槻林澄子

（２）地域医療セミナーの開催について
南会津病院で、地元医師会、保健・介護関係者と「南会津保健・医療・介護懇談会」を開催し、地域の課題を浮き彫りにするとともに、顔の見える関係づくりを行った。

１ 日 時	○平成２２年１１月２０日（土）
２ 場 所	○南会津町田島 はだかや
３ 参加者	○約４０名
４ 内 容	【セミナー】 ○座長 佐竹賢仰 南会津病院長 ○講演 「会津医療センターの概要と地域医療支援」 認知症の話題～生活習慣病との関連～ 講師：鈴木啓二 氏 会津総合病院長 ○意見交換

（３）出前講座の実施について
地域住民の健康づくりなどに役立たせるため、病院スタッフが各地に出向いて講座を行った。

病院名	平成２２年度	平成２１年度
宮下病院	三島町 ８回（参加者数１５５名） 金山町 １回（参加者数 ３２名） 柳津町１４回（参加者数３０４名）	三島町１３回（参加者数２９８名） 金山町 １回（参加者数 ５２名） 柳津町１０回（参加者数３１７名）
大野病院	大熊町 ３回（参加者数３７０名） 双葉町 ２回（参加者数１１０名） 富岡町 ３回（参加者数 ６０名） 南相馬市１回（参加者数１００名）	大熊町 ３回（参加者数 ６０名） 双葉町 ３回（参加者数１９２名） 葛尾村 １回（参加者数 ３０名） 楢葉町 １回（参加者数 ２５名）

（４）各種イベントの実施状況

矢吹病院	年間レクレーション（クリスマス会、節分、ひな祭り等）
喜多方病院	看護の日の集い、バザー（バザー収益金７０,１２３円を全額ユニセフへ寄付）、ふれあい川柳コンクール、ふれあい写真展、消防本部との連絡会
会津総合病院	脾臓病講座、消防本部との情報交換、会津若松健康祭、糖尿病教室
宮下病院	看護の日イベント、院内コンサート、院内健康教室
南会津病院	院内コンサート、学術セミナー、ふれあいギャラリー
大野病院	看護フェア、敬老の日イベント、ハンドベル演奏

（５）院内アメニティの充実

矢吹病院	
喜多方病院	ふれあい川柳、写真展の作品掲示、花いっぱい病院づくり
会津総合病院	会津医療センター看板及びボード設置
宮下病院	七夕飾り、お月見飾り、クリスマスツリー、正月飾り、お雛飾り、草花植栽
南会津病院	地デジ対応壁掛け型テレビの設置、情報発信スペースの設置、ポスター掲示
大野病院	七夕飾り、医療関連用品の展示、栄養関連の展示、クリスマス飾り

□目標１：地域医療機関等との連携（各病院の取組状況）

番号	取組機関	アクションプラン	取組内容	進捗状況	取組評価														
1	共通取組	◇地域の医療機関、介護施設、訪問看護ステーション等との連携強化	地域の医療機関や保健・介護福祉施設と連携を強化し、新規患者数の増加を図るとともに、退院支援体制を構築する。	○各病院の取組状況 <table><tr><th>病院名</th><th>取組状況</th></tr><tr><td>矢吹病院</td><td>○介護施設等への訪問については、北天寮や地域生活支援センター「こころん」、グループホーム「こころんハウス」のほか、グループホーム「あけぼの荘」や福祉ホーム「ひもろぎの園」など、体験利用を含めて、計５０回の施設訪問を実施した。 ○震災被災による３９名の紹介状を伴う入院があり、紹介率は大幅に向上した。</td></tr><tr><td>喜多方病院</td><td>○平成２２年４月から地域医療連携室に専任職員を配置し、地域医療機関等との連携を推進した。その結果、紹介率が上昇した。 ○地域医療機関及び社会福祉施設等の連携を強化するため訪問活動を展開し、目標の２倍以上の訪問実績となった。</td></tr><tr><td>会津総合病院</td><td>○平成２２年４月以降当院に着任した会津医療センター準備室教授（会津総合病院院長補佐）が会津地方の各医療機関に着任のあいさつ回りを行った。 ○会津若松医師会への加入として、平成２３年５月末現在加入者数８人（うち平成２２年度新規加入者数３人）</td></tr><tr><td>宮下病院</td><td>○介護老人福祉施設への定期訪問や地域の保健・福祉関係機関との合同ケア会議の開催</td></tr><tr><td>南会津病院</td><td>○地域連携の専用電話の設置、紹介患者についての対応マニュアルの整備、医療・福祉等の関係者と当院職員の懇談会の開催等により、他医療機関等が患者を紹介しやすくなるような環境の整備を図った。</td></tr><tr><td>大野病院</td><td>○地域医療連携室を通じた他の病院や診療所等との連携や患者サービスの向上を図り、効率的な病棟運営を行うなど、適正な入院患者数の確保を図った。 ○双葉郡医師会の協力を得て、毎週金曜日に夜間救急外来を開設した。</td></tr></table>	病院名	取組状況	矢吹病院	○介護施設等への訪問については、北天寮や地域生活支援センター「こころん」、グループホーム「こころんハウス」のほか、グループホーム「あけぼの荘」や福祉ホーム「ひもろぎの園」など、体験利用を含めて、計５０回の施設訪問を実施した。 ○震災被災による３９名の紹介状を伴う入院があり、紹介率は大幅に向上した。	喜多方病院	○平成２２年４月から地域医療連携室に専任職員を配置し、地域医療機関等との連携を推進した。その結果、紹介率が上昇した。 ○地域医療機関及び社会福祉施設等の連携を強化するため訪問活動を展開し、目標の２倍以上の訪問実績となった。	会津総合病院	○平成２２年４月以降当院に着任した会津医療センター準備室教授（会津総合病院院長補佐）が会津地方の各医療機関に着任のあいさつ回りを行った。 ○会津若松医師会への加入として、平成２３年５月末現在加入者数８人（うち平成２２年度新規加入者数３人）	宮下病院	○介護老人福祉施設への定期訪問や地域の保健・福祉関係機関との合同ケア会議の開催	南会津病院	○地域連携の専用電話の設置、紹介患者についての対応マニュアルの整備、医療・福祉等の関係者と当院職員の懇談会の開催等により、他医療機関等が患者を紹介しやすくなるような環境の整備を図った。	大野病院	○地域医療連携室を通じた他の病院や診療所等との連携や患者サービスの向上を図り、効率的な病棟運営を行うなど、適正な入院患者数の確保を図った。 ○双葉郡医師会の協力を得て、毎週金曜日に夜間救急外来を開設した。	3
病院名	取組状況																		
矢吹病院	○介護施設等への訪問については、北天寮や地域生活支援センター「こころん」、グループホーム「こころんハウス」のほか、グループホーム「あけぼの荘」や福祉ホーム「ひもろぎの園」など、体験利用を含めて、計５０回の施設訪問を実施した。 ○震災被災による３９名の紹介状を伴う入院があり、紹介率は大幅に向上した。																		
喜多方病院	○平成２２年４月から地域医療連携室に専任職員を配置し、地域医療機関等との連携を推進した。その結果、紹介率が上昇した。 ○地域医療機関及び社会福祉施設等の連携を強化するため訪問活動を展開し、目標の２倍以上の訪問実績となった。																		
会津総合病院	○平成２２年４月以降当院に着任した会津医療センター準備室教授（会津総合病院院長補佐）が会津地方の各医療機関に着任のあいさつ回りを行った。 ○会津若松医師会への加入として、平成２３年５月末現在加入者数８人（うち平成２２年度新規加入者数３人）																		
宮下病院	○介護老人福祉施設への定期訪問や地域の保健・福祉関係機関との合同ケア会議の開催																		
南会津病院	○地域連携の専用電話の設置、紹介患者についての対応マニュアルの整備、医療・福祉等の関係者と当院職員の懇談会の開催等により、他医療機関等が患者を紹介しやすくなるような環境の整備を図った。																		
大野病院	○地域医療連携室を通じた他の病院や診療所等との連携や患者サービスの向上を図り、効率的な病棟運営を行うなど、適正な入院患者数の確保を図った。 ○双葉郡医師会の協力を得て、毎週金曜日に夜間救急外来を開設した。																		
2	矢吹病院	◇地域生活移行へ向けた支援体制の強化	地域医療担当部門を設置し、地域との連携や患者の地域生活移行への支援体制の強化を図る。	○長期入院患者の地域生活移行は、目標を上回る４名となった。	5														
3		◇患者のグループホームへの円滑な移行	「入院医療中心から地域生活中心へ」という精神保健医療福祉改革ビジョンの基本的な考え方を踏まえ、長期の社会的入院患者の退院、社会復帰を促進するため、関係機関との連携を強化しながら、患者のグループホームへの円滑な移行支援を行う。 こうした取組みにより平均在院日数の短縮を図る。	○前年度実施した「地域障がい者地域生活移行支援特別対策事業」については、引き続き参加して取り組んだほか、院内リハビリテーション組織に追加した「心理教育部」活動においても、社会復帰支援体制の強化に取り組んだ。 ○年間レク（演芸会）において太鼓演奏ボランティア参加を予定していたが、生活療法棟（体育館）の耐震工事のため実施できなかった。	5														
4		◇県立医大看護学部との共同研究実施による患者の地域生活移行に向けた活動の強化	県立医科大学看護学部との共同研究では、入院患者を三群に分類し、社会復帰支援に向けたアプローチを行っているが、今後、リハビリテーション組織の在り方や会議の定期開催数などの見直しを図る。	○在院短縮検討事業については、県立医大看護学部と協働で地域の関係機関と連携して、地域ネットワーク会議として引き継いでいる。	5														
5	会津総合病院	◇へき地医療拠点センター病院としての支援	喜多方病院、宮下病院、南会津病院へ診療応援を実施することで、へき地医療拠点センター病院としての役割を果たす。	○へき地医療拠点センター病院として、喜多方病院、宮下病院及び南会津病院へ診療応援を行うとともに、当院と只見町朝日診療所を光回線及び画像診断システムを利用して、CT画像等の遠隔画像診断及びカンファレンスを実施し、へき地診療所に対する支援を行った。	4														
6	宮下病院 南会津病院	◇国保診療所への診療応援	常勤医師の確保・定着を図り、地域の国保診療所へ医師を派遣するなど、へき地医療拠点病院としての役割を果たす。	○再掲	5														

7	病院局	◇地域連携の取組に対する各病院への支援	各病院と連携を図りながら、地域連携の取組みへの支援を行う。	○会津医療センター（仮称）整備や大野病院と双葉厚生病院との統合を控えていたことから、地域の医療機関との連携が重要であるため、医療機関や医師会を訪問しながらさらなる連携強化を行った。 ○経営検討会で地域連携のあり方に対する講演会を行い、各病院の取組みの参考となるように支援を行った。	4
8		◇県立病院収益確保プロジェクトの実施（再掲）	平成２２年度診療報酬制度改定や、ＤＰＣ導入への対応、地域連携の強化による患者確保などに向けた対策を講じるため、経営改善に向けて組織されている病院経営検討会に、実務担当者レベルのメンバーを加え発展させ、定期的に部門横断的な検討を行い、具体的に取り組む。	○再掲	3

□目標2：県民への情報提供(各病院の取組状況)

番号	取組機関	アクションプラン	取組内容	進捗状況	取組評価	
9	共通取組	◇ホームページの充実と院外広報誌の発行	医療に関する情報や院内活動等を地域に幅広く伝えるため、ホームページの充実や院外広報誌の発行を通じて、情報発信機能の強化を図る。	◇取組状況	3	
				病院名		取組状況
				矢吹病院		○ホームページは、アクセス件数11,363件（目標8,800件） 今後も、診療情報や診療実績などについて情報提供するとともに、当院の基本情報や活動状況などについて広報していきたい。 ○院外広報誌「彩雲」は、9月に第4号を発行し、3月に第5号を発行する予定で準備してきたが、震災の影響により発行できなかった。
				喜多方病院		○ホームページは、病院の情報を積極的に発信するため、院内イベント開催の周知や地域連携についての情報等、適宜ホームページを更新し情報発信に努めた。 ○地域連携室だよりの発行を3回行った。
				会津総合病院		○ホームページは、会津医療センター（仮称）開院へ準備が進んでいることから、利用者にとって分かりやすいホームページを目指して、トップページのリニューアルを行った。
				宮下病院		○ホームページは、アクセス件数2,260件（1日平均6.2件） ○地元町村広報誌へ、新任医師の紹介や院内イベント情報の発信を行った。
				南会津病院		○ホームページは、院内コンサートなどの情報を積極的に更新を行った。 ○院外広報誌「かけはし」を作成し、郡内全戸に配布した。第1号10月、第2号11月、第3号1月、第4号3月に予定していたが震災の影響により延期した。 ○エントランスホールの一部を修繕し、情報発信スペースを設置して、医療情報に関する資料の掲示を行った。
				大野病院		○ホームページは、見やすい情報提供に努めた。 ○院外広報誌「望双」を5回発行するとともに、双葉郡町村広報誌へ、双葉厚生病院との統合を実施することについて掲載を行った。
10		◇イベントの開催による地域住民との交流促進	健康講座や音楽コンサート等の開催、地元市町村等が主催する医療講演会等への職員派遣などにより、病院の持つ専門的な知識や最新情報を提供し、地域の方々の医療に関する理解促進と普及啓発を図る。	◇取組状況	4	
				病院名		取組状況
				矢吹病院		○年間レク（演芸会）において太鼓演奏ボランティア参加を予定していたが、生活療法棟（体育館）の耐震工事のため実施できなかった。
				喜多方病院		○【看護の日の集い】（平成22年5月29日） 職員が提供する品物を格安で販売するバザーを開催し、患者さんや地域の方々が病院を訪れるきっかけ作りを行った。

					<p>また、民話の語り部による昔話を行い、患者様、地域の方々及び職員が同じ会場で昔話を聞く時間を共有した。</p> <p>なお、バザーの収益金 7 0， 1 2 3 円全額を日本ユニセフ協会へ寄付した。</p> <p>○【ふれあい写真展】（平成 2 2 年 8 月 3 0 日～ 9 月 3 0 日）</p> <p>「夏」及び「やすらぎ」の 2 つのテーマにより写真を募集し、 3 0 名・ 5 8 点の応募があった。応募作品をふれあい掲示版に掲示し、患者さん等とのコミュニケーションのきっかけとした。また、応募作品については、病院幹部職員及びふれあい事業実行委員による投票を行い、優秀作品に対して喜多方病院長賞等の賞を授与した。</p> <p>○【ふれあい川柳コンクール】</p> <p>「健康部門」及び「その他自由部門」の 2 つのテーマで川柳の募集を行い、川柳を共通の話題として、患者様、地域の方々及び職員がコミュニケーションを図り、親しみを感じて貰える病院作りに役立てた。</p> <p>また、応募作品については、病院幹部職員及びふれあい事業実行委員による投票を行い、優秀作品に対して喜多方病院長賞等の賞を授与した。</p>											
				会津総合病院	<p>○【市民公開講座】（再掲）</p> <p>当院、県立喜多方病院及び福島県立医科大学の 3 者共催による「市民公開講座」を 2 回実施した。（第 1 回 平成 2 2 年 9 月 1 0 日、第 2 回 平成 2 3 年 3 月 1 0 日）</p> <p>○【膵臓病講座】</p> <p>すい臓病について地域住民の方々に理解を深めていただくために、当院の医師を講師として派遣する出前講座を実施した。</p> <p>「すい臓ってどんな働きをするところ？」、「すい臓病にはどんなものがあるの？」、「お酒はすい臓に悪い」、「急性すい炎や慢性すい炎ってどんな病気？」、「すい臓がんは治らない？」などの疑問に当院の医師がお答えしています。</p> <p>（第 1 回 平成 2 2 年 9 月 1 6 日、第 2 回 平成 2 2 年 1 0 月 2 8 日）</p> <p>○【会津地方 3 消防本部（会津若松、喜多方、南会津）との情報交換会】</p> <p>（平成 2 2 年 1 0 月 1 9 日）</p> <p>○【会津若松市健康祭（会津若松市主催）に参画】</p> <p>○【糖尿病教室】</p> <p>糖尿病と上手につきあうために、患者さんや家族を対象として開催した。</p>											
				宮下病院	<p>○【医療講演会の医師派遣】</p> <p>7 月 1 6 日の宮下病院等後援会総会に、講師派遣を行った。「高血圧について～上手な家庭血圧のはかり方～」</p> <p>○【院内イベント】</p> <table border="1"><tr><td>開催日</td><td>5 月 1 2 日（看護の日：ナイチンゲールの誕生日）</td></tr><tr><td>テーマ</td><td>「心ある地域医療を目指して」</td></tr><tr><td>主な内容</td><td>看護の日記念グッズの配付（絆創膏、タオルハンカチ等）、血圧・骨密度・腹回測定、血圧手帳を配付し、自分自身で記録し健康チェックに役立たせるよう指導・啓発を行った。</td></tr></table> <p>○【心ある医療出前講座】</p> <p>・地域住民の健康づくりなどに役立たせるため、病院のスタッフ（看護師・薬剤師・栄養士）が各地に出向いて講座を開いた。</p> <p>○【心ある癒しの空間づくり】</p> <p>・患者様をはじめ来院される方々が、四季折々の風物詩や草花に触れ、より心豊かに和やかに過ごしていただけるよう、癒しの空間づくりを行った。</p> <table border="1"><tr><td>7 月</td><td>七夕飾り（七夕コンサートも実施）</td></tr><tr><td>9 月</td><td>お月見飾り</td></tr></table>	開催日	5 月 1 2 日（看護の日：ナイチンゲールの誕生日）	テーマ	「心ある地域医療を目指して」	主な内容	看護の日記念グッズの配付（絆創膏、タオルハンカチ等）、血圧・骨密度・腹回測定、血圧手帳を配付し、自分自身で記録し健康チェックに役立たせるよう指導・啓発を行った。	7 月	七夕飾り（七夕コンサートも実施）	9 月	お月見飾り	
開催日	5 月 1 2 日（看護の日：ナイチンゲールの誕生日）															
テーマ	「心ある地域医療を目指して」															
主な内容	看護の日記念グッズの配付（絆創膏、タオルハンカチ等）、血圧・骨密度・腹回測定、血圧手帳を配付し、自分自身で記録し健康チェックに役立たせるよう指導・啓発を行った。															
7 月	七夕飾り（七夕コンサートも実施）															
9 月	お月見飾り															

				<table><tr><td>1 2 月</td><td>クリスマス飾り（クリスマスコンサートも実施）</td></tr><tr><td>1 月</td><td>正月飾り</td></tr><tr><td>3 月</td><td>雛飾り（ひな祭りコンサートも実施）</td></tr></table>	1 2 月	クリスマス飾り（クリスマスコンサートも実施）	1 月	正月飾り	3 月	雛飾り（ひな祭りコンサートも実施）		
1 2 月	クリスマス飾り（クリスマスコンサートも実施）											
1 月	正月飾り											
3 月	雛飾り（ひな祭りコンサートも実施）											
南会津病院	<p>○【南会津保健・医療・介護懇談会】（平成２２年１１月２０日） 地元医師会の医師をはじめとして、保健・介護を含め幅広く意見交換を行うことで、「顔の見える」関係づくりを図った。</p> <p>○【学術セミナー】 会議室改修に時間を要したこともあり３回の実施にとどまった。</p> <p>○【院内コンサート】（平成２２年１１月１３日） 松山隆宏アコースティックライブを行い、入院患者を含め８０名の参加を得ることができ、療養環境の向上に寄与することができた。</p>											
大野病院	<p>○【院内イベント】 記念日や季節の行事に合わせてイベントを院内で行った。</p> <table><tr><td>5 月</td><td>看護の日イベント（看護フェア）</td></tr><tr><td>7 月</td><td>七夕飾り</td></tr><tr><td>9 月</td><td>敬老の日イベント</td></tr><tr><td>1 2 月</td><td>クリスマス飾りと職員によるハンドベルの演奏</td></tr></table> <p>○【エネルギーチャレンジフェスタ】（平成２２年１０月２４日） 大熊町原子力センターで開催されたイベントに参加し、病院スタッフによる血圧測定や健康相談などを行い、来場された方に健康づくりについてのアドバイスをを行った。</p> <p>○【瑣談会の開催】（平成２２年１１月１１日） 双葉郡医師会の先生方への大野病院の診療科の取り組み、医師の研究等の内容の周知と理解及び医師会との連携を図るため実施した。</p> <div><div>1</div><div>初診時、足部軟部腫瘍を疑った関節リウマチによるモートン病の治療経験 整形外科 橋本慶太、皆川英成</div></div> <div><div>2</div><div>胃過形成性ポリープに対する <i>helicobacter pylori</i> 除菌療法の取り組み 内科 塩谷康夫、上北洋徳、鈴木栄</div></div> <div><div>3</div><div>不整脈の非薬物治療（カテーテルアブレーション）の現状について 内科 上北洋徳、塩谷康夫、鈴木栄</div></div> <div><div>4</div><div>金属アレルギーが疑われペースメーカー再植込みを要した一例 内科 鈴木栄、上北洋徳、塩谷康夫</div></div> <div><div>5</div><div>Collagenous colitis の一例 玉井医院 玉井紀男 氏</div></div> <div><div>6</div><div>当院における最近の大腸癌治療 外科 小船戸康英、松本佳子、佐藤直哉、佐久間浩</div></div> <div><div>7</div><div>当院検出の MRSA の薬剤感受性について 感染対策委員会 小児科 木本圭一</div></div>				5 月	看護の日イベント（看護フェア）	7 月	七夕飾り	9 月	敬老の日イベント	1 2 月	クリスマス飾りと職員によるハンドベルの演奏
5 月	看護の日イベント（看護フェア）											
7 月	七夕飾り											
9 月	敬老の日イベント											
1 2 月	クリスマス飾りと職員によるハンドベルの演奏											

平成22年度県立病院事業会計決算の概要

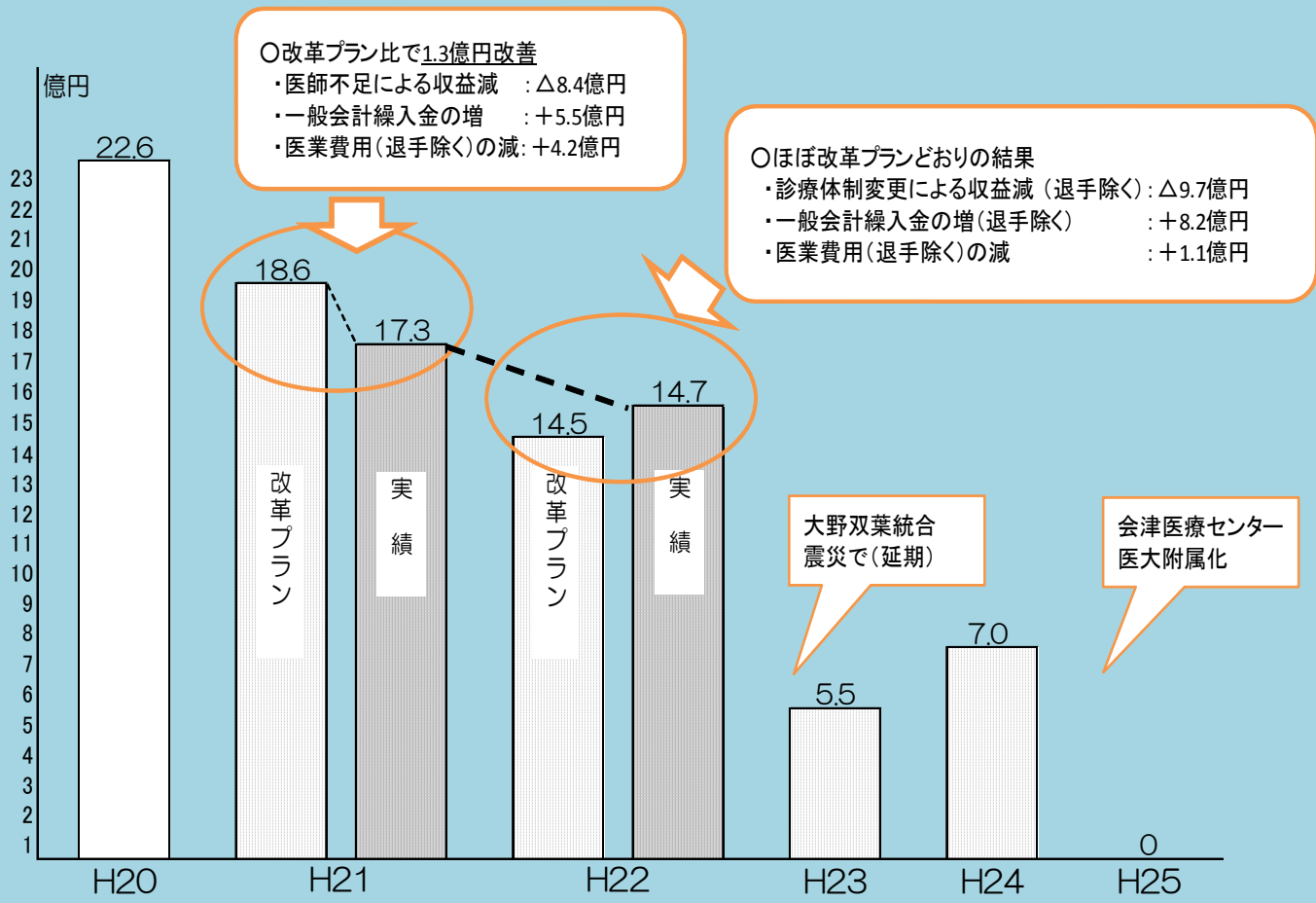
○改革プランにおける経営健全化に向けた収支目標

- 目標1：単年度赤字の漸次解消を図り、平成25年度までに収支均衡を目指す。
目標2：平成23年度までに不良債務の解消を目指す。

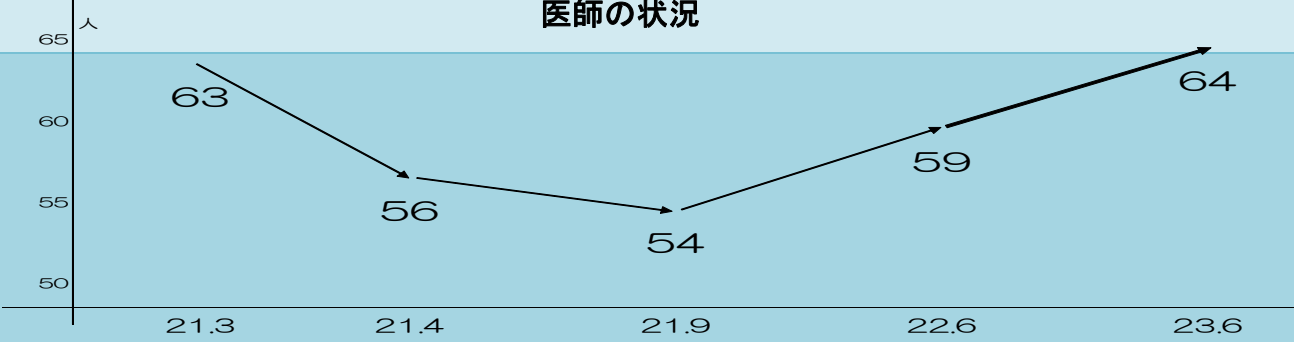
決算の概要

- 平成22年度の純損益は、14.7億円の損失（前年比2.6億円の損失減）となり、これまでの累積欠損金は、256.4億円となっている。
- 平成22年度においては、一般会計から「経営改革支援経費」として13.8億円を、特例的な繰入として支援をいただいた。
- 平成23年6月1日現在で医師数は64名であり、さらに、会津医療センター準備室を中心に医師確保に努めることにより、平成23年度以降、引き続き改革プランの達成に向けて、「実践・実行」に取り組んでいく。

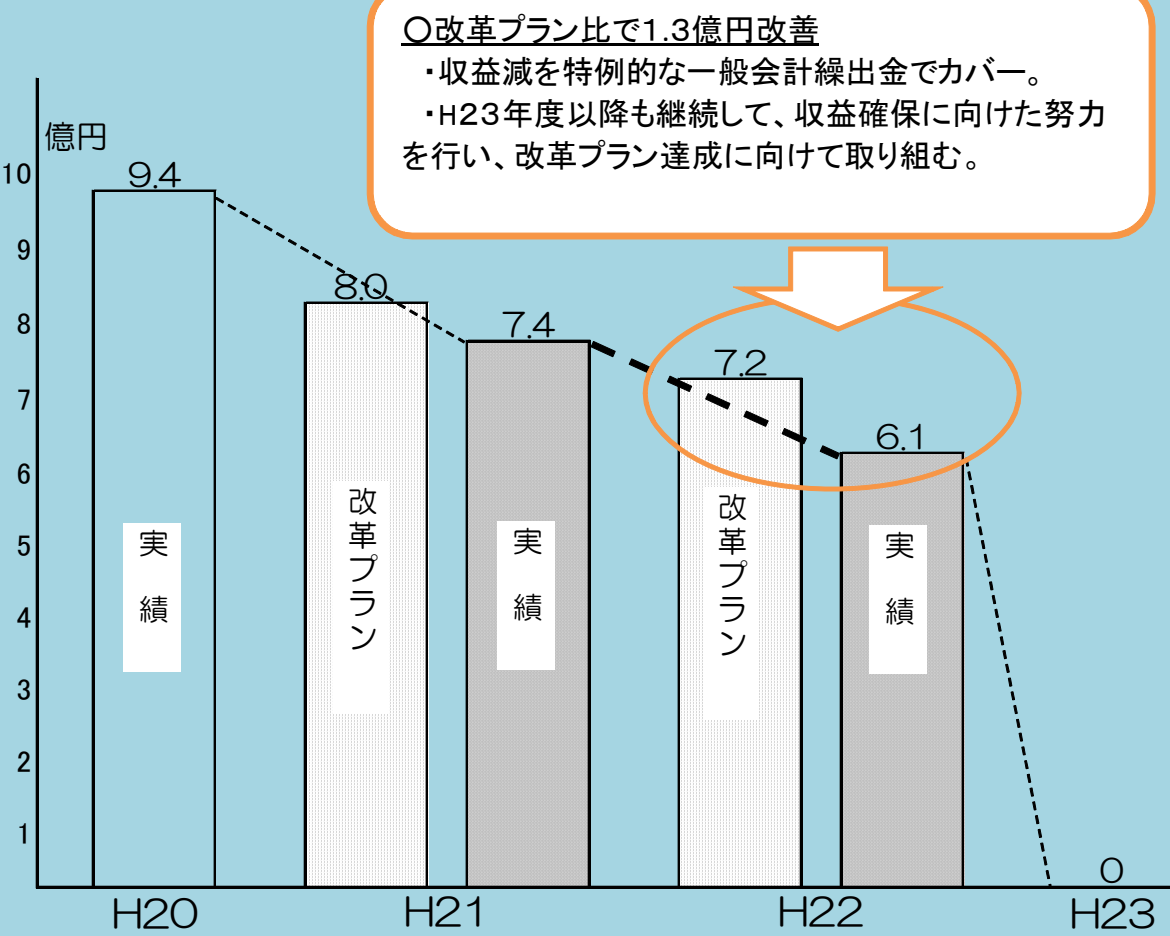
純損失



医師の状況



不良債務



収支計画について

平成２２年度実績							平成２２年度の取組状況及び自己評価				
○県立病院事業の収支計画							目標値達成状況自己評価			取組状況自己評価	
							経常収支比率	【５】	目標値を上回った	【４】	積極的に行われている
							職員給与比率	【２】	目標値を下回った	【３】	取り組んでいる
							病床利用率	【３】	目標値をほぼ達成できた	【３】	積極的に行われている
							○平成２２年度の経営状況				
							◇ 医業収益は 7,556 百万円で、このうち入院収益は 4,371 百万円で、対プラン 838 百万円の減収、外来収益は 2,084 百万円で、15 百万円の減収となった。対前年度実績でみると、入院収益 333 百万円、外来収益 21 百万円の増加となっている。				
							◇ 対前年度比の入院収益増加は、会津総合病院に会津医療センター準備室医師配置、大野病院に内科医師等の増員、南会津病院の時間外患の積極的受入（整形外科）などに伴い、患者数及び診療単価の増によるものと考えられる。				
							◇ 医業費用については、12,629 百万円と対改革プランと比較すると 26 百万円の増、対前年度実績比 327 百万円の減となった。これは、給与費が、職員数や退職手当の減少などにより、前年度と比較して 599 百万円減少となったことによる。				
							◇ 純損益は、1,468 百万円の損失となり、改革プランと比較すると 14 百万円増加した結果となり、これまでの累積欠損金は 25,644 百万円となっている。				
							○平成２３年度に向けた取組				
							◇ 地域住民に対して良質な医療の提供を行うとともに、健全な病院経営を実現していく。				
							◇ 改革プランに基づき、一人ひとりの思いや考えを具体的な「実践・実行」にうつし、新たな視点の展開を図り、医師確保や収益確保に向けた取組み、地域との活動を実施しながら、経営基盤の確立を図っていく。				
							◇ 会津医療センター（仮称）の整備については、平成２５年の開院を目指して、建設工事を着実に進めるとともに、新病院の運営システム、医療情報機器整備、医療情報システムの詳細検討を行っていく。				
							◇ 大野病院と JA 福島厚生連双葉厚生病院との統合は、震災の影響で延期されたことから、今後の復興計画及び原子力災害の収束をにらみながら検討していく。				
							◇ 平成２１年に策定された「福島県地域医療再生計画」を活用しながら、県立病院の機能向上を図っていくため、へき地医療拠点病院である南会津病院への医療情報システムの導入について検討を行っていく。				

矢吹病院収支計画について

平成２２年度実績							平成２２年度自己評価				
○矢吹病院 <div>(単位 百万円)</div>							目標値達成状況自己評価				
							経常収支比率		【５】	目標値をほぼ達成できた	
							職員給与比率		【３】	目標値をほぼ達成できた	
							病床利用率		【５】	目標値を上回った	
○平成２２年度の状況							◇ 地域生活移行の促進が求められるなかにあつて、当院を取り巻く環境は、民間医療機関の充実や当院の立地条件、入院患者の高齢化、県南地域の人口減、さらには、医師不足などもあり、収益の確保は厳しい状況である。 ◇ 平成 22 年度決算における総収益は 1,709 百万円で、対プランでは 116 百万円の増収となったことに対して、総費用は 1,709 百万円で、対プラン 116 百万円の増額となった。 ◇ 医業収益は 951 百万円で、このうち入院収益は 703 百万円で、対プラン 17 百万円の増収、外来収益は 156 百万円で、7 百万円の減収となった。 ◇ 外来収益については、医薬品の長期投与の増加等により診療単価は増加したものの、内科休診や東日本大震災及びガソリン不足等の影響により、訪問看護等の患者数が減少したことが減収の原因と考えられる。 ◇ 医業費用については、1,686 百万円と対改革プラン 116 百万円の増となったが、対前年度実績で 118 百万円減となった。その要因として、退職手当の減少に伴う給与費の減少によるものである。 ◇ 医業費用の主要な材料費及び経費の対前年度実績は、患者数の減などにより、材料費が 7 百万円の減、経費は 2 百万円の減となっている。 ◇ 純損益は、△635 百万円と対改革プランと比較すると 15 百万円増加した結果となった。				
○平成２３年度に向けた取組											
◇ 「福島県県立病院改革プラン」に基づき、政策的な専門医療の実施や心身喪失者等医療観察法に基づく指定入院医療機関の検討など、改革を推進して収益の確保と費用削減などによる経営改善に努めていく。											
◇ 県立医科大学の協力を得て、児童思春期外来を開始する。											
◇ 患者様の地域生活移行支援の観点から、デイケア、訪問看護の一層の充実を図っていく。											
◇ 精神科救急医療システム事業の当番回数増を検討し、地域医療に貢献するとともに新規入院患者の増に努めていく。また、入院患者の受入体制を強化していくために、非指定医の宿日直の際における指定医のバックアップ体制の構築を検討していく。											

年度	２１実績	２２計画	２２実績	２３計画	２４計画	２５計画
総収益	(1,344) 1,828	(973) 1,593	(1,074) 1,709	(979) 1,616	(1,240) 1,771	(1,321) 1,796
医業収益	1,061	856	951	861	1,011	1,204
うち入院収益	715	686	703	690	839	1,031
うち外来収益	163	163	156	164	165	166
うち一般会計繰入	174	0	85	0	0	0
医業外収益	759	737	756	755	760	592
うち一般会計繰入	756	735	754	752	646	590
総費用	1,828	1,593	1,709	1,616	1,771	1,796
医業費用	1,804	1,570	1,686	1,593	1,760	1,786
うち給与費	1,378	1,174	1,250	1,197	1,331	1,331
うち材料費	170	164	163	165	194	231
うち経費	140	117	138	116	116	116
うち減価償却費	95	102	117	106	110	99
医業外費用	23	23	22	23	11	10
純損益	(▲484) 0	(▲620) 0	(▲635) 0	(▲637) 0	(▲531) 0	(▲475) 0
経常収支比率	99.6%	100.0%	99.9%	100.0%	100.0%	100.0%
給与費対医業収益比率	129.9%	137.1%	131.4%	139.0%	131.7%	110.5%
給与費対経常収益比率	75.7%	73.7%	73.3%	74.1%	75.2%	74.1%
病床利用率	70.6%	68.4%	69.2%	68.1%	85.7%	90.5%
入院１日当たり患者数	145.4人	141.0人	142.6人	140.0人	146.5人	154.8人
外来１日当たり患者数	61.2人	65.9人	56.8人	66.3人	66.3人	66.3人

(注) () 書きの額は、政策医療に係る経費等を繰り入れる前の額

(注) () 書きの額は、政策医療に係る経費等を繰り入れる前の額

喜多方病院収支計画について

平成２２年度実績							平成２２年度自己評価		
○喜多方病院							目標値達成状況自己評価		
							経常収支比率	【４】	目標値を達成できた
							職員給与比率	【３】	目標値をほぼ達成できた
							病床利用率	【３】	目標値をほぼ達成できた
							○平成２２年度の状況		
							◇ 平成２２年度決算における総収益は 837 百万円で、対ﾌﾟﾗﾝでは 66 百万円の増収となったこと に対して、総費用は 1,145 百万円で、対ﾌﾟﾗﾝ 108 百万円の増額となった。		
							◇ 医業収益は 780 百万円で、このうち入院収益は 398 百万円で、対ﾌﾟﾗﾝ 21 百万円の減収、外来 収益は 275 百万円で、百万円の減収となった。		
							◇ 県立会津総合病院血液内科との競合など外的要因により、年間延べ入院患者数が 2,020 人、1 日平均で 5.5 人減少したため、診療単価は 986 円増加したものの、前年度並みの収益確保が出来 なかった。		
							◇ 医業費用については、1,137 百万円と対改革ﾌﾟﾗﾝと比較すると 106 百万円の増となった。		
							◇ 退職者及び新陳代謝等により、給与費は対前年度実績で 127 百万円減少した。また、患者数の 減により材料費も 21 百万円減少した。		
							◇ 純損益は、△308 百万円と対改革ﾌﾟﾗﾝと比較すると 42 百万円増加した結果となった。		
							○平成２３年度に向けた取組		
							◇ 新病院の遠方地域への移転の影響により、患者離れが起こっており、今後も更に減少していく ことと思われる。このため、平成２２年度事業を継続して実施するほか、質の高い医療の提供及 び新しい施設基準を取得し、診療単価の上昇に努めていく。		
							◇ 入院基本料 1 0 対 1 施設基準の上級入院基本料 7 対 1 の取得について検討する。		
							◇ 後発医薬品使用体制加算の施設基準の取得について検討する。		
							◇ これまで継続してきた下記の事業を充実させていく。		
							① 地域医療連携の強化に努める。		
							② 患者サービスの向上に努める。		
							③ 医療の安全・安心を確保する。		
							④ 病院利用の強化に努める。		
							⑤ 広報活動に努める。		

会津総合病院収支計画について

平成２２年度実績							平成２２年度自己評価																																																																																																																																																												
○会津総合病院 <div>(単位 百万円)</div> <table><tr><th>年度</th><th>２１実績</th><th>２２計画</th><th>２２実績</th><th>２３計画</th><th>２４計画</th><th>２５計画</th></tr><tr><td>総収益</td><td>3,734</td><td>3,484</td><td>3,268</td><td>3,609</td><td>3,616</td><td>-</td></tr><tr><td> 医業収益</td><td>2,595</td><td>3,007</td><td>2,729</td><td>3,132</td><td>3,139</td><td>-</td></tr><tr><td> うち入院収益</td><td>1,509</td><td>2,285</td><td>1,675</td><td>2,395</td><td>2,399</td><td>-</td></tr><tr><td> うち外来収益</td><td>612</td><td>602</td><td>616</td><td>618</td><td>620</td><td>-</td></tr><tr><td> うち一般会計繰入</td><td>406</td><td>44</td><td>365</td><td>44</td><td>44</td><td>-</td></tr><tr><td> 医業外収益</td><td>1,130</td><td>477</td><td>535</td><td>477</td><td>477</td><td>-</td></tr><tr><td> うち一般会計繰入</td><td>1,112</td><td>466</td><td>520</td><td>466</td><td>466</td><td>-</td></tr><tr><td>総費用</td><td>4,673</td><td>4,533</td><td>4,724</td><td>4,563</td><td>4,517</td><td>-</td></tr><tr><td> 医業費用</td><td>4,632</td><td>4,508</td><td>4,688</td><td>4,538</td><td>4,509</td><td>-</td></tr><tr><td> うち給与費</td><td>3,029</td><td>2,669</td><td>2,825</td><td>2,691</td><td>2,661</td><td>-</td></tr><tr><td> うち材料費</td><td>554</td><td>782</td><td>650</td><td>814</td><td>816</td><td>-</td></tr><tr><td> うち経費</td><td>620</td><td>662</td><td>810</td><td>662</td><td>662</td><td>-</td></tr><tr><td> うち減価償却費</td><td>369</td><td>356</td><td>343</td><td>330</td><td>330</td><td>-</td></tr><tr><td> 医業外費用</td><td>32</td><td>25</td><td>30</td><td>25</td><td>8</td><td>-</td></tr><tr><td>純損益</td><td>▲939</td><td>▲1,049</td><td>▲1,456</td><td>▲954</td><td>▲901</td><td>-</td></tr><tr><td>経常収支比率</td><td>79.9%</td><td>76.9%</td><td>69.2%</td><td>79.1%</td><td>80.1%</td><td>-</td></tr><tr><td>給与費対医業収益比率</td><td>116.7%</td><td>88.8%</td><td>103.5%</td><td>85.9%</td><td>84.8%</td><td>-</td></tr><tr><td>給与費対経常収益比率</td><td>81.3%</td><td>76.6%</td><td>86.6%</td><td>74.6%</td><td>73.6%</td><td>-</td></tr><tr><td>病床利用率</td><td>50.1</td><td>56.5%</td><td>54.7%</td><td>59.5%</td><td>59.5%</td><td>-</td></tr><tr><td>入院１日当たり患者数</td><td>132.4</td><td>150.5</td><td>125.2 人</td><td>156.5</td><td>156.5</td><td>-</td></tr><tr><td>外来１日当たり患者数</td><td>369.9</td><td>387.9</td><td>344.8 人</td><td>396.5</td><td>396.5</td><td>-</td></tr></table>							年度	２１実績	２２計画	２２実績	２３計画	２４計画	２５計画	総収益	3,734	3,484	3,268	3,609	3,616	-	医業収益	2,595	3,007	2,729	3,132	3,139	-	うち入院収益	1,509	2,285	1,675	2,395	2,399	-	うち外来収益	612	602	616	618	620	-	うち一般会計繰入	406	44	365	44	44	-	医業外収益	1,130	477	535	477	477	-	うち一般会計繰入	1,112	466	520	466	466	-	総費用	4,673	4,533	4,724	4,563	4,517	-	医業費用	4,632	4,508	4,688	4,538	4,509	-	うち給与費	3,029	2,669	2,825	2,691	2,661	-	うち材料費	554	782	650	814	816	-	うち経費	620	662	810	662	662	-	うち減価償却費	369	356	343	330	330	-	医業外費用	32	25	30	25	8	-	純損益	▲939	▲1,049	▲1,456	▲954	▲901	-	経常収支比率	79.9%	76.9%	69.2%	79.1%	80.1%	-	給与費対医業収益比率	116.7%	88.8%	103.5%	85.9%	84.8%	-	給与費対経常収益比率	81.3%	76.6%	86.6%	74.6%	73.6%	-	病床利用率	50.1	56.5%	54.7%	59.5%	59.5%	-	入院１日当たり患者数	132.4	150.5	125.2 人	156.5	156.5	-	外来１日当たり患者数	369.9	387.9	344.8 人	396.5	396.5	-	目標値達成状況自己評価		
							年度	２１実績	２２計画	２２実績	２３計画	２４計画	２５計画																																																																																																																																																						
							総収益	3,734	3,484	3,268	3,609	3,616	-																																																																																																																																																						
							医業収益	2,595	3,007	2,729	3,132	3,139	-																																																																																																																																																						
うち入院収益	1,509	2,285	1,675	2,395	2,399	-																																																																																																																																																													
うち外来収益	612	602	616	618	620	-																																																																																																																																																													
うち一般会計繰入	406	44	365	44	44	-																																																																																																																																																													
医業外収益	1,130	477	535	477	477	-																																																																																																																																																													
うち一般会計繰入	1,112	466	520	466	466	-																																																																																																																																																													
総費用	4,673	4,533	4,724	4,563	4,517	-																																																																																																																																																													
医業費用	4,632	4,508	4,688	4,538	4,509	-																																																																																																																																																													
うち給与費	3,029	2,669	2,825	2,691	2,661	-																																																																																																																																																													
うち材料費	554	782	650	814	816	-																																																																																																																																																													
うち経費	620	662	810	662	662	-																																																																																																																																																													
うち減価償却費	369	356	343	330	330	-																																																																																																																																																													
医業外費用	32	25	30	25	8	-																																																																																																																																																													
純損益	▲939	▲1,049	▲1,456	▲954	▲901	-																																																																																																																																																													
経常収支比率	79.9%	76.9%	69.2%	79.1%	80.1%	-																																																																																																																																																													
給与費対医業収益比率	116.7%	88.8%	103.5%	85.9%	84.8%	-																																																																																																																																																													
給与費対経常収益比率	81.3%	76.6%	86.6%	74.6%	73.6%	-																																																																																																																																																													
病床利用率	50.1	56.5%	54.7%	59.5%	59.5%	-																																																																																																																																																													
入院１日当たり患者数	132.4	150.5	125.2 人	156.5	156.5	-																																																																																																																																																													
外来１日当たり患者数	369.9	387.9	344.8 人	396.5	396.5	-																																																																																																																																																													
経常収支比率		【３】	目標値をほぼ達成できた																																																																																																																																																																
職員給与比率		【２】	目標値を下回った																																																																																																																																																																
病床利用率		【４】	目標値を達成できた																																																																																																																																																																
○平成２２年度の状況																																																																																																																																																																			
◇ 平成 22 年度決算における総収益は百 3,268 万円で、対プランでは 216 百万円の減収となったことに対して、総費用は 4,724 百万円で、対プラン 191 百万円の増額となった。																																																																																																																																																																			
◇ 医業収益は 2,729 百万円で、このうち入院収益は 1,675 百万円で、対プラン 610 百万円の減収、外来収益は 616 百万円で、14 百万円の増収となった。																																																																																																																																																																			
◇ 入院患者数は、45,684 人と対前年度比で 2,627 人の減少（▲5.4%）となったが、DPC 導入による増収効果（出来高算定ベースとの比較増加）及び手術料に係る稼働額が伸びたことなどにより、入院収益全体としては、対前年度実績比で 166 百万円増収となり、入院の診療単価も 36,661 円と対前年度比で 5,406 円の増となった。																																																																																																																																																																			
◇ 外来患者数については、減少となったが、血液内科新設に伴う検査料の稼働額が増えたことなどにより、外来収益全体としては増収となった。																																																																																																																																																																			
◇ 平成 23 年 3 月 11 日に発生した震災により、一部の病棟を閉鎖した影響で、3 月分の入院収益は、当該年度 11 ヶ月分の月平均稼働額と比較して 54 百万円減収となった。																																																																																																																																																																			
◇ 医業費用については、対プランでは 180 百万円増加しているが、対前年度実績では、給与費が職員数の減等により 204 百万円の減少となった。																																																																																																																																																																			
◇ 純損益は、△1,456 百万円と対改革プランと比較すると 407 百万円増加した結果となった。																																																																																																																																																																			
○平成２３年度に向けた取組																																																																																																																																																																			
◇会津医療センター準備室付け医師が配置され、診療体制の充実が図られていることから、地域医療連携をより一層強化していく。																																																																																																																																																																			
◇会津医療センターの開設に向けて、運営システム、医療情報システム及び医療機器整備等の詳細検討を進めていくこととする。																																																																																																																																																																			
◇D P C 包括請求に伴い、継続して適正なコーディングの実施と日当点の管理による適正収入の確保を図っていく。																																																																																																																																																																			

宮下病院収支計画について

平成 2 2 年度実績							平成 2 2 年度自己評価		
○宮下病院							目標値達成状況自己評価		
							経常収支比率	【 5 】	目標値を達成できた
							職員給与比率	【 2 】	目標値を下回った
							病床利用率	【 3 】	目標値をほぼ達成できた
							○平成 2 2 年度の状況		
							◇ 平成 22 年度決算における総収益は 677 百万円で、対プランでは 74 百万円の増収となったこと に対して、総費用は 678 百万円で、対プラン 75 百万円の増額となった。		
							◇ 医業収益は、388 百万円で、このうち入院収益は 175 百万円で、対プラン 44 百万円の減収、外 来収益は 126 百万円で、22 百万円の減収となった。		
							◇ 医業費用は、674 百万円で、プランに対して 75 百万円の増加となっているが、材料費について は、患者数の減少の影響もあり 21 百万円の減少となった。		
							◇ 委託費については、業務委託内容の見直しを行い、できるだけ削減に努めた。		
							◇ 損益は、△245 百万円と対改革プランと比較すると 63 百万円増加した結果となった。		
							○平成 2 3 年度に向けた取組		
							◇ へき地診療所への診療応援を継続するとともに、地域の医療機関や介護老人福祉施設との連携 を強化して、患者情報の共有化を図りながら、患者数の維持・確保を図っていく。		
							◇ 会津若松市等の病院との連携を強化し、回復期やリハビリ期など、逆紹介患者の獲得を目指す。		
							◇ 新任医師の紹介や院内イベントの案内等の病院情報を、町村広報誌を通じた積極的な提供に努 めるとともに、職員が地域に出向いて行う医療講演会や出前講座などの活動を積極的に展開し、 地域から信頼され、支えられる病院経営を目指していく。		
							◇ 後発医薬品への切り替えを一層進めるとともに、新型 SPD システムを活用し、他病院で使用し ている安価な診療材料に切り替えを行っていく。		

(注) () 書きの額は、政策医療に係る経費等を繰り入れる前の額

南会津病院収支計画について

平成２２年度実績							平成２２年度自己評価																																																																																																																																																												
○南会津病院 <div>(単位 百万円)</div> <table><tr><th>年度</th><th>２１実績</th><th>２２計画</th><th>２２実績</th><th>２３計画</th><th>２４計画</th><th>２５計画</th></tr><tr><td>総収益</td><td>(1,843) 2,288</td><td>(1,686) 2,111</td><td>(1,737) 2,195</td><td>(1,728) 1,976</td><td>(1,764) 1,967</td><td>(1,803) 1,971</td></tr><tr><td>医業収益</td><td>1,383</td><td>1,386</td><td>1,443</td><td>1,427</td><td>1,464</td><td>1,502</td></tr><tr><td>うち入院収益</td><td>627</td><td>801</td><td>752</td><td>840</td><td>874</td><td>911</td></tr><tr><td>うち外来収益</td><td>513</td><td>508</td><td>556</td><td>510</td><td>512</td><td>514</td></tr><tr><td>うち一般会計繰入</td><td>212</td><td>47</td><td>101</td><td>47</td><td>47</td><td>47</td></tr><tr><td>医業外収益</td><td>903</td><td>725</td><td>748</td><td>549</td><td>503</td><td>469</td></tr><tr><td>うち一般会計繰入</td><td>898</td><td>723</td><td>742</td><td>546</td><td>501</td><td>466</td></tr><tr><td>総費用</td><td>2,289</td><td>2,111</td><td>2,196</td><td>1,976</td><td>1,967</td><td>1,971</td></tr><tr><td>医業費用</td><td>2,103</td><td>1,929</td><td>2,018</td><td>1,794</td><td>1,791</td><td>1,795</td></tr><tr><td>うち給与費</td><td>1,206</td><td>1,060</td><td>1,101</td><td>1,060</td><td>1,048</td><td>1,048</td></tr><tr><td>うち材料費</td><td>247</td><td>262</td><td>275</td><td>270</td><td>277</td><td>284</td></tr><tr><td>うち経費</td><td>317</td><td>288</td><td>311</td><td>288</td><td>288</td><td>288</td></tr><tr><td>うち減価償却費</td><td>299</td><td>302</td><td>297</td><td>159</td><td>161</td><td>158</td></tr><tr><td>医業外費用</td><td>183</td><td>182</td><td>174</td><td>182</td><td>176</td><td>176</td></tr><tr><td>純損益</td><td>(▲445) ▲1</td><td>(▲425) 0</td><td>(▲459) ▲1</td><td>(▲248) 0</td><td>(▲203) 0</td><td>(▲168) 0</td></tr><tr><td>経常収支比率</td><td>100.0%</td><td>100.0%</td><td>100.0%</td><td>100.0%</td><td>100.0%</td><td>100.0%</td></tr><tr><td>給与費対医業収益比率</td><td>87.2%</td><td>76.5%</td><td>76.3%</td><td>74.3%</td><td>71.6%</td><td>69.8%</td></tr><tr><td>給与費対経常収益比率</td><td>52.7%</td><td>50.2%</td><td>50.3%</td><td>53.6%</td><td>53.3%</td><td>53.2%</td></tr><tr><td>病床利用率</td><td>50.1%</td><td>65.4%</td><td>58.3%</td><td>68.4%</td><td>71.4%</td><td>74.4%</td></tr><tr><td>入院１日当たり患者数</td><td>50.1人</td><td>65.4人</td><td>58.3人</td><td>68.4人</td><td>71.4人</td><td>74.4人</td></tr><tr><td>外来１日当たり患者数</td><td>219.6人</td><td>254.1人</td><td>231.7人</td><td>254.1人</td><td>254.1人</td><td>254.1人</td></tr></table>							年度	２１実績	２２計画	２２実績	２３計画	２４計画	２５計画	総収益	(1,843) 2,288	(1,686) 2,111	(1,737) 2,195	(1,728) 1,976	(1,764) 1,967	(1,803) 1,971	医業収益	1,383	1,386	1,443	1,427	1,464	1,502	うち入院収益	627	801	752	840	874	911	うち外来収益	513	508	556	510	512	514	うち一般会計繰入	212	47	101	47	47	47	医業外収益	903	725	748	549	503	469	うち一般会計繰入	898	723	742	546	501	466	総費用	2,289	2,111	2,196	1,976	1,967	1,971	医業費用	2,103	1,929	2,018	1,794	1,791	1,795	うち給与費	1,206	1,060	1,101	1,060	1,048	1,048	うち材料費	247	262	275	270	277	284	うち経費	317	288	311	288	288	288	うち減価償却費	299	302	297	159	161	158	医業外費用	183	182	174	182	176	176	純損益	(▲445) ▲1	(▲425) 0	(▲459) ▲1	(▲248) 0	(▲203) 0	(▲168) 0	経常収支比率	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	給与費対医業収益比率	87.2%	76.5%	76.3%	74.3%	71.6%	69.8%	給与費対経常収益比率	52.7%	50.2%	50.3%	53.6%	53.3%	53.2%	病床利用率	50.1%	65.4%	58.3%	68.4%	71.4%	74.4%	入院１日当たり患者数	50.1人	65.4人	58.3人	68.4人	71.4人	74.4人	外来１日当たり患者数	219.6人	254.1人	231.7人	254.1人	254.1人	254.1人	目標値達成状況自己評価		
							年度	２１実績	２２計画	２２実績	２３計画	２４計画	２５計画																																																																																																																																																						
							総収益	(1,843) 2,288	(1,686) 2,111	(1,737) 2,195	(1,728) 1,976	(1,764) 1,967	(1,803) 1,971																																																																																																																																																						
							医業収益	1,383	1,386	1,443	1,427	1,464	1,502																																																																																																																																																						
うち入院収益	627	801	752	840	874	911																																																																																																																																																													
うち外来収益	513	508	556	510	512	514																																																																																																																																																													
うち一般会計繰入	212	47	101	47	47	47																																																																																																																																																													
医業外収益	903	725	748	549	503	469																																																																																																																																																													
うち一般会計繰入	898	723	742	546	501	466																																																																																																																																																													
総費用	2,289	2,111	2,196	1,976	1,967	1,971																																																																																																																																																													
医業費用	2,103	1,929	2,018	1,794	1,791	1,795																																																																																																																																																													
うち給与費	1,206	1,060	1,101	1,060	1,048	1,048																																																																																																																																																													
うち材料費	247	262	275	270	277	284																																																																																																																																																													
うち経費	317	288	311	288	288	288																																																																																																																																																													
うち減価償却費	299	302	297	159	161	158																																																																																																																																																													
医業外費用	183	182	174	182	176	176																																																																																																																																																													
純損益	(▲445) ▲1	(▲425) 0	(▲459) ▲1	(▲248) 0	(▲203) 0	(▲168) 0																																																																																																																																																													
経常収支比率	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%																																																																																																																																																													
給与費対医業収益比率	87.2%	76.5%	76.3%	74.3%	71.6%	69.8%																																																																																																																																																													
給与費対経常収益比率	52.7%	50.2%	50.3%	53.6%	53.3%	53.2%																																																																																																																																																													
病床利用率	50.1%	65.4%	58.3%	68.4%	71.4%	74.4%																																																																																																																																																													
入院１日当たり患者数	50.1人	65.4人	58.3人	68.4人	71.4人	74.4人																																																																																																																																																													
外来１日当たり患者数	219.6人	254.1人	231.7人	254.1人	254.1人	254.1人																																																																																																																																																													
経常収支比率		【５】	目標値を上回った																																																																																																																																																																
職員給与比率		【４】	目標値を達成できた																																																																																																																																																																
病床利用率		【３】	目標値をほぼ達成できた																																																																																																																																																																
○平成２２年度の状況																																																																																																																																																																			
◇ 平成 22 年度決算における総収益は 2,195 百万円で、対プランでは 84 百万円の増収となったことに対して、総費用は 2,196 百万円で、対プラン 85 百万円の増額となった。																																																																																																																																																																			
◇ 医業収益は 1,443 百万円で、このうち入院収益は 752 百万円で、対プラン 49 百万円の減収、外来収益は 556 百万円で、48 百万円の増収となった。																																																																																																																																																																			
◇ 医業費用については、2,018 百万円で、プラン比 89 百万円の増額となり、給与費がプラン比 41 百万円増、材料費がプラン比 13 百万円増、経費がプラン比 23 百万円増となった。																																																																																																																																																																			
◇ 損益は、△459 百万円と対改革プランと比較すると 34 百万円増加した結果となった。																																																																																																																																																																			
○平成２３年度に向けた取組																																																																																																																																																																			
◇ 南会津医療圏内の唯一の病院として、へき地医療の中心的な役割を担うため、地域ニーズにあった医療体制や医療機能の充実を図っていく。																																																																																																																																																																			
◇ 患者数が増加傾向にあることもあり、引き続き看護師の確保に努め、７対１入院基本料の維持を図っていく。																																																																																																																																																																			
◇ 当院での手術が可能な患者について、引き続き積極的に入院治療を行うとともに、終末期患者の受け入れも行っていく。																																																																																																																																																																			
◇ 新設した泌尿器科については、新患の増加を目指すとともに、院内紹介により病院全体としての収益増加も図っていく。																																																																																																																																																																			
◇ 院外広報誌「かけはし」の内容充実等により、病院からの積極的な情報発信に努めていく。																																																																																																																																																																			

(注) () 書きの額は、政策医療に係る経費等を繰り入れる前の額

大野病院収支計画について

平成２２年度実績							平成２２年度自己評価		
○大野病院							目標値達成状況自己評価		
							経常収支比率	【３】	目標値をほぼ達成できた
							職員給与比率	【２】	目標値を下回った
							病床利用率	【３】	目標値をほぼ達成できた
							○平成２２年度の状況		
							◇ 平成 22 年度決算における総収益は 1,435 百万円で、対プランでは 133 百万円の減収となったことに対して、総費用は 2,160 百万円で、対プラン 184 百万円の増額となった。		
							◇ 医業収益は 1,265 百万円で、このうち入院収益は 669 百万円で、対プラン 258 百万円の減収、外来収益は 355 百万円で、48 百万円の減収となった。		
							◇ 平成 23 年 1 月に内科、外科各 1 名、3 月にも同じく各 1 名常勤医師が配置され、地域の医療機関や双葉郡医師会と夜間を含め連携し、特に、内科では消化器内科の常勤医師が配置されたことから、胃の内視鏡検査、腹部エコー、ＣＴ撮影、ＵＣＧ、トレットミル等の内科的検査を積極的に行い、入院患者増加へつながった。		
							◇ 入院患者数は、18,094 人と前年度に比べ 3,182 人（121.3％）の増、入院収益は、前年度実績で 101 百万円の増収となった。		
							◇ 外来患者数は 58,309 人と前年度と比べて 1,049 人（98.2％）の減、外来収益は、前年度実績で 4 百万円の増収となった。これは、JA 双葉厚生病院との統合を控え、常勤医師が前倒しで配属されたことが大きく影響した。		
							◇ 医業費用については、2,142 百万円で、対プラン 179 百万円の増額となり、給与費が対プラン 176 百万円増、材料費が対プラン 21 百万円増、経費が対プラン 32 百万円増となった。		
							◇ 損益は、△725 百万円と対改革プランと比較すると 317 百万円増加した結果となった。		
							○平成２３年度に向けた取組		
							◇平成２３年３月１１日に発生した、東北地方太平洋沖地震により、福島第一原子力発電所の影響により、平成２３年４月１日に予定していた JA 福島厚生連双葉厚生病院との統合が延期になったことから、今後の原発事故の収束と復興計画と合わせながら検討していく。		

(参考) 福島県立病院__病院別経営指標一覧

* 同規模病院は、22年度の地方公営企業年鑑が発行されていないため、「自治体病院経営指標自治体病院比較経営診断表」(H22.3総務省自治財政局)用いているため、対象病院がないものがある。

* 大野病院の指標については、震災の影響によりデータ不足のため一部算出不可なものがある。

病院名			矢吹病院			喜多方病院			会津総合病院			宮下病院 *			南会津病院 *			大野病院 *		
(類型区分)			(精神)			(一般Ⅲ)			(一般Ⅰ)			(一般Ⅰ)			(一般Ⅰ)			(一般Ⅱ)		
No.	指 標		21決算	22決算	同規模	21決算	22決算	同規模	21決算	22決算	同規模	21決算	22決算	同規模	21決算	22決算	同規模	21決算	22決算	同規模
①	総収益比率 (%) (=総収益／総費用×100)	⬆	100.0	100.0	104.5	86.6	73.1	104.8	80.0	69.2	103.6	100.0	99.8		100.0	99.9		74.9	66.4	100.0
②	医業収益比率 (%) (=医業収益／医業費用×100)	⬆	58.8	56.4	105.2	74.8	68.6	105.0	56.1	58.2	103.4	56.4	57.5		65.8	71.5		55.0	59.1	102.8
③	他会計繰入金対医業収益比率 (%) (=他会計繰入金／医業収益×100)	⬇	71.2	79.2	4.6	16.4	6.9	1.9	42.8	19.1	3.1	79.1	74.5		64.8	51.4		37.9	12.3	3.3
④	病床利用率 (%) (=年延入院患者数／年延許可病床数×100)	⬆	70.6	69.2	92.6	85.1	74.0	68.3	50.1	54.7	86.9	55.9	55.5		50.1	58.3		27.2	35.9	55.8
⑤	1日平均患者数 (入院) (=年延入院患者数／入院診療日数)	⬆	145.4	142.6	279	42.5	37.0	50	132.4	125.2	304	17.9	17.7		50.1	58.3		40.9	49.6	100
	1日平均患者数 (外来) (=年延外来患者数／外来診療日数)	⬆	61.2	56.8	79	142.1	135.0	168	369.9	344.8	783	79.7	75.9		219.6	231.7		245.3	240.0	454
⑥	外来入院患者比率 (%) (=年延外来患者数／年延入院患者数×100)	—	27.9	26.5	18.9	221.5	242.9	248.2	185.3	183.4	171.6	295.3	284.7		290.3	264.4		398.1	322.3	300.9
⑦	医師1人1日当たり患者数 (入院) (=年延入院患者数／年延職員(医師)数)	⬆	22.1	22.6	31.0	7.2	6.7	8.6	5.4	4.6	4.8	3.4	3.3		3.9	4.4		4.0		6.6
	医師1人1日当たり患者数 (外来) (=年延外来患者数／年延職員(医師)数)	⬆	9.3	9.0	5.9	24.1	24.1	21.3	15.0	12.7	8.2	15.0	14.3		16.9	17.3		23.8		19.9
	看護職員1人1日当たり患者数 (入院) (=年延入院患者数／年延職員(看護)数)	⬆	1.9	1.8	2.8	1.5	1.2	1.7	1.0	1.0	1.0	1.0	1.1		1.0	1.2		0.8		0.7
	看護職員1人1日当たり患者数 (外来) (=年延外来患者数／年延職員(看護)数)	⬆	3.1	5.2	0.5	9.0	7.0	4.1	5.8	6.1	1.7	14.3	13.7		8.6	6.0		4.9		2.2
⑧	患者1人1日当たり診療収入 (入院外来) (=入院外来収益／年延入院外来患者数)	⬆	12,927	13,046	11,767	14,583	14,519	11,543	15,400	17,694	25,618	12,252	12,071		15,964	16,865		12,376	13,395	20,568
	患者1人1日当たり診療収入 (入院) (=入院収益／年延入院患者数)	⬆	13,469	13,504	12,330	28,389	29,427	25,641	31,255	36,661	47,188	27,353	27,055		34,241	35,337		38,065	36,947	34,965
	患者1人1日当たり診療収入 (外来) (=外来収益／年延外来患者数)	⬆	10,989	11,318	8,785	8,350	8,380	5,862	6,842	7,352	13,046	7,137	6,808		9,669	9,879		5,922	6,086	15,783
⑨	年間手術件数	—	0	3		286	292		1,183	1,146		146	134		1,280	1,433		864	865	
	うち手術室での件数	—	0	0		24	31		418	473		0	0		315	389		407	362	
⑩	患者1人1日当たり薬品費 (=薬品費／年延入院外来患者数)	—	1,715	1,713	1,295	3,428	3,338	870	1,973	2,642	5,294	1,813	1,526		1,890	1,975		1,388	1,614	5,859
	患者1人1日当たり薬品費 (投薬) (=投薬薬品費／年延入院外来患者数)	—	1,665	1,667	1,240	1,584	1,403	210	460	537	2,376	1,076	924		445	408		172		3,297
	患者1人1日当たり薬品費 (注射) (=注射薬品費／年延入院外来患者数)	—	36	39	55	1,017	1,167	660	1,031	1,416	2,918	540	470		875	980		994	1,119	2,561
⑪	入院患者1人1日当たり給食材料費 (=患者用給食材料費／年延入院患者数)	⬇	794.0	731.9	303.0	649.0	796.7	385.0	719.0	825.0	—	630.0	678.0		797.0	776.0		753.0	650.0	661.0

（参考） 福島県立病院__病院別経営指標一覧

* 同規模病院は、22年度の地方公営企業年鑑が発行されていないため、「自治体病院経営指標自治体病院比較経営診断表」（H22.3総務省自治財政局）用いているため、対象病院がないものがある。

* 大野病院の指標については、震災の影響によりデータ不足のため一部算出不可なものがある。

病院名			矢吹病院			喜多方病院			会津総合病院			宮下病院 *			南会津病院 *			大野病院 *		
（類型区分）			（精神）			（一般Ⅲ）			（一般Ⅰ）			（一般Ⅰ）			（一般Ⅰ）			（一般Ⅱ）		
No.	指 標		21決算	22決算	同規模	21決算	22決算	同規模	21決算	22決算	同規模	21決算	22決算	同規模	21決算	22決算	同規模	21決算	22決算	同規模
⑫	薬品使用効率（投薬） （＝投薬薬品収入／投薬用薬品費）	⬆	116.5	113.2	116.2	115.8	115.2	101.7	149.0	—	131.4	121.0	128.3		113.6	109.0		116.6		122.4
	薬品使用効率（注射） （＝注射薬品収入／注射用薬品費）	⬆	143.7	147.8	143.6	129.4	123.1	123.6	81.9	—	104.4	169.9	167.8		132.3	125.4		124.9		92.9
⑬	診療収入に対する割合（投薬注射収入）（％） （＝投薬注射収入／入院外来収益×100）	—	15.4	14.9	12.9	21.6	21.0	8.9	9.9	8.2	24.1	18.1	16.4		10.4	9.9		11.6		31.2
	診療収入に対する割合（検査収入）（％） （＝検査収入／入院外来収益×100）	—	1.8	1.8	1.9	13.4	13.9	9.4	9.1	8.4	9.1	12.8	11.9		11.2	10.0		10.2		10.9
	診療収入に対する割合（放射線収入）（％） （＝放射線収入／入院外来収益×100）	—	0.2	0.2	0.2	3.3	3.4	4.8	5.0	3.7	6.1	5.2	5.2		7.9	8.0		8.6		4.4
⑭	患者100人当たり検査件数 （＝年間検査件数／年延入院外来患者数×100）	⬆	44.6	43.0	20.8	206.1	214.4	241.4	225.3	245.5	447.0	160.8	173.3		238.4	236.3		162.2		543.1
	患者100人当たり放射線件数 （＝年間放射線件数／年延入院外来患者数×100）	⬆	0.9	0.8	1.0	14.8	16.1	14.0	18.1	18.0	32.4	12.9	13.9		28.0	29.9		25.8		15.7
	検査技師1人当たり検査件数 （＝年間検査件数／年度末検査技師数）	⬆	12,104	14,168	16,779	20,576	19,861	61,215	18,261	19,867	64,137	20,762	43,184		34,068	36,665		30,125		114,059
	検査技師1人当たり検査収入 （＝検査収入／年度末検査技師数）	⬆	6,262	7,627	17,666	19,485	18,676	27,644	11,330	11,995	33,630	20,295	35,761		25,638	26,297		23,359		47,269
	放射線技師1人当たり検査件数 （＝年間放射線件数／年度末検査技師数）	⬆	623	551	1,580	2,456	2,482	6,013	2,776	2,594	6,970	3,329	3,473		5,008	4,637		3,199		5,765
	放射線技師1人当たり放射線収入 （＝放射線収入／年度末検査技師数）	⬆	1,851	1,934	6,633	7,931	7,690	23,594	11,684	9,352	33,701	16,552	15,737		22,590	20,821		13,158		33,632
⑮	入院収益に対する室料差額収入の割合 （＝室料差額収入／入院収益×100）	—	—	—	—	0.4	0.7	2.9	0.3	0.3	0.6	0.1	0.3		1.0	0.9		1.7	1.8	3.4
	総収益に対する室料差額収入の割合 （＝室料差額収入／総収益×100）	—	—	—	—	0.2	0.3	1.4	0.1	0.2	0.4	0.0	0.1		0.3	0.3		0.6	0.8	1.4
⑯	病床100床当たり職員数 （＝年度末（各種）職員数／年度末許可病床数×100）	—	63.9	60.5	46.2	141.8	159.8	72.8	109.7	112.0	141.4	122.8	116.9		115.0	127.6		100.5		115.7
⑰	一床当たり償却資産 （＝（償却資産（建物・機械）－減価償却累計額）／年度末許可病床数）	—	—	—	6,674	—	—	7,704	—	—	17,877	—	—		—	—		—	—	25,958
⑱	医業収益に対する医療材料費の割合（％） （＝医療材料費／医業収益×100）	⬇	16.0	17.1	9.2	23.2	25.9	14.6	21.3	23.8	30.4	18.2	13.7		17.9	19.1		19.7	20.8	36.9
	医業収益に対する職員給与費の割合（％） （＝職員給与費／医業収益×100）	⬇	129.9	131.4	64.9	85.9	89.6	52.3	116.7	103.5	47.5	109.9	114.4		87.2	76.3		106.8	94.3	42.9

福島県県立病院施設基準取得一覧

平成23年1月1現在

区分			名称	記号	点数	病院名						算定要件概要
						矢吹病院	喜多方病院	会津総合病院	宮下病院	南会津病院	大野病院	
基本診療料	初再診	1	電子化加算（歯科）	（電子化）	3 ／初診			○				医事電算、領収書・明細書交付、院内掲示 * 会津は歯科のみ
	入院基本料	2	一般病棟入院基本料（7対1）	（一般入院）	1,555 ／日			○	○	○	○	看護職員が入院患者7人に1人以上、看護職員の最小必要数の7割以上が看護師、平均在院日数が19日以内、看護必要度の基準を満たす患者1割以上を入院させる病棟
		3	一般病棟入院基本料（10対1）	（一般入院）	1,300 ／日		○					看護職員が入院患者10人に1人以上、看護職員の最小必要数の7割以上が看護師、平均在院日数が21日以内
		4	結核病棟入院基本料（15対1）	（結核入院）	886 ／日			○				看護職員が入院患者15人に1人以上、看護職員の最小必要数の4割以上が看護師
		5	精神病棟入院基本料（15対1）	（精神入院）	800 ／日	○		○				看護職員が入院患者15人に1人以上、看護職員の最小必要数の4割以上が看護師
	特定入院	6	臨床研修病院入院診療加算（基幹型）	（臨床研修）	40 ／初日			○		○		指導医は臨床7年以上、研修医2.5人に指導医1以上、研修管理委員会設置、全職員対象の保険診療講習会2回／年
		7	臨床研修病院入院診療加算（協力型）	（臨床研修）	20 ／初日					○		指導医は臨床7年以上、研修医2.5人に指導医1以上
		8	救急医療管理加算・乳幼児救急医療管理加算	（救・乳）	800・200 ／日	○	○	○		○		二次救急医療施設の診療機能、専用病室確保
		9	診療録管理体制加算	（診療録）	30 ／初日			○		○	○	専任の診療記録管理者、疾病統計・退院時要約作成等
		10	医師事務作業補助体制加算（50対1）	（事務補助）	255 ／初日			○				75床ごとに1名以上補助者配置、補助者に6か月間(32時間以上)研修、業務範囲等内規整備
		11	急性期看護補助体制加算	（急性看補）	120 ／日			○				年間の緊急入院患者数が200名以上、看護必要度の基準を満たす患者1割5分以上を入院させる病棟、看護補助のあり方院内研修年1回以上受講、看護補助者が入院患者50人に1人以上、勤務医及び看護職員の負担軽減及び処遇改善委員会設置
		12	看護配置加算（結核）（精神）	（看配）	12 ／日	○		○				看護職員の最小必要数の7割以上が看護師
		13	看護補助加算1（結核）（精神）	（看補）	109 ／日	○		○				看護補助者が入院患者30人に1人以上、入院基本料15対1、18対1、20対1を算定
		14	看護補助加算2（精神）	（看補）	84 ／日			○				看護補助者が入院患者50人に1人以上、入院基本料13対1、15対1、18対1、20対1を算定
		15	療養環境加算	（療）	25 ／日			○		○	○	1人当たり面積8㎡以上の病室（特別室を除く）
		16	重症者等療養環境特別加算	（重）	300 ／日		○		○		○	常時監視設備、酸素吸入設備整備、特別室以外
		17	精神病棟入院時医学管理加算	（精入学）	5 ／日			○				精神科救急医療システム
		18	精神科身体合併症管理加算	（精合併加算）	350 ／日	○						専任の内科又は外科医1名以上、入院基本料10対1、15対1、精神科以外の診療科連携
		19	栄養管理実施加算	（栄養管理）	12 ／日	○	○	○	○	○	○	管理栄養士1以上、栄養管理手順作成
		20	栄養サポートチーム加算	（栄養チ）	200 ／週			○				選任常勤医師、常勤看護、常勤薬剤師、常勤管理栄養士で構成しいずれか1名は専従
		21	医療安全対策加算1	（医療安全）	85 ／初日			○			○	専従医療安全管理者（研修受講要）、安全管理部門設置
		22	医療安全対策加算2	（医療安全）	35 ／初日	○				○		選任の医療安全管理者
		23	褥瘡患者管理加算	（褥）	20 ／入院	○	○	○	○	○	○	専任医師及び専任看護師の診療計画作成、評価
		24	慢性期病棟等退院調整加算2	（慢性退院2）	100・100 ／回／退院			○				退院調整部門の設置、退院調整に関する経験を有する専従の看護師1名以上
		25	呼吸ケアチーム加算	（呼吸ケア）	150 ／週			○				専任医師、看護師、臨床工学技士、理学療法士の4名のチーム、48時間以上装着している人工呼吸器離脱
		26	後発医薬品使用体制加算	（後発使）	30 初日				○			採用品目が20％以上
		27	亜急性期入院医療管理料1	（亜）	2,050 ／日			○				在宅復帰支援担当者1名以上、退院患者の6割以上が居宅等へ
特掲診療料	医学管理等	28	高度難聴指導管理料	（高）	480・400 ／回			○				5年以上経験を有する常勤医
		29	糖尿病合併症管理料	（糖管）	170 ／月			○				糖尿病足病変の診療経験5年以上の専任の常勤医師が1名以上、糖尿病足病変の看護経験5年以上の専任の常勤看護師（適切な研修を修了）
		30	小児科外来診療料1	（小外）	560・380 ／日			○		○	○	小児科標榜
		31	ニコチン依存症管理料	（ニコ）	230・184・180 ／回			○				経験医師1名以上、専任看護職1名以上、器機、敷地内禁煙
		32	医療機器安全管理料	（機安）	50 ／月			○				常勤臨床工学技士1名以上、医療機器安全管理者配置
		33	がん性疼痛緩和指導管理料	（がん疼）	100 ／月			○				緩和ケアの経験を有する（緩和ケア研修終了）医師を配置
		34	地域連携診療計画退院時指導料Ⅰ	（地連携）	600 ／退院時					○		計画管理病院で疾患に応じた地域連携計画書が作成、情報交換の会合が年3回程度開催
		35	がん治療連携指導料	（がん指）	300 ／月		○					計画策定病院において疾患や患者の状態等に応じた地域連携診療計画が作成され、連携医療機関と共有されている。
		36	薬剤管理指導料	（薬）	380・325 ／週	○	○	○	○	○	○	常勤薬剤師1以上、医薬品情報管理室設置
		37	医療機器安全管理料	（機安）	50 ／月			○				常勤臨床工学技士1名以上、医療機器安全管理者配置
	検査	38	歯科疾患総合指導料2	（歯総指）	110 ／初回			○				歯科医師1以上、治療計画書交付、内科等連携
		39	HPV核酸同定検査	（HPV）	360 ／回			○				産婦人科経験5年以上の医師配置、産婦人科を標榜し常勤医師を配置
		40	検体検査管理加算（Ⅰ）	（検Ⅰ）	40 ／月		○		○	○	○	末梢・生化学・免疫学的検査院内実施、外部精度管理、臨床検査適正化委員会設置
		41	検体検査管理加算（Ⅱ）	（検Ⅱ）	100 ／月			○				臨床検査担当常勤医師1以上、緊急検査体制、精度管理、適正化委員会設置
		42	検体検査管理加算（Ⅳ）	（検Ⅳ）	500 ／月			○				臨床検査を専ら担当する常勤医師1以上、常勤臨床検査技師10以上、緊急検査体制、精度管理、適正化委員会設置
		43	心臓カテテル法による諸検査の血管内視鏡検査加算	（血内）	300 ／回			○			○	心臓血管外科標榜及び5年以上経験を有する常勤医
		44	神経学的検査	（神経）	300 ／週			○				神経内科標榜、所定研修終了した(神経系疾患診療経験10年以上)常勤医師1以上
		45	コンタクトレンズ検査料1	（コン1）	200 ／日			○		○		外来患者に占めるコンタクトレンズ患者の割合30%未満、院内掲示
	画像診断	46	遠隔画像診断	（遠画）	送信側で算定				○	○		受信側は画像管理加算Ⅰ又はⅡ算定、へき地医療拠点病院等
		47	単純CT撮影及び単純MRI	（単）	820・1330 ／一連			○		○	○	マルチスライスCT又は1.5テスラ以上のMRI
	投薬	48	抗悪性腫瘍剤処方管理加算	（抗悪処方）	70 ／月			○				許可病床数が200床以上の病院、化学療法の経験を5年以上有する専任の常勤医師が1名以上勤務
	注射	49	無菌製剤処理加算	（菌）	100・50・40 ／日					○	○	2名以上の常勤薬剤師、対象患者等
		50	外来化学療法加算2	（外化）	420 ／回			○		○		専用の病床を有する治療室、経験を有する専任常勤看護師、専任常勤薬剤師
	リハビリテーション	51	脳血管疾患等リハビリテーション料・医（Ⅲ）	（脳Ⅲ）	100 ／単位			○		○	○	専任常勤医師及び専従常勤理学療法士1以上、定期カンファレンス等
		52	運動器リハビリテーション料・医（Ⅰ）	（運Ⅰ）	170 ／単位			○				専任医師及び専従理学療法士2以上、定期カンファレンス等
		53	運動器リハビリテーション料・医（Ⅱ）	（運Ⅱ）	165 ／単位					○	○	専任医師1名以上、専従常勤理学療法士又は常勤作業療法士いずれか1名以上、定期カンファレンス等
		54	呼吸器リハビリテーション料・医（Ⅰ）	（呼Ⅰ）	170 ／単位			○		○	○	経験専任常勤医師1名以上、専従理学療法士2以上、定期カンファレンス等
		55	精神科作業療法	（精）	220 ／日							専従の作業療法士1名以上、患者数は作業療法士1名に対して50人、専用施設等
		56	精神科ショート・ケア「大規模なもの」	（ショ大）	330 ／日	○						精神科医師及び専従する3人の従事者、専用施設等
		57	精神科ショート・ケア「小規模なもの」	（ショ小）	275 ／日			○				精神科医師及び専従する1人の従事者、専用施設等
		58	精神科デイ・ケア「大規模なもの」	（デ大）	700 ／日	○						精神科医師及び専従する3人の従事者、専用施設等
		59	精神科デイ・ケア「小規模なもの」	（デ小）	590 ／日			○				精神科医師及び専従する2人の従事者、専用施設等
	精専	60	医療保護入院等診療料	（医療保護）	300 ／回	○		○				常勤指定医1名以上、行動制限最小化に係る委員会、職員を対象とした年2回研修会
	処置	61	エタノールの局所注入	（エタ甲）	1,000 ／回					○		甲状腺治療に関し、専門の知識及び5年以上の経験を有する医師が1名以上、カラードプラーエコー（解像度7.5MHz以上）を備えている。
		62	透析液水質確保加算	（透析水）	10 ／回			○				月1回以上水質検査実施、水質基準を満たした透析液を常に使用、専任の透析液安全管理者1名（医師又は臨床工学技士）配置、透析機器安全管理委員会設置・管理計画作成
	手術	63	輸血管理料Ⅱ	（輸血Ⅱ）	70 ／月			○			○	輸血業務全般に責任ある常勤医師配置、専任常勤臨床検査技師1以上、輸血療法委員会年6回以上、FFP/MAP比<0.25かつアルブミン/MAP比<2
	麻酔	64	麻酔管理料Ⅰ	（麻管Ⅰ）	900・200 ／回			○		○	○	麻酔科標榜及び常勤医従事
食事療養		65	入院時食事療養（Ⅰ）	（食）	640 ／食	○	○	○	○	○	○	栄養士責任体制、適時適温
歯科		66	補綴物維持管理料	（補管）	150 ／装置	○		○				クラウン（かぶせ物）とブリッジのみに算定
		67	クラウン・ブリッジ医事管理料		150 ／装置	○		○				サービス内容院内掲示、患者への案内書等の交付